

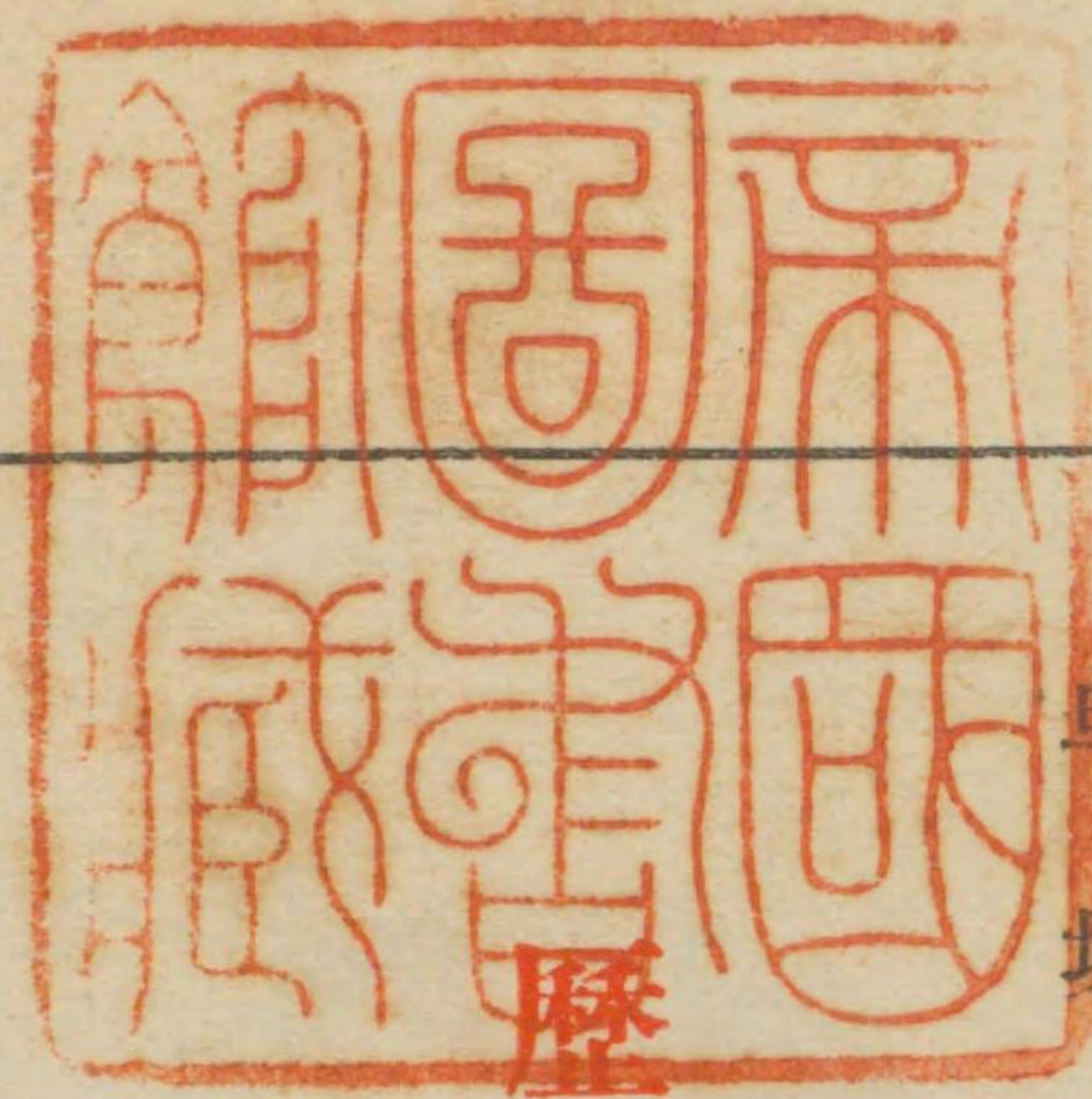
578-92



1200501520576



8. 5. 3



早坂二郎著

史を創る人々

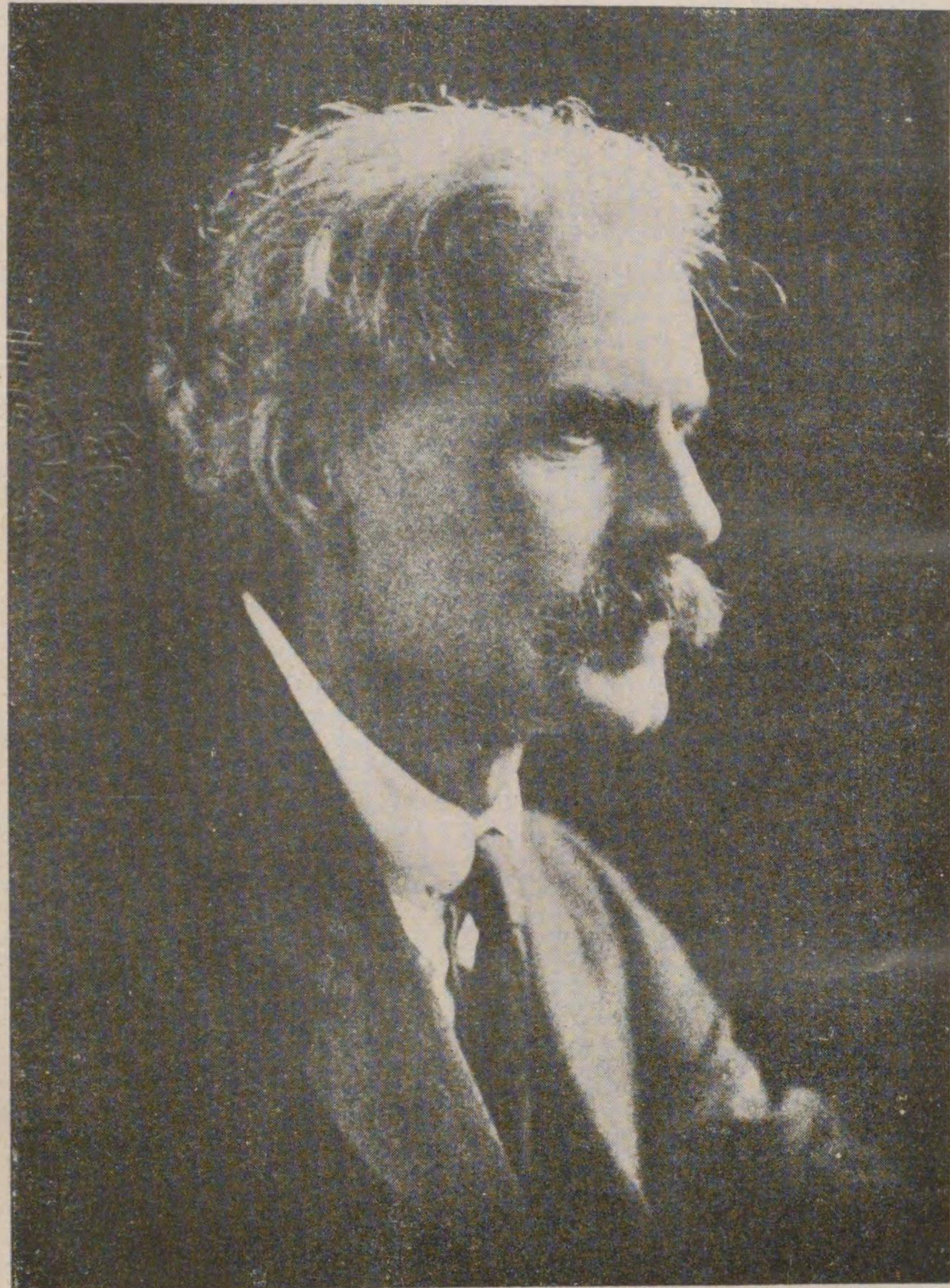
中西書房發行





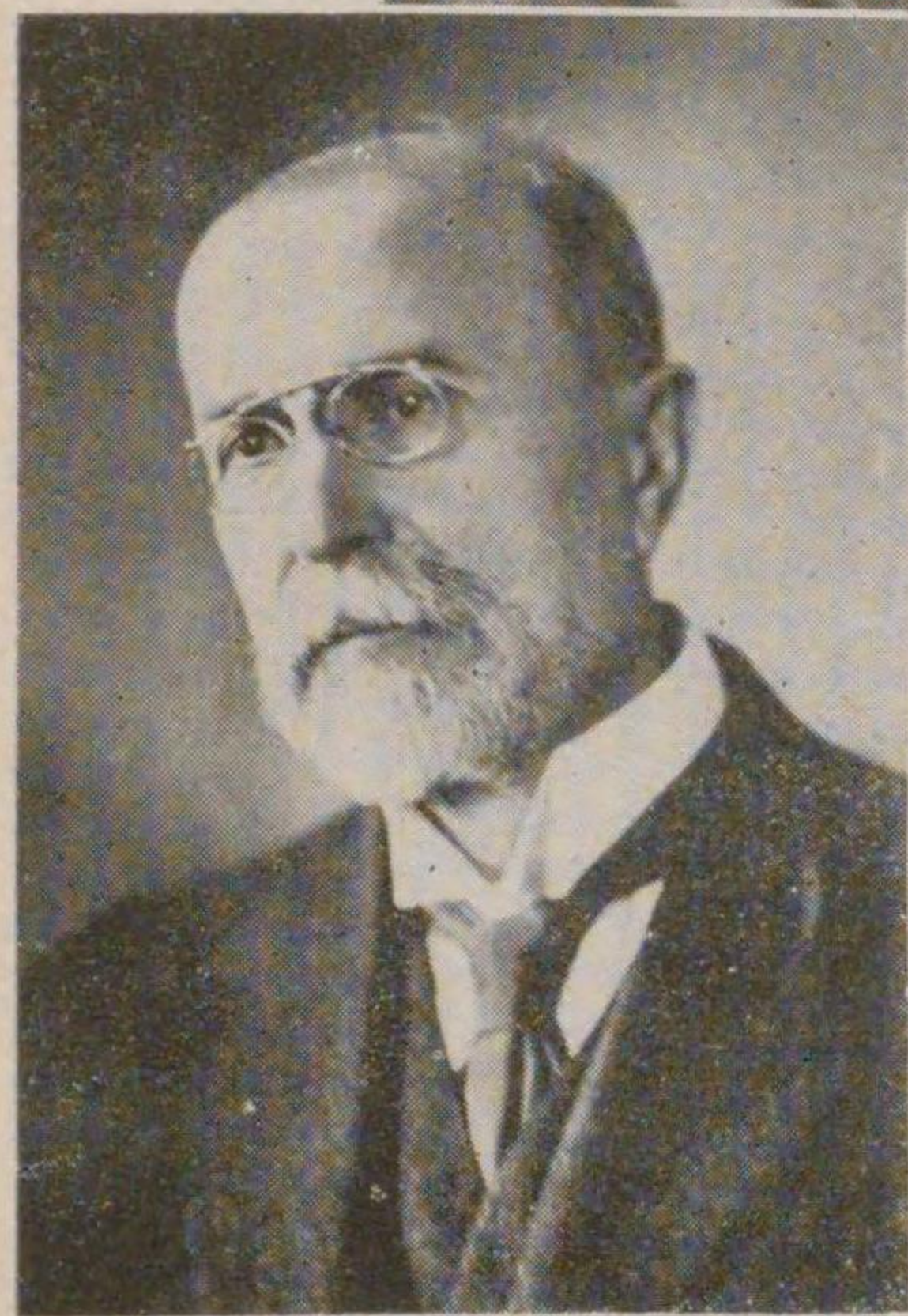
伊 太 利 首 相
ム ツ ソ リ ニ



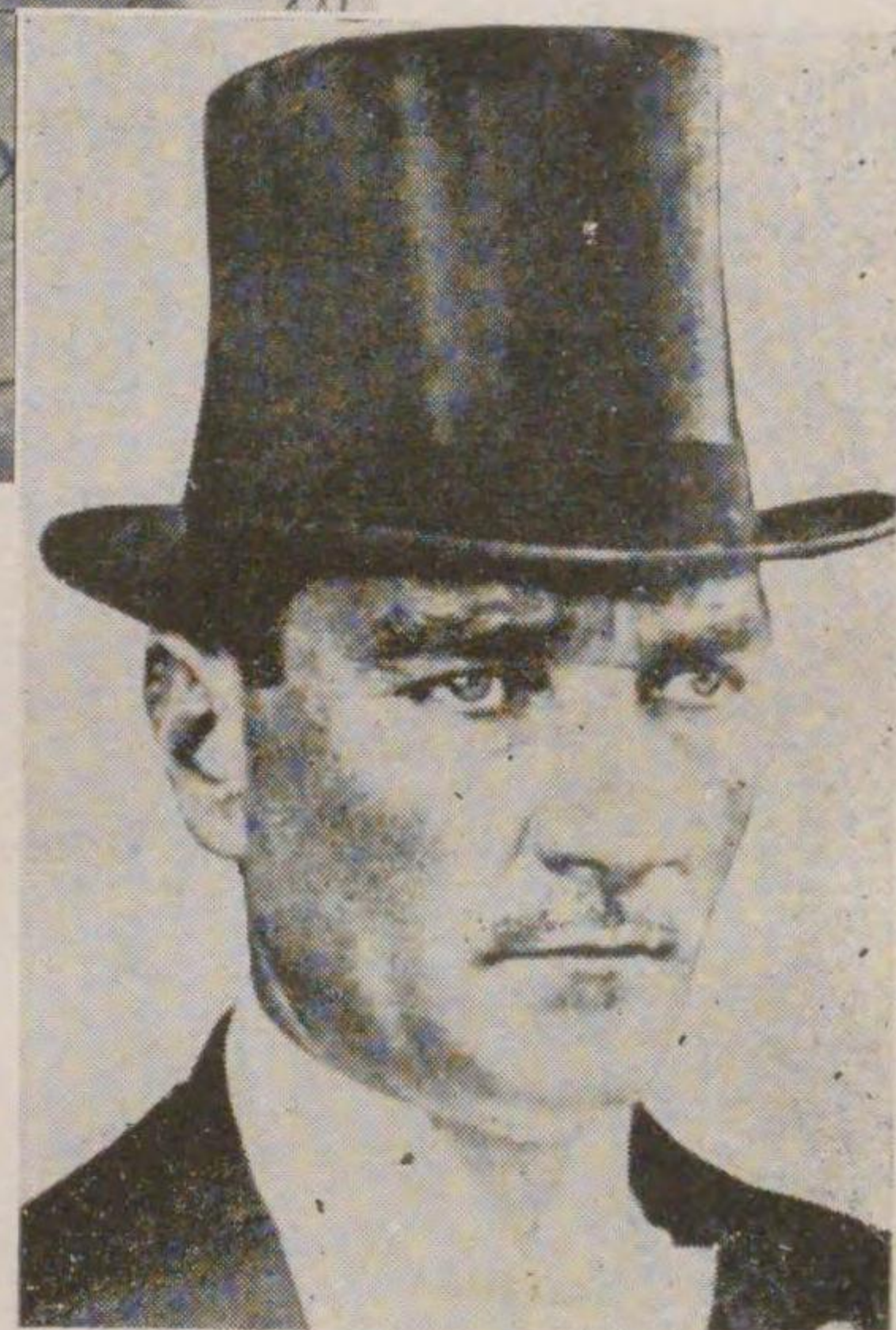


英國労働黨總裁
マクドナルド

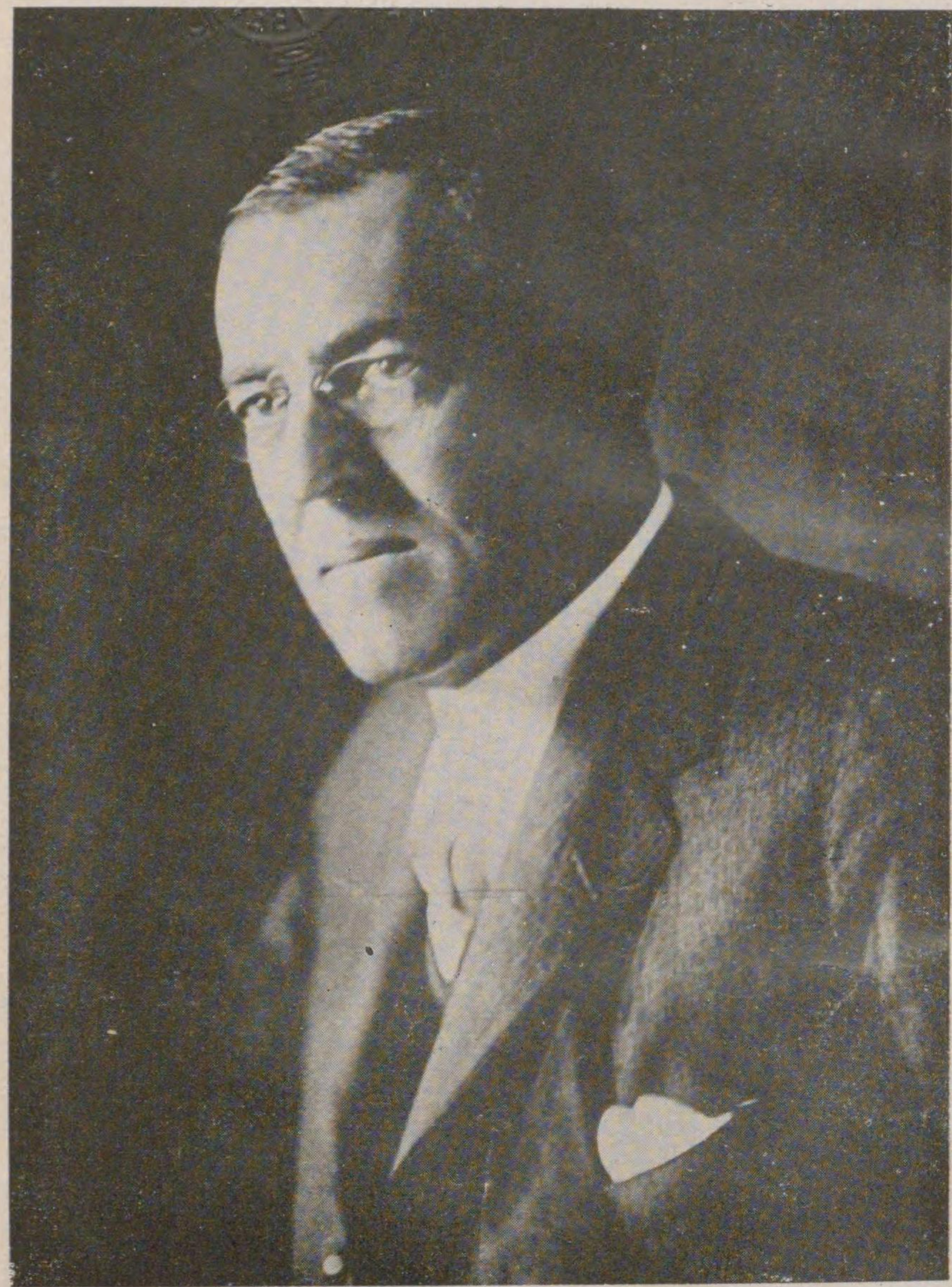
追放せられたるトロツキ



チェツク大統領
マサリツク



トルコ大統領
マケル・パシヤ



米國前大統領
ウイルソン

序

歴史は英雄の傳記であるとトウマス・カアライルは曰つたが、それには半面の眞理がある。しかし、人は解決のできる問題ばかりを問題とするとカアル・マルクスの曰つたことにも亦半面の眞理がある。ヒロイズムのカアライルのそれと、マテリアリズムのマルクスのそれとをつきまぜたらそこに歴史と英雄——或は偉人——との關係について全面の眞理が見られるであらうか。

早坂君はカアライル宗ではなささうだ、マルクス信者のにほひがする。しかも「歴史をつくる人々」と題して本書を物せるを見ては、その題名だけで既にカアライル宗に降参してをる。けだし、如何なる唯物史觀論者も英雄偉人の役割を否定することはできない。歴史が物質的原因によつて展開することを主張するものにも、英雄偉人がその展開を促進することを肯定せずにはゐられないであらう。早坂君がカアライル宗に降参したといつても、それは決して不名譽なる降参ではない、むしろ名譽の歸順である。

歴史家は現代を知らない、現代史家は歴史を知らない。これを合せ知るものは新聞記者ばかり

である。新聞記者は、その日の歴史を編むと同時に過去の歴史を纂める。優秀なるエヂタアは優秀なる史家である。

早坂君は新聞記者である、文士ならざる文章家である。わたしは最近、時代が英雄偉人を要求してをることを痛感する。そこで早坂君に請ふに英雄偉人の評傳を以てした。君はわたしの囑を究るゝや浩浩滔々、つくるなき筆致を以て現代の英雄偉人を論評すること十數家に及んだ。この書「歴史をつくる人々」がそれである。書中の人々はたしかに歴史創造の立役である、花形である。果してこの評傳が我が新愛知紙上に出づるや、新愛知五十萬の讀者は歡呼して迎へた、冊子に纏めよとの要請は諸方より湧いた。

電眼を一撃して世界を見わたせよ、世界は英雄を要求してをる、世界は偉人を招請してをる、しかもそれを大澤に要求せず、山谷に招請せず、實に草舎に要求してをる、工場に要求してをるシチーに招請し、オフィスに招請し、以て新時代の新英雄の何者なるかを、何者ならざるべからざるかを覺らすべく努めてをる。

早坂君の本書は單に現代の英雄の記録ではない。亦實に新時代に對する英雄喚起のマルセーエーズである。これを一歌して草舎に響かせよ、草舎の孩童、躍り出でむ、一歌して工場に響かせよ、

序

今日では大衆といふ言葉が大きな權威となつた。新人達の群は自分達のあらゆる行爲を大衆のためといふことによつて是認する。今や大衆が時代の英雄となつたのである。而も斯かる時代に、大衆の胸奥には、未だに明かな形態は取らないとは言へ、大衆に對する崇拜とは反對の、偉人に對する崇拜が醗釀されつゝある。偉人よ、出でよ！の慾求が各人の心に芽ぐみつゝある。これは一見すると、矛盾のやうに見える。だがこれは大衆と偉人との間に行はれる相互の作用と反作用である。

而も我々はこの新しい偉人の出現を渴望する民衆の氣持を決して偶然に發生したものと見ることは出来ない。この氣持は今日の社會に存在する諸々の缺陷によつて各人の心に生れたものである。どんな慾目を以て見るも、今日の社會には貧窮者の數が増大しつゝある。經濟上の生活は行詰りつゝある。産業の諸部門に於ける未曾有の沈衰と生産の制限が日毎に擴大されつゝある。一時の失業者は永久の浮浪者に變りつゝある。若き國民の教育を擔當する小學教員の中には、劣惡

な生活の諸條件に因つて結核性の病人が増加しつゝある。

六

斯やうな諸缺陷に充ちた社會に棲息する大衆は、散々に思ひ悩んだ末に、何人か是等の缺陷を解決し得る能力の保持者を、即ち、偉人を渴望するに至つたのである。そしてこの渴望は、他の方面から見ると、既成の政治家やステーツマンに對する民衆の期待が消滅した證據である。

然らば大衆の渴望するが如き偉人は果して出現するであらうか。我々はこれに對して必ずや出現すると答へる。何故なれば、歴史上に大きな役割を演ずる偉人は決して偶然の産物ではなくて與へられた社會の諸條件によつて要求された必然の産物であるからである。今やこの産物を要求する社會の諸條件は充分に成熟してゐるのである。

然らば今日の時代が呼出さんとしてゐる偉人とはどんなものであるか。カーライルは偉人を名づけて始める人と呼んだ。これは甘い名稱である。偉人とは洵に始める人である。何故なれば、偉人は他の人達よりも遙かに遠くを見んと欲し、他の人達よりも遙かに勇敢であることを欲するからである。偉人は前の時代が創つた新しい社會の缺陷を指摘し、この缺陷を補填する任務を自らに引受ける。

偉人は英雄である。偉人が英雄であるのは、彼が大勢の行程を引留めるかの如くに見えたり、

この行程を變更し得るかに見えたりするからではない。その反對に、彼の行動がこの必然な行程の自由な表現であるからである。此處に英雄の大きな意義があり、大きな力があるのである。

ピスマークは、我々は歴史を創ることは出来ない、我々は歴史が創られるのを待たなければならぬと言つた。だが歴史は何人によつて創られるか。それは社會的人間達によつて創られるのである。社會的人間達は自分達の社會的關係を創る。社會的人間達は一の時代には一の社會的關係を、他の時代には他の社會的關係を創る。これには原因がある。即ち、與へられた時代の社會的關係はその社會の生産力の状態に制約されるのである。如何なる偉人もこの状態に對應しなくなつた舊い關係を社會に強制することは出来ない。この意味に於て偉人は歴史を創ることが出来ないのである。この場合に、偉人が時計の針を後へ廻さうとしても、それは不可能である。ピスマークが勢力の絶頂にあつた時も、獨逸を舊き經濟的形態に引戻すことは出来なかつた。

だが社會の生産力の變動に伴つてその社會的關係が如何なる方向に變更しつゝあるかを知る者は、如何なる方向に社會的心理が變更しつゝあるかを知ることが出来る。これを知る者は聽て一般の社會的心理に影響を與へることが出来るのである。社會的心理に影響を與へることは即ち歴史的事件に影響を與へることである。これが我々の名づくる偉人である。この意味に於て偉人は

七

歴史を創り得るのである。斯くて、偉人はビスマークの言ふ如く、歴史が創られるのを待つ必要を感じないのである。蓋し始める人達に取つてのみ偉人達に取つてのみ、廣い活動の原野が開かれてゐるからである。

今や大衆の胸奥には、各自の屬する階層に依つて、我が維新の偉人達が外國の英雄達が、ムツソリニやレーニンやケマル・パンヤが甦りつゝある。偉人や英雄は必ずや歴史の新しい章が繙かれる時に出現するものである。我國でも將に歴史の新しい章が繙かれやうとしてゐるのである。そしてこの新しい章を最初に繙く任務は大衆の行く手を明白に見得る眼を持ち、大衆の心を如實に聽き得る耳を持ち、自分の心臓を以て隣人を愛し得る者でなければならぬ。そして斯かる眼と斯かる耳と斯かる心臓を有する者は非常に大膽でなければならぬ。何故なれば、歴史の新しい章を繙くことは、場合の大多數に於て、健康を、生命を要する仕事であるからである。その上に、この仕事は大きな仕事である、大きな仕事は只で完成されるものではない。

如上の觀角下に我々は『偉人』を眺める。如上の觀角下に我は同時代の『英雄』を求める。斯かる時に、我が畏友の尾池君は、『新愛知』紙の編輯長として、將來を洞見するために過去の歴史を研究する生きた史論家として、我が社會の底に醗酵し始めた『偉人』の探求を、『英雄』へ

の目指しを捉へた。そして、或る日、現代の世界に強く行動してゐる人々の傳記と評論を早坂氏に書かせたいことを私に提案した。私は尾池君の敏感に驚いた。操觚者としての洞察力に駭いた尾池君は實に私の胸奥に浮動し始めた、けれども、未だに明白な結晶となつてゐない社會の意嚮を的確に捉へてゐるのである。而もその筆者として早坂氏を擇んだことは私の驚駭を倍加した。

早坂氏に就て私の知る所は餘りに多い。氏は私の新聞路に於ける同伴者である。時代の動向をその胚芽中に把握し、社會の諸現象をその完全な姿で看取する氏の能力は、優秀なジャーナリストとしての能力は新聞路の同伴者である私を常に感心させてゐたものである。而も氏は、この數年間に流れ行く歴史の上に重要な役目を演ずる人々の、『偉人』の批判者として秀れた技倆を發揮して來た。さうだ、氏は今やステーツマンや社會の活動家に對する鋭い鎗の持主として立現れたのである。だが氏の批判は、從來の賣文家に有勝な第三等級の『人物評』ではない。彼の鎗は凡俗な『人物傳』や『人物評』の範疇から金輪際に脱け出した新範疇の傳評である。

早坂氏がその鋭い鎗先を以て此處に書きつらねた人々はそれ／＼に種々の國家を代表する人々である。此處にはキャピタリズムの老境を、キャピタリズムの最近の段階を歩いてゐるヨーロッパの諸國を脊負ひ立つ人々がある、此處にはソシアリズムの建設に精進する國の功勞者がある、

此處には農業國から工業國への迅速な足どりを以て進んでゐる國々の、植民地から獨立國への梯子段を大股に登りつゝある國々の代表者がある、此處には大戰後にその名を現した民族の代表がある。相異なる發達の段階に立つてゐる是等の國々はそれ／＼の段階に相當する『英雄』を必要とし、その必要に相當してそれ／＼の『偉人』が活潑に働いてゐる。早坂氏は是等のチャンピオンを科學上の分析と生きの好い筆致と深い興味を以て或は描き或は説いてゐる。さればこの『歴史を創る人々』が『新愛知』の紙上に出現するや、多數の讀者から情熱の喝采を以て迎へられたことは洵に無理由ではない。私は著者の一友人として、本書の出現に熱い乾盃を献けるものである。

富 士 辰 馬

自 序

社會的動物である人間は、常にその營む社會の態様に應じて、夫々の時代の指導者をつくり、偉人英雄を生む。

原始共產主義の社會、遊牧民、原始農業の社會にあつては、夫々經驗徳望に富む長老が一族の指導者となり、掠奪鬭争を事とする野蠻蒙昧な社會にあつては、武力衆に勝るゝ者が偉人英雄として崇められた。

ある人たちの理想とするやうな、強權なき絶對自由人の社會が遠い將來に於て實現されると假定して見ても、例へば各人の自由意志のみによつて矢鱈に汽車を發車させれば到るところで衝突の椿事を惹起す惧があるから、どうしても汽車の時間割だけは作らなければならないと同様に、いくら自由人だけの社會であつても、社會全體としての運行と向上を促制する楨杆の役目が、世話人のやうな受托者が必要であることだけは想像されやう。それが取も直さず、その理想社會の時代に於ける指導者であり、偉人英雄である。

即ち偉人英雄の觀念は、苟くも社會の存するところ、常に何等かの形で現はれるものであるから、これを人間と同時存在の觀念と見ることは敢て不當であるまい。

しかし、或る社會の偉人英雄をもつて來て、直ちに時間と空間とを異にした他の社會の偉人英雄でもあるやうに早呑込することは、或る場合には非常な危険を包藏する混同となる。例へば、戰國霸道時代の英雄をそのまま現代の國際協調時代にあてはめやうとするが如き、或は純粹に露西亞的なる共產主義の偉人を、どこまでも伊太利的なるファシズムの英雄を、一切の社會的條件を無視して直ちに他の社會に移植しやうとするが如き試みがそれである。固より偉人英雄の力には時間と空間を超越するものがあるから、それは必ずしも不可能ではないかも知れないが、少くとも或る一定の社會的條件が蓄積され、成熟するまでは無理であることを免れない。

偉人英雄といふものは、突變的な空想的な存在ではなく、社會意識の最も必然的な現實的反映だからである。

然らば時間と空間を同じうする一人の偉人英雄は、同時にその社會を構成するすべての人々の偉人英雄であり得るかといへば、必ずしも常にさうではない。過去に於ては、さうであつた時代もあつた、否少くともさうであつたやうな外觀を呈し、或は爲政者や史家の手心がさう見せかけ

た時代があつたことは確かである。

しかし、今日に於てはどうであらう？

佛蘭西革命によつて民衆の政治的解放の火蓋は切られたが、民衆の經濟的桎梏は、産業革命以來その最後のコースを急激な亂調子で狂奔始めした。令や資本主義はその最後の段階たる帝國主義の爛熟期に入り、無産階級は世界的に團結してその攻勢に對抗せんとし、階級闘争は國內的にも國際的にも時々刻々尖鋭化しつつある。

陣營は明かに眞二つに割れてゐる。そして、それは眞正面からの、火花を散らす利害の衝突であり、社會理想の妥協を許さざる對立である。かういふ時代にあつては、國と時代を同じうするといふだけの理由によつて、同一の偉人英雄が兩方の陣營から同様に尊信を受くべき道理は斷じてない。一方の偉人英雄は、他方の仇敵、惡魔であり、こつちの陣營の果敢なる闘士、指導者は、あつちの陣營からは煽動者、危険人物の烙印を捺される。

この事は、支配被壓迫の權力關係を基調とする國際生活に於ても同様で、亞細亞の叛逆は支配者たる白人には宥すべからざる平和の攪亂であり、被壓迫民族解放の運動は有無を言はず武力を以て暴壓すべき「赤化運動」なのである。かくの如き狀勢は、必然的に被壓迫民族を無産階級

戦線内に包容せしめ、相携へて支配階級の陣營に肉薄せしめるのである。

茲に於て我々は、更めて心眼を見開き「我等の英雄」の首實檢をしなければならぬのだ。

英雄を求める聲は、今、都會にも農村にも、教室にも事務所にも、將たまた政界にも産業界にも充ち満ちてゐる。

けれども我々は、たゞ漫然とその名だけを求めてはならない。眞に自己の要求を充たし、心から大衆の聲を叫ぶ人であるかどうかも見定めずに、盲目的に跪くの愚を演じてはならない。

既成の政治家に對する信頼は地に墮ちた。舊き偶像の權威は泥土に委せられた。そんなことは炯眼なる「次代を創る人々」の決して見逃さないとこだ。けれども、積極的に、何人が眞に「我等の偉人」であり、「英雄」であるかを見定めるには、多少の遲疑逡巡を伴はないとはいへないかも知れぬ。

私は、さういつた多くの人々に呼びかけた。我等の英雄、偉人」を發見する前に、先づ自己の相を靜視せよ！そして、自分がこつちの戦線に起つてゐるか、あつちの陣營に屬してゐるかを、はつきりと決定せよ！崩壊の課程を急ぎつゝある階級の一分子か、限り無き未來を約束された階級の同志の大衆の一人であるかを最終的に結着せよ！さうすれば、一切の迷妄と誤算は

吹き拂はれて、そこに眞に自分の求める偉大なるものを見出すことが出来るであらう。

そして、私は更に十層倍も大きい聲を以て叫びたい。自分の見定めた英雄には、自分の血が通つてゐるのだ、自分の脉が搏つてゐるのだ。偉人英雄は、白紙に線を引くやうに自分一個の力で歴史を創つて行くのではない。我等の血が、脉が、我等の要求が、社會の必要が、彼を踊らせ、彼に圖を引かせるのだ。彼を支持する大衆こそ、眞に歴史を創る者だと。

我等は、この意氣と信念に燃え、何ものにも囚はれずに、「英雄」觀念の清算を決行しなければならぬ。そして、その後こそ、世界の歴史を一變せしむる新英雄主義の大磐石が据えられるのだ。

それと同時に、我等の眼差は更に更に高く昂揚する。偉人英雄と雖も、決して手の届かぬ中空に舞上つてゐるのではない。彼の足は地を踏み、彼の魂はもつと手近に、否この我の中に呼吸してゐるのだ。彼は私の参加なくして彼ではあり得ない。彼は彼でなくて、遂に我なのだ。

私は、靜かに自分の周圍を見渡す時、油に塗れ、土に汚れ、簿記の筆とり教鞭を握り、或はまた一枚の板子に生命を托し、千尺の坑底に裸形をさらす人々の間に、既にさういつた確信を秘めて、黙々と次の時代への營みに精進しつゝある多くの若人を見る。

偶ま畏友尾池義雄氏よりの囑に會し、現に世界を動かしつゝある最大級の人傑の評傳を、氏の主宰する新愛知新聞に執筆する事となつた時、私はこれを以て、時代に先驅せんとする人々、次の時代を創る人々に呼びかける絶好の機會であると考へた。

そしてふるへるやうな期待をその人々にかけてつゝ、既成の英雄達の心臓に喰入らうとつとめた。過去を語るは、決して過去のためではない、大衆自らが舊き權威を評價し直し、偶像を破壊して、そこに新しき價値を創造せん事こそ、著者が衷心よりの願なのだ。

眇たる此の小冊子、幸にも「時代」の胎内に呼吸しつゝある「新しき英雄」達の群に一人半人をでも増加へる機縁となつたならば、誠に望外の喜びであると共に、病を穫て一年有餘、焦心家居して何等爲すところなかつた著者のせめてもの慰藉でもある。

最後に、本稿執筆の動機を與へられた尾池義雄、富士辰馬兩氏、執筆に際して多大の援助を與へられた堀敏一、加藤萬壽男兩氏及び装幀の勞をとられた有馬まゆみ氏に對して、心から感謝を捧げる。

昭和三年二月二十日、最初の普選を迎へた日

早坂二郎

凡例

- 一、本書の正篇は昭和二年十一月より昭和三年二月に亘り名古屋新愛知新聞紙上に連載したものであるが、クレマンソー、ストレーゼマンの二篇だけは別に執筆追加した。
- 二、新愛知社の囑が現存の國際的偉人といふことであつたので、特にこれ等の人物を擧げるに止めた。著者最初の意圖は、世界大戰以後を劃期したレーニン、ウイルソン、孫文の三人をも評説する積であつたが、レーニンはトロツキーを以て、孫文は蔣介石を以て彷彿せしめることとし、ウイルソンは附録として舊稿を収めた。
- 三、附録六篇は、大部分國際聯盟協會機關雜誌「世界と我等」に執筆したものであるが、故人もあり、且つ主として聯盟關係の活動を紹介せんとしたものであるから、別に纏めて「聯盟を廻る人々」と題した。
- 四、執筆の時期は昨年（昭和二年）に溯るが、各篇とも今年三月に至るまでの新材料を追加して内容の新鮮を期した。
- 五、年代及び年齢はすべて昭和三年（一九二八年）を基準とし、年齢は特に斷らない限りすべて日本式の算へ年を以て表した。

凡自序序
例序文文 目

次

真 寫

- ムツソリニ
- マクドナルド
- トロツキ
- ケマル・パシヤ
- マサリツク
- ウイルソン

尾池義雄
富士辰馬

一、土耳其中興の雄ケマル・パシヤ……………一

- 一、死灰に羽ばたく鳳凰
- 二、地底の運動
- 三、革命より大戦へ
- 四、虎を野に放つ
- 五、土耳其の新主人
- 六、新土耳其の脉搏
- 七、新首都アンゴラ
- 八、悲戀の人

二、支那國民革命の總師蔣介石……………二七

- 一、東洋の那翁
- 二、孫文の傘下に
- 三、嚴師慈父
- 四、孫蔣の交
- 五、三民主義に生きる大衆の英雄
- 六、再起の日來る

三、復興亞細亞の闘士リザ汗……………四六

- 一、亞細亞の叛逆
- 二、風雲を望む貧農の子

- 三、クーデターより無血の革命へ
- 四、王位に登る
- 五、或る日のリザ汗

四、チエツクの建國者マサリツク……………六〇

- 一、ソコル祭の大胸像
- 二、悲壯なる獨立運動
- 三、知的革命の導火線
- 四、正義に立つ
- 五、祖國の獨立遂に成る
- 六、非英雄的英雄

五、レニンの片腕、没落のトロツキ……………八二

- 一、進行中の革命
- 二、没落の清黨劇
- 三、運命の循環
- 四、專制を呪ふ叛逆兒
- 五、最初の流刑
- 六、ツァーを向ふに初陣の革命
- 七、西伯利亞へ終身流刑
- 八、最後の勝利は來る
- 九、トロツキは何處に往く?

六、墨西哥を建直した大統領カイエス……………一一三

- 一、珍しや平和裡の就任式
- 二、教鞭を棄て、革命の巷へ
- 三、建設的革命即政治
- 四、革命家の基督を目標に

四

七、西班牙の獨裁官プリモ・デ・リヴェラ……………一二八

- 一、無血の革命
- 二、革命の前景
- 三、没自由郷
- 四、アンダルシア氣質
- 五、西班牙の救世主
- 六、分離派地獄
- 七、獨裁政治のレーゾン・デートル

八、ファツシヨ伊太利の礎石ムツソリニ……………一五三

- 一、赤い糸黒い糸
- 二、勝利の悲哀
- 三、鍛冶屋の倅
- 四、世界を眼蒐けて

五、放浪生活

六、社會黨隨一の闘士

七、昨日の友今日の敵

八、一伍長の出征

九、ファツシヨの結盟

一〇、羅馬進軍

一一、光榮輝く日

一二、木乃伊の陳列場

一三、一人で六大臣

一四、腕のムツソリニ

一五、償金の取引

一六、ファツシヨ外交の波紋

一七、テロリストの暴風の革命

一八、生めよ殖えよ

一九、國民は國家の道具

二〇、ファツシスタの黨員生活

二一、民衆を駕馭して

二二、家庭の人としての彼

二三、世界を二分する者

九、印度解放の先驅、聖雄ガンデー……………一二三

- 一、二つの相
- 二、愛と叛逆の血
- 三、文明の假面を剝ぐ
- 四、無抵抗の抵抗

五

- 五、悲愴なるトランスヴァール侵入
- 六、邪惡との「非協同」
- 七、ガンヂーの引退と印度の辿る道

六

一〇、佛蘭西「戦勝の父」クレマンソー……………二五七

- 一、戦塵に塗れた老翁
- 二、少年復讐の誓
- 三、戀の若人政海に乗出す
- 四、「内閣破壊者」の組閣
- 五、祖國の興廢を双肩に
- 六、引退を誘ふクライマックス
- 七、佛蘭西のデモステネス
- 八、戦債問題に投じた一石

一一、獨逸更生の國手ストレーゼマン……………二八三

- 一、頹爛を既倒に翻へす者
- 二、實業界より政界入り
- 三、首相から萬年外務大臣
- 四、新歐洲精神の具現者
- 五、世界平和の新しき炬火
- 六、平和に伸びる生命

一二、新英國の象徴マクドナルド……………三〇四

- 一、記録破りの組閣
- 二、蘇克蘭のナポリ
- 三、青雲の志
- 四、落選の勝利
- 五、労働黨の生誕
- 六、暗黒時代を闘ひ抜いて
- 七、眞理の顯るゝ日
- 八、新英國の描く曲線

附録 聯盟を廻る人々……………三三二

一三、國際聯盟創始の恩人ウイルソン……………三三三

- 一、人類の惱を救ふ
- 二、政治家志望の動機
- 三、講壇より政海へ
- 四、大統領ウイルソンと世界大戰
- 五、聯盟に生き聯盟に死す

七

一四、北歐平和の闘士ブランチング……………三四六

- 一、國王の學友
- 二、社會主義政治家への轉換
- 三、社會黨内閣を組織
- 四、聯盟を舞臺に
- 五、死後に生きる生命

一五、チェツク獨立の闘將ベネシユ……………三六一

- 一、血で綴られた獨立運動史
- 二、獨立を圖る愛國的學者
- 三、決死の國境突破
- 四、輝く三色旗と想出の薔薇の間
- 五、ベネシユのチェツク

一六、聯盟最初の提唱者スマツツ將軍……………三七六

- 一、國際聯盟最初の産地
- 二、牧場より大學へ
- 三、ポーア戦争と南阿聯邦の建設
- 四、生ける聯盟精神

一七、軍縮の第一線に起つセシル……………三八四

- 一、積極的な辭職
- 二、大政治家の裔
- 三、聯盟創始者の一人として
- 四、軍縮と平和への努力

一八、聯盟の最前線に起つナンセン博士……………三九二

- 一、聯盟の一大異彩
- 二、國際政局に起つ
- 三、人道の一兵卒としての業績

装 幀

有馬まゆみ氏

歴史を創る人々

一八、新羅の興隆と百濟の没落……………三八二

一九、新羅の統一と百濟の統一……………三八四

一七、新羅の統一と百濟の統一……………三八四

一六、新羅の統一と百濟の統一……………三八四

一五、新羅の統一と百濟の統一……………三八四

一四、新羅の統一と百濟の統一……………三八四

一三、新羅の統一と百濟の統一……………三八四

一二、新羅の統一と百濟の統一……………三八四

一一、新羅の統一と百濟の統一……………三八四

一〇、新羅の統一と百濟の統一……………三八四

九、新羅の統一と百濟の統一……………三八四

八、新羅の統一と百濟の統一……………三八四

七、新羅の統一と百濟の統一……………三八四

六、新羅の統一と百濟の統一……………三八四

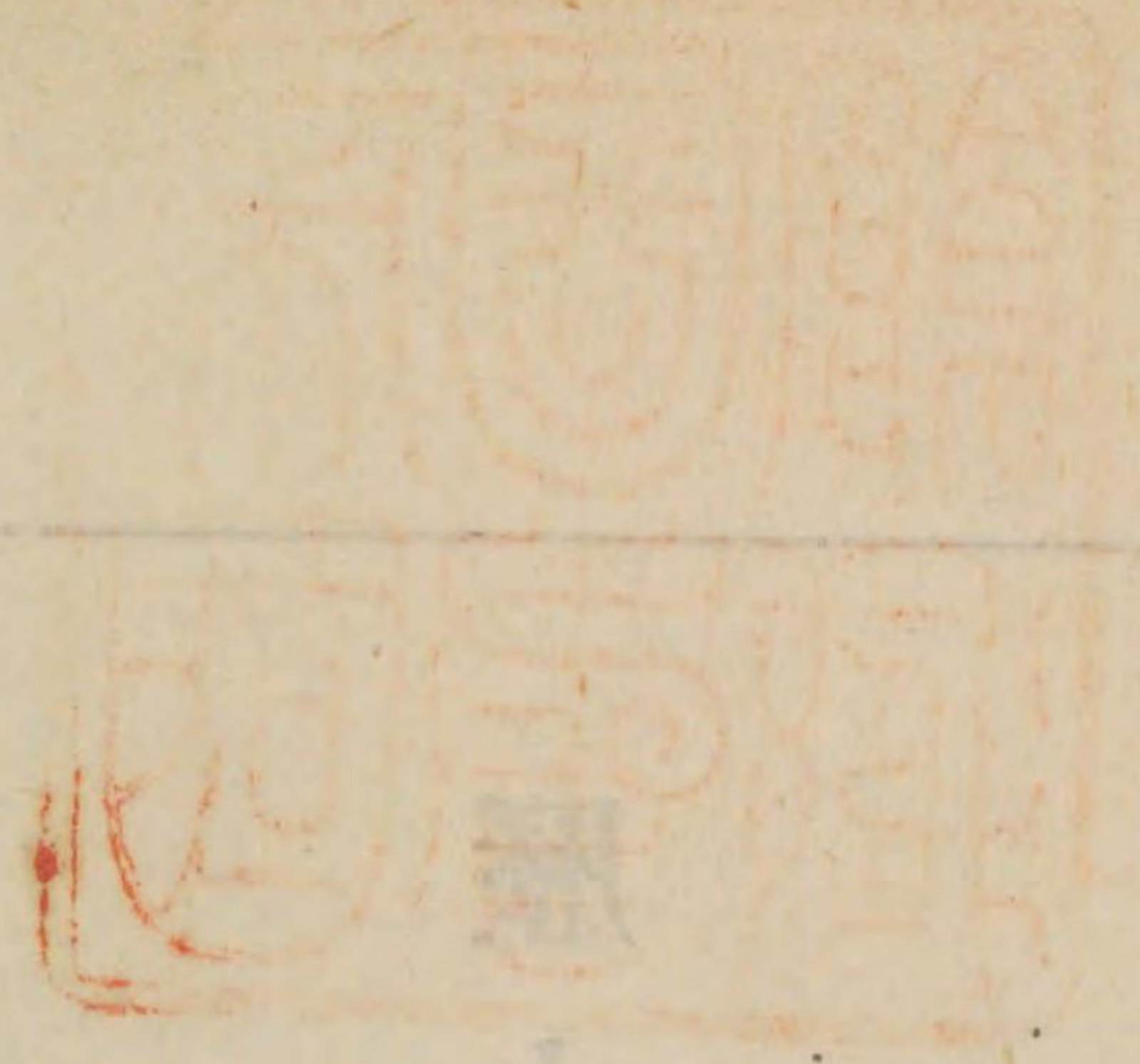
五、新羅の統一と百濟の統一……………三八四

四、新羅の統一と百濟の統一……………三八四

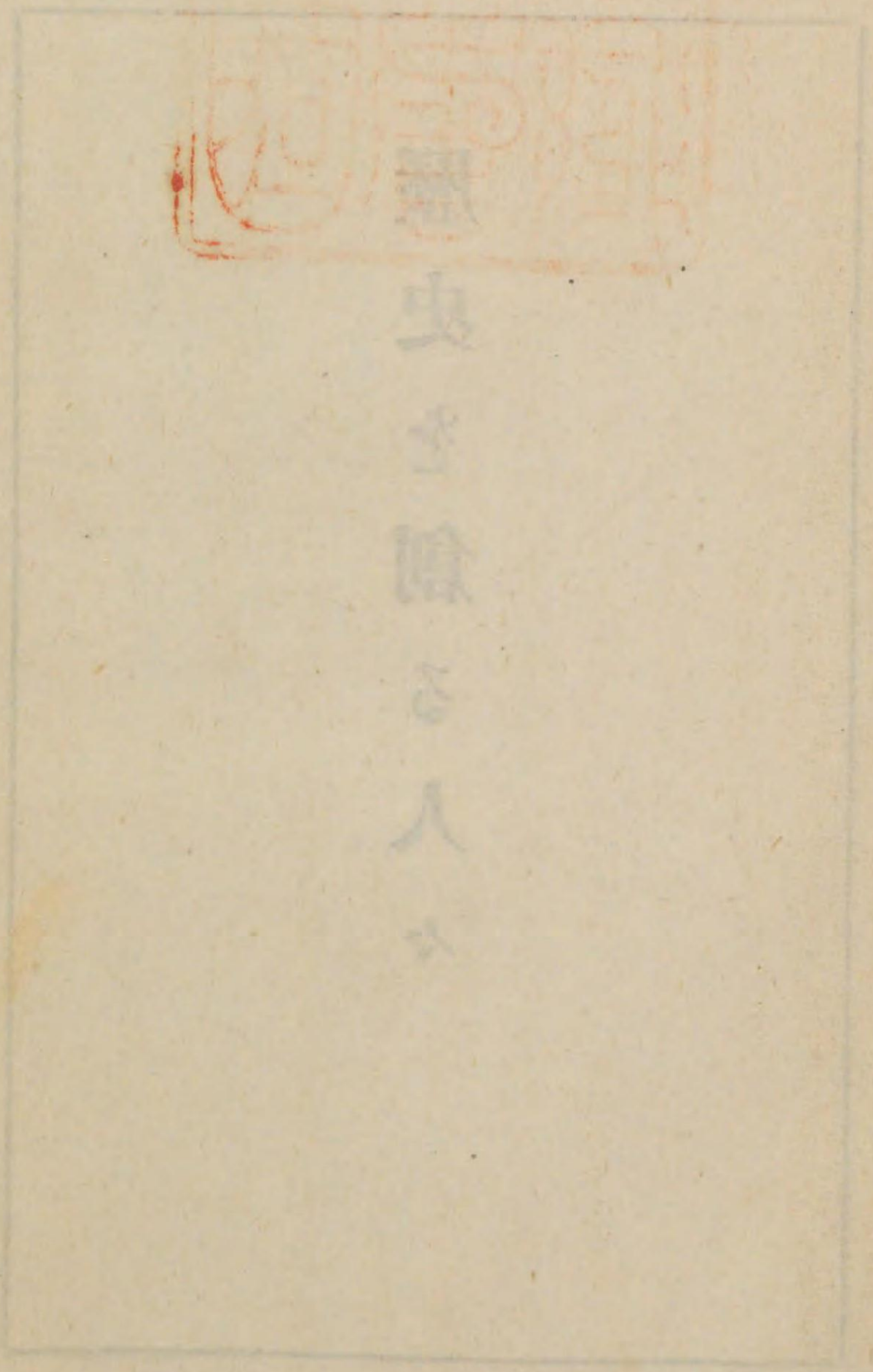
三、新羅の統一と百濟の統一……………三八四

二、新羅の統一と百濟の統一……………三八四

一、新羅の統一と百濟の統一……………三八四

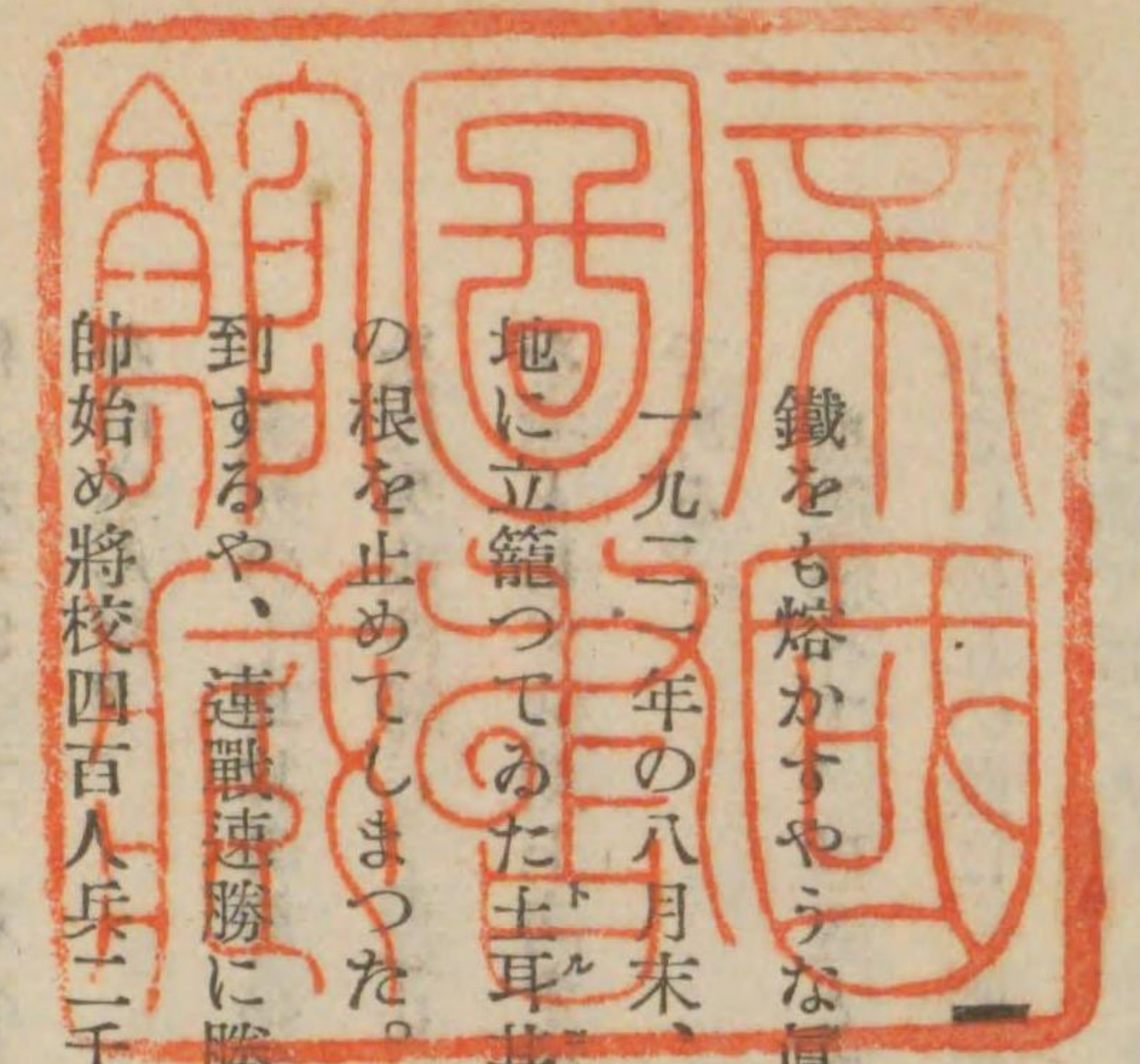


史を論ずる人々



土耳其中興の雄ケマル・パシヤ

死灰に羽ばたく鳳凰



鐵をも熔かすやうな眞夏の太陽が、烈々として小亞細亞の大草原を燬き盡さうとしてゐる。

一九二一年の八月末、スミルナ方面から潮の如く侵入して來た希臘軍を迎へて、小亞細亞の奥地に立籠つてゐた土耳其軍は俄然攻勢に轉じ、サカリヤ河畔に於ける最後の大決戦に美事敵の息の根を止めてしまつた。この日精悍無比なる二萬の土耳其騎兵集團が疾風の如く砂塵を捲いて殺到するや、連戦連勝に勝誇つた希軍の總司令部は忽ちの中に包圍され、總司令官トリビークス元帥始め將校四百人兵二千、師團長も旅團長も聯隊長も根こそぎ捕虜になつてしまつたので、大砲も飛行機も投り出し、全軍支離滅裂の總退却をなすより外はなくなつた。

この不面目極まる敗戦の結果、希臘のプロバタキス内閣は直に總辭職をなし、後繼内閣のお鉢は二人にも三人にも廻されたが、誰もオイソレと引受け手が無い。その中に土耳其軍はスミル

ケマル・パシヤ（土耳其）

ナを奪還して希臘軍を完全に小亞細亞から追拂ひ、進んでコンスタンチノーブルを衝く勢ひを示した。かうなつては、土耳其分割の野心から希臘の尻押をしてゐた大英國も策の施しやうがない。仕方がないので、君府を占領してゐた列強の代表者は顔を揃へて、どうぞ穩便にと不體裁な休戦を申込んだ。

瀕死の土耳其の首ねつこを押へつけて、ギュー／＼言はしてゐた英國の近東政策はかくして完全に失敗に歸し、土耳其は墓穴の中から必死の力ではねかへつた。復興土耳其の運命は、此の決戦を境として俄然上向き始めた。サカリヤの一戦こそは實に土耳其の死命を制する關ヶ原だつたのである。

血戦終へて、砂塵と血と汗に汚れた二萬の士卒が、長劍胸に、露に打たれてまどろんでゐる時、小さい砂丘の蔭に一團の幕僚を集めた長身瘦軀の一將校は、星も稀なほの暗がりの中に、儼然たる口調で言つた。

「我等は飽くまで土耳其人の土耳其のために戦はなくてはならない。疲れて寝てゐる兵士たちには氣の毒だが、祖國復活のために暫くその貴重な眠りを捧げて貰ひたいのだ。サアこれから追撃だ。全員戦闘準備！」

幕僚は四方に散つて、麾下の全軍は勇躍して馬上の人となつた。命令を傳へたその將校は軍の先頭に起つてサツと長劍を閃かせた。追撃、また追撃、息つく暇もあらせず、希臘軍を蹴散らしたのは實に彼が勇略と智謀であつた。

彼とは誰か？ 今土耳其共和國大統領として、復興土耳其の運命を双肩に荷つてゐるムスタファ・ケマル・パシヤその人である。

曾ては歐亞弗に跨がる大帝國として、三百年に亘る久しい間歐洲を震撼せしめた雄邦も、一六三八年維因の包圍に破れてからは勢威日に衰へ、二十世紀に入つては二回に亘るバルカン戦争のために歐洲領土の大部分を失ひ、世界大戦に獨塊側に與して慘澹たる敗北に終つた結果衰殘の老帝國は皮を剥かれ手足をもぎ取られて、將に最後の息を引取らんばかりの慘めな有様となつた。

この危機一髪を斷末魔に臨んで、敢然祖國を滅亡の淵より救ひ出し、あせ行く新月旗に再び燦たる光芒を放たしめたのは實に彼ケマルである。

不死の靈鳥フェニックスは自ら焚いて、その死灰の中から中天に羽ばたき去るといふ。復興の土耳其は正しく死灰の中から飛立つた鳳凰である。

二 地底の運動

ムスタファ・ケマルは青年の間では「鐵の人」、或は「鐵血將軍」と稱せられ、土耳其のピスマーク、亞細亞の那翁と世界から畏れられてゐる。

が、一寸見ると彼の風采にはどうも東洋人らしくない所がある。皮膚は淡灰黄色だが、柔かいブロードの頭髮は後へ撫でつけられ、顔色は蒼白く、背がスラリと高く、眼は灰色だ。全體に華奢なほどに優しく出來た姿は、武將といふよりは米國育ちの敏捷な事業家といつたやうな印象を與へる。それには色々理由がある。

彼は今から四十八年前、當時まだ土耳其領であつた地中海の有名な商港サロニカに生れた。父は退職の元稅關吏で、當時材木商と輸出商を營んでゐた土耳其人であるが、母はアルバニア人で、彼の身體の中にはサロニカ生れの土耳其人の多くと同じく、希臘人猶太人の血も雜つてゐた。

父はケマルが生れた年、彼と三つ上の姉とうら若い未亡人を後に殘して病魔の手に仆れた。僅ばかりの遺産によつて二人の遺兒を小學校だけは卒業させたが、母は心細い將來の事を思つて男の兒を回教の僧侶にしようと思つた。けれども小さい時から腕白者の彼は、坊主なんていやだと

駄々をこね、誰がなんといはうと軍人になるんだと言つて頑張つてゐたが、十三の時母には内密でモナスチールの陸軍士官學校豫科の試験を受けると美事に合格してしまつた。かくして彼は土耳其で最も尊い職業とされる軍人生活に一步を踏みこみ、二十三の年には君府の陸軍大學を卒業して天晴れ肩で風切る青年將校になり濟ました。

日本では近頃帝大が「危険思想」の養成所として睨まれてゐるが、面白いことには土耳其では此の士官學校がいつも革命思想の苗床と刻印を打たれてゐる。現に一九〇八年の青年土耳其黨の革命は、一八九八年度と一九〇二年度の同期生が指導者となつてやつたもので、前者の牛耳を執つたのはケマルの出現まで土耳其の大舞臺を一人で切廻してゐたエンヴェル・パシヤであり、後者はケマルが一番の頭株であつた。それに天性政治熱の高いマセドニア生れの氣質も手傳つて、ケマルも年のいかなない中から口角泡を飛ばして盛に政治を談じ、國家を論じたものである。

當時青年の間には、土耳其一流の文豪の手に成つた戯曲「祖國」が盛に愛讀されてゐた。内容は歐洲諸國の立憲政治を謳歌し、猛烈に獨裁君主制を攻撃したもので當局はその出版を嚴禁し、市場に出たものを回収して悉く燒棄してしまつたが、秘密出版は依然としてオットマン帝國到る處に行はれてゐるといふ有様であつた。

勿論ケマル（その時は中尉）一派もその所有者であつたばかりか、戯曲の内容を議題として自由に自由主義の氣焰を揚げてゐたものであるが、或る夜秘密集會所に充てゝゐた彼の下宿は警官の不意討を喰ひ、同志十數名は一網打盡に投獄されてしまつた。獄内に檻禁されること三ヶ月、ケマル中尉だけは參謀本部の斡旋のお蔭で有耶無耶の裡にイルヂツ・パレースから釋放されたが、そのために小亞細亞の田舎のダマスクス騎兵聯隊附に左遷されてしまつた。態のいゝ國外追放處分である。

彼は現役の軍人であるにも拘らず、自由黨の支部を設けて公然民主々義を宣傳してゐたが、田舎では効果が薄いことを感知するや、脱走して埃及のアレキサンドリアに至り、巧みに變装して生地シロニカに舞戻つた。こゝで四ヶ月間大膽に革命運動を畫策してゐるうちに再び當局に嗅ぎつけられたので、再びシリアに脱走した。

三 革命より大戦へ

朽ち果てた大樹が倒れる前のやうに、土耳其の體內にはどうにも手のつけやうのない程腐つた風洞ふうどうが出来てゐた。

時代錯誤ではあつたが、回教徒大同團結の理想をその風洞に吹込んで、土耳其の息を吹返させやうといふのが青年土耳其黨の抱負であつた。しかも自由黨と進歩黨を提携せしめて合同進歩黨を組織し、その基礎を固くしたのは、彼がシリアから呼戻されてサロニカ第三軍團司令部附參謀に任命された時の事であつた。

ケマルの暗中飛躍は遂に功を奏して、一九〇八年青年土耳其黨の革命——立憲政治の採用——皇帝の廢立——と有史以來の大變革は眼まぐるしく展開し、專制土耳其も時の勢には勝てず、遂に名ばかりながらも一個の立憲國となつた。

乗すべき雲風到來とばかり雀躍したのも束の間、政權は年來の政敵エンヴェル・パシヤ一味の掌握する所となり、ケマルは鷲に油揚をさらはれた形となつてしまつた。おまけに、革命の結果は暴君アブッル・ハミッドに易ふるに暴君エンヴェルを以てしたに過ぎない有様となつたので、ケマルは憤懣やる方なく持前の疝癥玉を破裂さしてエンヴェルと大激論を闘はした末、永久に絶交すると敦囑いた。

それが崇りをなして、今度はアフリカ北岸の屬領トリポリの守備隊司令官に追ひやられ、ケマルは腐木の如く倒壊を急ぐ母國の悲運を後に、無念の涙を拂つて邊境に憂き月日を送り迎へる身

となつた。

丁度その時伊土戦争が勃發したので、彼は此所を死所と定めたか、全軍を擧げて伊軍の中に突入し、無謀と思はれる程の大膽な作戦を以て盛に敵軍を惱ました。ケマルが敵弾を受けて左眼の明を失つたのは此の戦である。大統領となつた今日でも、朝起きて第一の日課は何であるかと言へば、この時失つた左の眼に巴里製の義眼を後生大事とはめこむ事ださうだ。この獨眼龍が會ふ人毎に鋼のやうな異常な光を以て穴のあく程鋭く凝視めるといふのだから面白い。

やがてバルカンの一角から火の手が揚がつて、世界大戦の火蓋が切られた時、彼は勃牙利公使館附武官としてソフィアに駐劄してゐたが、母國が獨逸側に加擔して大戦に参加するといふ報道を耳にするや憤然任地を去つて君府に馳せ戻つた。そして土耳其の國情は絶対に参戦を許さず、祖國の興廢は正に此の一舉にあることを力説して敢然獨逸軍に加擔する事を阻止せんと努めた。當時獨逸軍は破竹の勢ひで佛國に侵入し、誰の眼にも獨逸の勝利は疑ふ餘地がなかつたばかりか恨み重なる英國に對する敵愾心が國內に澎湃としてゐたので彼の意見は遂に顧みられなかつたが獨逸の敗戦を洞見した先見の明と熱狂的な國論の眞只中に、唯一人敢然として参戦反對論を絶叫した勇氣は實に驚嘆すべきものがある。

しかし一旦参戦と決した以上は彼も勇武人に劣らぬ武人であり、愛國者である。彼は一躍師團長に任ぜられ、命の儘に第十九師團を率ゐてガリポリに出征した。噂によると、腹黒いエンヴェルは内心秘かにケマルの敗戦と戦死を希つてゐたといふ事である。

英國は大戦終了後を見越し、土耳其處分の發言權を固めて置かうといふ肚から海陸聯合の大遠征軍をダーダネルスに派遣し、一舉にして君府を手に收めやうと言ふ作戦であつた。土耳其の運命は臨終に迫つたシャイネストツク型の呼吸のやうに痙攣つてゐた。氣負ひたつたアンザツク軍（濠洲、新西蘭、南阿、加奈陀の自治領聯合軍）は優勢な艦隊の掩護の下に一潰しにと掴みかゝつたが、その結果はどうであつたらう。ケマル必死の奮戦は美事功を奏し、優勢なる遠征軍は數隻の超弩級戦艦を喪ひ、陸上ではタウンSEND將軍以下奇襲にあつて捕虜となつたばかりか、全軍徹頭徹尾追ひ捲くられて手も足も出ず、英國戦史の上に拭ふべからざる汚點を印して悄然總退却をしなければならなかつた。その功によつて彼は一躍ガリポリ戦線の獨逸聯合軍の總司令官に任ぜられた。

かくしてケマルは一度祖國の急を救つたのである。

四 虎を野に放つ

敵ながら天晴だと英國をして舌を捲かせたガリポリ戦捷の報は、不思議にも當の土耳其新聞には一行も報道されなかつた。といふのは、例のエンヴェルの嫉視から出た汚い小細工のせいであつたが、隠すより現はれるはなしでやがて口から口に傳へられ、それから二年もたつた一九一七年春頃になつて、土耳其新聞は勿論回教徒の愛讀するアラビア文字の新聞雑誌は筆を揃へてその偉勳をはやしたたので、彼は俄然旬日を出でずして全回教徒三億の崇拜の的となつてしまつた。

ケマルの威望を嫉むエンヴェルはなんとかして彼を始末してしまひたいと思ひ、陸軍大臣の權限を笠に今度は彼を獨逸人の土軍總司令官フアルケンハイン將軍の下に高加索の軍團長として露國々境の激戦地に差向けた。エンヴェルの肚では、今度こそ捕虜になるか戦死するかど落ちだらうと北叟笑んでゐたが、人の氣旺なれば天に勝つ、彼ケマルは軍を纏めて整然たる退却をなし一度有利な陣地に達するやこれを死守して退かず、遂に優勢な露軍の前進を阻止して再び偉勳を樹てた。

しかし豪毅不拔な彼は、バグダッド奪取を焦るフアルケンハイン將軍と作戦上の意見の衝突を來し、辭表を叩きつけてサツサとアレツポに引揚げてしまつた。そして其地から心血を注いだ有名な意見書を公表し、「土耳其が獨逸司令官の手足になつて働くのは國辱も甚だしい。土耳其軍は宜しく土耳其司令官の指揮の下に立たねばならない」と言ふことを大膽に主張し、當時の皇儲殿下を總司令官に推戴するやう獻策したが、政府は冷然其の建言を退けてしまつたばかりか、當時人質の形で伯林に滞在してゐた土耳其皇太子附武官として本國を追つてしまつた。彼は祖國の急を前にして爲政家の腑甲斐なさを齒ぎしりするばかりであつた。

ケマルが伯林に着任すると間もなく、パレスタイン方面の形勢は皮肉にも豫言通りに益々不利となつた。急遽呼戻されて戦線に馳せつけた時は既に遅く、英軍司令官アレクサンダー將軍麾下の印度軍は瞬く間に聖都エルサレムを占領して、政廳の竿頭高くユニオン・ジャックが翻つた。ケマルはそれにも屈せずアダナに退いて最後の戦を試みんとしたが、その時周章狼狽の極に達した君府政府から一通の飛電が彼の許に達した。曰く「英軍と休戦すべく特使發向す」と。

ケマルは本意なくも敗軍の將となつて悲憤やる方なく、砂を蹴つて急ぎ君府に歸つて見れば、僅か此の一月の間に帝都は見る影もなく變つてゐた。彼は今更熱涙の沱滂たるを禁じ得なかつた英佛伊の聯合軍は土耳其の心臟君府を占領し、ボスフォラス海峡には聯合艦隊が堂々威容を正し

て君府に封鎖した土耳其艦隊を監視する。ムドロス休戦條約として大オットマン帝國の陸軍は悉く武器を取上げられて丸腰になる。國民は信賴すべき指導者を失つて五里霧中に彷徨する。見るもの聞くもの悉く涙の種ならざるはない。

そこへ大英國は新たに英希協商を結び、希臘を先手に使つて辛辣に敗殘の土耳其苛めを始めた。強弩の末はもはやマツチ箱を踏み潰す程の力をも要しなかつたらう。

この有様を見たケマルはもはや君府に回生の見込はないと見切をつけ、茲に一策を案じ、希臘軍のスマルナ占領に端を發し土耳其人の騷擾を鎮撫するといふ名目で、腹心の將校四十二名を従へ堂々と小亞細亞に入込んだ。これが頽瀾を既倒に翻へさうとする彼の旗擧の門途であらうとは誰も氣がつく者はなかつた。

暫く後になつて、取返しのかね事を仕出來したと感づいた大統領フェリド・パシヤの君府政府は慌てゝ召喚の急電を發したが、時機は既に遅かつた。何本召電を打たうと歸京しないばかりか、それに對して一言の返辭さへもない。政府は業を煮やしてケマルを軍籍から除名したが、もう後の祭であつた。聯合國側から言へば、彼の翼を研らずして小亞の天地に逸したのは、實に虎を野に放つたに異らなかつたのである。

五 土耳其の新主人

野に放たれた虎は、誰に遠慮もなく爪を磨き牙をといだ。

彼はシリアの敗戦の時既に覺悟を決めてゐたので、出來るだけ多くの銃砲軍需品を聯合軍の眼の届かない小亞細亞の奥地に運び込んで置いたが、再び小亞に乗込む早々騷擾を鎮壓する所か檄を飛ばして多數の同志を糾合し、憂國心に燃ゆる土百姓を驅り集めて俄作りの軍隊を訓練するのに全力を注いだ。世間に泥繩式といふことがあるが、ケマルの軍隊編成に至つては全く泥棒を捕へてから糶を蒔くやうなものであつた。幾十日の涙ぐましい努力の結果は、服装や動作などこそ區々だが祖國を救ふ一念に凝つた強勇無比の軍隊が到る處に組織され、その數無慮十萬を算するに至つた。これこそケマルが土耳其中興の偉業の基礎、國民運動の第一歩であつた。

君府に於けるケマルの同志は國民黨の大旗の下に、急激に愛國運動の炎を擴大した。此勢ひに不安を感じた英國官憲は國民黨の有力な代議士百餘名を一網打盡に逮捕して地中海の英領モールタ島に檻禁したが、巧に逮捕を免れた多數の代議士はケマルの本據アンゴラに逃れ、一九二〇年の四月ケマルを議長に大國民會議即ちアンゴラ議會なるものを組織した。ケマルは六ヶ條の國民

盟約なる歴史的宣言を發して同志の結束を固め益々戦備を進めた。彼が列強を相手に瀕死の祖國を救ふ華々しい偉業はいよ／＼これからが本舞臺である。

土耳其を滅亡の土壇場まで押詰めた列強は、講和條約として最も苛酷なるセーヴル條約を押しつけた。この條約は歐洲では君府とその附近僅の地と小亞細亞だけを残り、土耳其の領土全部を取上げてしまはうと言ふので、さしも歐亞弗三大陸に跨つた大帝國も一朝にして猫額の荒蕪地に化する外はなかつた、君府では御前會議が開かれ、大勢は泣き寝りの調印に決してしまつた。

この時ケマルは突如として小亞の天地から絶叫した。

「余は斷じてこんな不名譽なる奴隸的屈辱條約には調印しない。寧ろ陣頭に起つて祖國國境防禦のため指揮刀を揮ふ方を擇ぶ。君府政府の調印は賣國奴の行爲であるから絶対承認する事は出来ない」と。

かくしてケマルは手づから訓練した國民軍を率ゐて悲壯なる征途についた。その名も「旭日の國」と謳はれた小亞細亞、アンゴラの市民は道に花を撒いて凱旋の幸先を祝つた。果然ケマルの精銳は身を挺して戦ひ、一度は美事にスミルナの希臘軍を打破り、續いて希臘が全國の總動員を斷行し、皇帝親しく全軍を督し捲土重來して來た時には戦ひ利あらずアンゴラの近くまで敗退した

が、土耳其軍は密かに宿敵露國と結んでその援助を受け、遂にかの有名なサカリヤ河畔の大決戦に致命傷を與へたのである。その結果希臘軍は全滅の悲運に陥り、六萬の歐洲軍は亞細亞人の捕虜となり、その尻押をした大英國の面目は土足で足蹴にされた形となつた。心ある人は七百年以前韃靼人の足下に蹂躪された歐羅巴人の運命を直ぐに聯想するであらう。

小亞から希臘軍を驅逐したケマル軍は、骸骨の舞踊を踊る君府政府を打倒し、土耳其の主權はアンゴラ議會に在る事を中外に聲明した。それと殆んど時を同じうして、君府に居堪たまれなくなつた皇帝は英國軍艦に家寶をシコタマ詰込んでモールタ島に蒙塵したので、茲に虫の息の君府土耳其政府は名實共に消滅した。そして長く失意逆境の日に苛まれながらも、終始一貫愛國の念を燃やしつゞけたケマル・パシヤは「凱旋者」の尊稱を受けて復興土耳其の新主人となり、同時に三億の回教徒から救世主の如く仰がれる身となつたのである。

六 新土耳其の脉搏

苛酷極まるセーヴル條約はケマル軍の連戦連勝に一堪りもなく消し飛んでしまつた。かうなると列強の間にも軟論が現れる、妥協論が頭を擡げる。元來利害の衝突激しい仲だから足並は益々

亂れて来る。

翌一九二二年には、遂に列強の方から下手に出て、瑞西ローザンヌに更めて講和會議が開かれたが、戦勝の餘威を驅る土耳其はオイソレと言ふことを肯かない。忽ち決裂してしまつたが、翌年四月二度目のローザンヌ會議でやつと話が纏まり、勝敗地位を轉倒した土耳其は意氣揚々として此の條約に調印した。なんにしても、近代史に於て列強を十把一からけにこれ程手古摺らした痛快な事件は殆ど例がない。

土耳其は亞細亞で廣大な土地を喪ひ埃及を完全に手放したけれども、これは大勢如何とも難しい所で、たゞ君府と小亞細を完全に保有し、マリツア以東の東部スレーズ、カリフ累代の聖塋として執着絶ち難き古都アドリアノーブル、兩海峽の險要を取戻し得たことは、殆ど奇蹟的大成功である。セーヴル條約で一度消えなるとした新月の光は再び俄然として冴え返り、寂滅に瀕した老大國は一大風雲を捲起して奈落の底から九天の高きに奔騰したのである。

アンゴラ政府はケマルの偉大なる功績に對して頌徳表を奉り、名譽ある共和國大統領に推戴した。

ケマルの偉業は單に土耳其の國際的地位を高めたばかりではない。彼はこの國民主義の運動を以て國民の覺醒に基く一大精神的ルネッサンスとなし、内政上社會上驚くべき大變革を矢繼ぎ早に實行した。

先づ第一は回教歴の廢止である。回教歴は教祖モハメッドが聖地メヂナに進入した西洋紀元六二一年を元年とした一年三百五十二日の太陰曆である。それを思ひ切つて異教祖の基督紀元に改めたのは非常な英斷である。そればかりか回教徒が生神と仰ぐ皇帝兼教主を斷然放逐し、四百年の傳統を破つて完全に政教の分離を斷行した。パンイスラミズム——回教徒大同團結を無二の理想としてゐた舊政治家たちは、ケマルが惜氣もなくそれを一擲して新共和國を非宗教的基礎の上に樹てたのを見ては氣絶する程驚いたが、それは一に古來列強干涉の理由を提供して來た異教徒の迫害差別待遇の跡を絶ち、それと引換に治外法權を撤廢させ、關稅の自主權を恢復し、幾多の國權を回收して健全な近代國家生活の基礎を固める下心からであつた。明治の中頃列國と平等の條約を結びたい一念から、當時の總理大臣以下閣僚大官がその夫人達を引具して鹿鳴館のダンスに浮身をやつしたと同巧異曲の涙ぐましい深謀が潜んでゐたのだ。

その外すべて看板の文字を土耳其語に限り、外國文字を使ふ時は土耳其文字の三分の一以下の大きさに限るとしたり、電車に外國人の車掌を雇ふ事を禁止、電話の通話を土耳其語に限つたり

極端と見える程の國權運動が國內隨處に擴がつていつた。

面白いのは名物土耳其帽着用の禁止で、十年前なら鹿や鰐のついた帽子を冠らうものなら祈禱の時神前の床に頭がつかぬ不敬な代物だとばかり、首をチョン切られ兼ねもしなかつた土耳其の街々が、今はソフトやハンチングで埋まつてをり、海軍士官や警官の制帽まで先の尖つた帽子に變つてしまつた。先づ頭から新しくといふ意味かも知れないが、明治維新の時の斷髮令なども想ひ起されて非常に興味がある。國民一般に禁酒法が勵行されてゐるのも新興國民の意氣が窺はれて頼もしい。

中にも一大變革が起つたのは婦人の地位で、回教の惡習であつた一夫多妻は禁ぜられ、奴隸のやうな境遇に甘んじてゐた婦人たちは古來の後房生活から解放され、男に顔を見られるを罪惡としてヴェールをかけなければ外出をしなかつた婦人たちが、今はその健康な素顔の美で街上を明るく華やかに彩りそのモダン振は銀座あたりの和製モガなどに優るとも劣らない勢ひである。

この婦人の解放はケマル夫妻がコニアで宴會の席に婦人客を招待したのが皮切りであるが、アングラ政府が婦人の夜間外出を法律で許可したり、警察で禁じてゐた夫妻同伴してキネマ見物に行く御法度が解けたり、電車の男女席を區劃するカーテンが撤廢されたりする度に國民がヤンヤ

と喝采した程、それほど土耳其婦人は慘めな境遇に置かれてゐたわけである。

もう一つ面白いのは極く最近に行はれた土耳其開闢以來の國際調査の時の話である。

馬觸るれば馬を斬り、人觸るれば人を斬る式の急進主義者ケマル・パシヤは、一體國家の人口が何人あるか解らないなどは以ての外とばかり、早速全國の役所に命じて調査を開始したが、さといよく着手の段になつてハタと行詰つてしまつた。

といふのは、昔からの習慣で土耳其人には家名を表す姓といふものがない。「ユスフの息子アリ」とか、「アーメツドの倅ケマル」とか、また「ケマルの娘ファチマ」といつたやうな親から貰つた名だけで通つてゐるので、一々親の身許から調べていかなければ、何處のケマルさんだかファチマさんだか一向に判らない同名の男女老幼が全國に幾萬といふ有様。當のケマル・パシヤだつて、苗字のやうに見えるパシヤは大官の尊稱だから、矢つ張り姓は持つてゐない。

こんな有様では國勢調査も何もあつたものじやないといふので、あらためて嚴重な法律を發布し、全國民一人残らず家の姓を名乗らせる事にした。幾世紀の長い間舊習に泥んで來た土耳其人にとつては、實に大きな革命的事件である。

それと同時に、長い間土耳其人の迫害を受けて來たアルメニア人も、これまで「象の子ファイリ

「アン」と、「ポケットに穴のあいた男の子ドジェベデリキアン」など、侮蔑的な名で呼ばれて来たのが、今度から新しい苗字がつくことになったので非常に恐悦してゐる。

所でいよいよ國勢調査の當日になつて生れた幾千の赤ん坊は、その日に因んで「國勢調査」と命名されたさうだ。

七 新首都アンゴラ

ケマルが土耳其更生の策源地として擇んだ新首都アンゴラは、砂漠や草原高地の連なる小亞細亞の奥、海より數百哩の、廣漠たる平原の東北端に位する小都會である。バグダッド鐵道の支線の終點に當り、君府の對岸スタタリを朝の九時に發して翌日の夕方でなければ着かないといふ恐ろしく不便な田舎で、人口も當時僅に三萬に過ぎなかつた。が、流石に舊オットマン帝國抑も發祥地と稱せられる由緒深い古都である。

ケマルがなんでこんな奥地を擇んだかといふと、君府は土耳其の誇りであると同時に恥辱である、第一餘りにオットマン帝國の臭が強過ぎる。國民を一切の因襲と傳統から解放して、國民主義の基礎の上に新生の獨立國を建設するにはどうしても適當でない。それに君府はコスモポリタ

ンの都市で、多數の歐洲人がはびこる中に主人公の土耳其人が虐けられつゝ慘めな生活をしてゐるのは餘りに屈辱的だ。外國人の干渉や不名譽な援助を避け國家觀念を一新するためには先づ環境を一變しなければならぬと言ふので、遷都が斷行される事になつたのである。

これだけを見るとケマルは如何にも攘夷論者のコチノのやうに見えるが、事實はそれと反對で、反つて西洋文明の長所を採つて國力を伸張せんがために、一時自らその勢力から絶縁しやうといふのがその本意である。

「ペルシヤは東に顔を向けてしまつたが、新興土耳其の顔は西を向いてゐる」

とケマル自らが語つたやうに、土耳其は一亞細亞國として山間にくすほつてしまつたのではなく、歐洲列強と同じ文化基礎として、根本から國家を建直さうと言ふ大抱負を懷いてゐるのである。一見明白な矛盾のやうに見える國權運動と歐化主義は、この最高の國家的目的からピタリと一し致してゐるのだ。

アンゴラの都は三方に山を廻らし、市自身もまた小高い獨立丘の上に建つてゐるが、その丘陵の背後は削りたてたやうな絶壁となり、急流は飛沫をあけてその岩根を洗ひ、流を隔てゝもう一つの丘が護衛兵の如く突つ立つてゐるので要害堅固此の上もない金城鐵壁である。しかし十五世

紀の始めには蒙古軍の包圍にあつて攻め落され、時の皇帝バジャシッドが居城に幽閉されたといふ悲劇的な因縁話もある。

丘の頂上には古い城塞があり、その脚下の斜面にはズツと民家が建ち並び、所々に圓形の寺院の屋根が土筆形の圓塔に護られて、直線を交錯した幾何模様の中に對照の面白い圓味を出してゐる。道は狭く曲りくねつて穢いこと夥しく、土塀で圍まれた粘土作りの民家が軒を並べてゐる所一見田舎の支那街と異なる所がない。

こんな小さい田舎都會の事だから急に政府が引越して來た所で政廳に充てるやうな適當な建物などは一つもない。仕方がないので各省は汚い民家を借りて陋巷に雜居する。共和國の主權を握ると言ふ嚴めしい國民議會でさへ、かなり以前に解散してしまつた或る政黨の俱樂部の跡を間に合せに借りたもので、赤瓦の屋根に漆喰塗りと云ふバンガロー式の低い建物である。屋根の上に翻へる新月國旗と入口を守る衛兵の姿が見えなかつたなら、精々村役場位にしか踏めぬお粗末極まる代物で、内部も何の裝飾もない至つて質素なものである。この簡素な一室で新興土耳其の運命が刻々に定められつゝあるのだと思ふと、その質朴さが愈よ莊重なものになつて來る。

大統領室は此の建物に續いた部屋二つで、こゝだけは可成り立派に飾つてある。ケマルは郊外

二哩程の所にある。アングラ市民から寄贈された白聖の別荘から、毎日専用の自動車でこゝに出勤し、内外政務の處理、外國使臣の引見等に忙殺されてゐる。大統領室の前には一人の護衛兵もをらず、扉をノックすると直ぐケマルが顔を出すと云ふデモクラチックな態度には訪問者のいづれもが一驚を喫して引下がる所である。

ケマルの俸給一ヶ月僅に四百圓に過ぎぬといふ奉仕振も、ちよつと嘘のやうにしか思へぬ話であらう。

八 悲戀の人

曠世の國民的偉業を成就した英傑ケマル・パシヤも、決して勇武一點張りの武辨ではない。人一倍多情多感で、極めてモダンな享樂的氣分の藝術家肌を發揮してゐる所は如何にも人間的な感興を催させる。

彼が大好きな巴里にゐた頃には、一の文學青年として長髮弊衣の美術學生などゝ交り、羅甸街の紅燈を慕つては赤い酒青い酒に浸り、デカダン詩人ヴェルレーヌの「秋の歌」などを朗吟しつゝ深夜の淫蕩を追つたり、素性も知れぬ女の宿に夜を明かしたりする事も珍らしくはなかつた。

巴里のある美しい踊り子に魂を奪はれ、遙々アンゴラまで連れ歸つた時などは、流石に周囲の者も開いた口が塞がらなかつた。しかしその明るい、愉快な生活を愛する性格が、陰險沈鬱な政治家の多い土耳其では反つて人望を博し人心を收攬する原動力となつたことも事實である。

時にアンゴラ郊外一丘上のケマルの高厦から、美妙的ピアノの音が洩れて来るのを附近の者は屢々聴いた。これはケマルが國事に疲れた身神を醫さうとする優にやさしき手ずさみであつた。希臘のある新聞は、「彼が回教徒でなかつたなら一個のピアノ弾きで終つたらう」と言つて冷かしたが、波蘭初代の大統領となつた有名なピアニスト、バデレウスキーの事を思へば、ピアノと政治家また縁なきわけではあるまい。

ケマルについて書落としてならない事は、短ながらも非常にロマンチックであつた彼の結婚生活である。

彼が潮の如く押寄せた希臘軍を撃退した後、勝誇つた精銳を率ゐてスミルナに入城するや、市中の土耳其人富豪は争つて「祖國を救ふ英雄」を歓迎した。ケマルは豪商ラチーフ家に客となり、數日を家人の心からの歡待に過ごす中、主人の娘ラチーフ・ハンノームと思ひ思はれる仲となり二人はそれから間もなく結婚した。ラチーフの持參金百萬リレ（約百三十萬圓）と稱せられ、土

耳其の覇者を夫とした彼女は全國民の美望の的となつた。その時ケマルは四十三、彼女は十九も年下の二十三歳であつた。ケマルは此の年まで獨身を通して來たので世間の驚きは一通りでなかつた。

ラチーフは幼少の時から巴里で育ち純然たる歐洲式の教育を受けたモダンガールで、當時既に國民軍に心を寄せ、軍事探偵の嫌疑で希臘軍に囚はれ軍法會議にかけられやうとしてゐた程であつた。若く美しい彼女は中脊で丸顔の、光澤ある黒眼の持主で、外觀は如何にも東洋タイプな女性であつたけれども、その思想に至つては頗る急進的な婦人解放論者であり、女權擴張論者で土耳其婦人の解放、社會的地位の向上については夫人の貢献は實に著しいものがあつた。

所がそれから二年半にして一昨年八月、突然、今は大統領夫人たるラチーフの離婚が發表された。ラチーフは土耳其共和國第一の幸福者であつた時代を顧みて、

「妾は彼を愛してゐました。けれども二人の結合は今彼の前途を妨げるものとなつたのですかう言ふ場合、犠牲にならねばならないのは那翁ナポレオンの皇后ジョセフィンの時もさうであつたやうに、女である妾なのです」と述懐した。

あの蜜のやうな生活を棄て、寧ろ夫人の方から進んで身を退くに至つた原因は、純粹な理想

論者たる彼女と、實際政治の困難に當面して次第に反動的になりつゝあつたケマルとの思想上の衝突であらうと言はれてゐる。

去年十月末の巴里電報によると、ラチーフは神経衰弱療養のために佛國西部海岸のベアリツツに轉地したといふが、離婚以來杳として消息を絶つてゐた彼女は、スミルナに歸る匂々自宅の庭に社を建立してその中にケマル・パシナの像と寫眞を祭り、夜毎に獨り詣でゝは、ありし日の夫を眼のあたりに見るが如く或は怨じ或は睦言を繰返し、紅涙潜として限りなき思慕の情を捧けてゐたといふことが判つた。

男やもめのケマル・パシナはこの涙繁き情景を知るや知らずや。十月十五日からアンゴラに開かれた國民大會には、草稿五千ページ一週間打つ続けといふ未曾有の大演説を試み、十一月一日の第三回國民議會では開會劈頭滿場一致歡呼の裡に大統領に再選せられ、威望隆々として復興土其耳百年の計に粉骨碎身しつゝある。

支那國民革命の總帥蔣介石

一 東洋の那翁

六十年の一生を革命の戦塵と亡命の悲雨に曝した支那國民革命の父孫文は、せめて楊子江まで進出したいものだと言ふやうにいひながら忽焉として北京の客舎に逝いた。

孫文の衣鉢をつける蔣介石は、僅半年の間に、故總理の夢寐にも忘れなかつた楊子江進出を敢行して支那の大半を青天白日旗の下にきり従へたばかりか、更に堂々北伐の歩武を進めて、北方大軍閥の大御所張作霖をして危く土俵の砂を嚙ませるところまで肉薄した。

この彗星的な偉業を眼のあたりに見た者は、蔣介石を以て支那のケマル・パシナだと賞めそやし、勞農大使であつたカラハンの如きは、大那翁アルプス越の歴史的壯舉に比し、彼を以て東洋のナポレオンであるとまで激賞した。しかし老大國土耳其を蘇生せしめたケマル・パシナは、今や光榮ある初代の大統領として得意の絶頂にある。歐洲を席捲したナポレオンにはエルバ島の流

謫があつた。失意の人、亡命の客となつた蔣介石は、その境遇から見れば寧ろナポレオンに近いと言へやう。

しかしナポレオンの流謫は、屈辱と壓迫と暗黒に満たされた索莫陰慘な孤獨であつたけれども、蔣介石の亡命は寧ろ誇りと自由と希望に恵まれた洋々陸離たる休息日といふべきであつた。

悲痛なる下野の通電を發して、浙江の故郷に隠れた蔣介石は、戰塵を洗ふ暇もなく、昨年九月の末に漂然として日本行の船に身を投じた。夫人は一足先に米國へ向けて旅立つた。一家離散の陰暗な運命は彼をも囚へてしまつたかと同情の涙を惜まぬ人もあつたが、その想像は忽ち思ひも掛けぬ報道によつて裏切られた。それは牡丹のやうに美しい宋美齡嬢との間に婚約が成立したとこれである。

彼が十三年振りで見ると懐かしい日本、雲仙から有馬箱根と秋色を愛で、行くうちに、二人の婚約の成立は正式に發表された。宋美齡嬢は最近まで廣東政府の財務部長の要職にあつた南方の大立者宋子文の妹であり、故孫文の未亡人宋慶齡女史を姉にもつ國民黨隨一のお家柄の出である。エンゲージ・リングと美しい腕時計が上海に在る嬢の手許に贈られたとか、媒酌人には國民政府の首腦譚延闓と王正廷、夫人の方では元廣東市長の廖仲愷未亡人何香凝女史、西北國民軍總司令馮

玉祥夫人に決定したとか、艶かしくも華かな電報がしきりと新聞を賑した。

二人は實に、五年以來想思の仲で、結婚の申込も度々あつたが、支那式の一夫多妻を忌む嬢の側でその都度拒絶して來たのが、今度蔣夫人が正式に離別となつたので始めて約束が成立し、かくして蔣介石は革命の父孫文と義理の兄弟になることになつたわけである。武運は拙かつたけれども戀に恵まれた武將の亡命は、悲劇の舞臺ではなくて、ますます絢爛たる一場のロマンスである。帝王となつた那翁が紅涙潜たるジョセフィンを離別し、丸腰の一亡命客となつた蔣介石が名門の令女と契を結ぶ。また對照の妙ではないか。

十月二十三日入京した彼は、直に頭山滿翁の温かい懷に飛込んだ。故孫文がかつて日本に亡命した時も翁の厚い庇護の下に臥薪嘗膽再舉を圖つたものであるが、同じ運命に陥つた彼が再び翁の保護の下に身を寄せたのも決して偶然ではない。孫文は翁を實の親のやうに思つてゐるが、彼はまた祖父のやうに翁を敬慕し、翁は孫のやうに眼を掛けた。支那革命の最初の烽火、中國同盟會が呱呱の聲を擧げた記念すべき東京、そこに落ちついた彼の胸中には恐らく無量の感慨が去來したであらう。

戀を得、温かい巢に恵まれた彼の日本亡命は、那翁が樞風沐雨のエルバ流島に比べ如何に幸福

なコントラストを示したことが、しかし奈翁はエルバ孤島で回天の旗擧げを畫策した。蔣が眞に東洋の奈翁たり得るかどうか？ それは彼が今後の活躍如何によつて決定さるべき問題である。

二 孫文の傘下に

蔣介石の出現は、文字通りに彗星の如きであつた。

最近數年前まで一人の手兵さへ持たず、同僚の間では「頭腦明晰だが軍事學に乏しい」と、どつちつかすの批評があつただけで、その名は支那官紳録にも、中國人名録（一九二五年版）にも、さては外務省編纂の最新版現代支那人名鑑にさへも載つてゐない全くの無名の士であつた。

介石といふのは號で、本名を中正と言ひ、今年四十一の働き盛り、生れは明治二十一年の春であつた。浙江省の小都市奉化に近い一寒村に、名もない農夫の子として生れた彼は、父親が幼少の時に死んだので、早くから寧波で小商ひをしてゐる親戚の家に預けられた。支那人の地方色を大別すると三つになるが、彼は平和的、常識的な長江流域氣質を血に享けて、昔から海外發展や野心家の多いので有名な寧波ニンポに幼時を送り、急進破壊的な廣東氣質カントンを旗擧の原動力となし、最後に武斷的、官僚的な北支那氣質のお歴々を向ふに廻し、土俵一杯の大相撲を見せるに至つた経路

に興味深い。

二十歳の歳に、四十名の省選抜學生の一人として保定の國民士官學校に入學したのが軍人としての第一歩で、一年の後には拔擢されて日本留學を命ぜられた。當時は日露戰爭直後のことゝて戰勝日本の軍事教育を受けやうとする留學生が非常な勢ひで押掛けた。孫傳芳、李烈鈞、李根源などはみな士官學校での彼の同期生である。

士官候補生として高田騎兵聯隊に勤務してゐるうちに、母國に於ける革命の機運はいよゝゝ熟したので、明治四十四年歸國して革命軍に投じ、白面の一青年將校は一躍して上海の旅團長に任命された。

その後陳其美の參謀となつて非常な功績を挙げたが、陳が袁世凱の刺客に殺されてからは同志の間からも殆ど忘れられ、不遇悶々の情を酒や麻雀マージャンや紅燈トウジヤンの巷にやらうとした。或る時は無斷で流連して數十日の間行方不明になつた事さへ珍らしくなかつた。

彼がこの幻滅の境涯から救ひ出され、孫文と結びつくやうになつたのは實に第二革命以來のことである。當時袁世凱は表面共和を口にしながら、着々帝政をしかうとの野心を逞しうし、急進的な共和論者は次々に彼の毒手にかゝつて斃れた。この形勢に奮起した孫文が第二革命の旗擧

をなすや、蔣介石は進んでその傘下に馳せ参じ、或は参謀となり秘書となつて盛んに活躍を始めた。孫文との切つても切れない縁は、實にこの時始めて結ばれるに至つたのである。

しかし最初の十年ほどは、無名の一將校として特別に表面に現はれるやうな機會もなかつた。その間面白いことには、相場に手を出して一躍百萬長者となり、儲けた金一百萬元也を革命のために使つて呉れと孫文に提供したといふやうな噂がある。嘘か本當か、今度下野した時にも貯込んだ千二三百萬元（一説には三千萬元）の金を前夫人と折半して持つて來たなどいふ噂がたつたが、いづれにせよ餘程金運のよい男と見える。

大正十一年孫文が北閩の師を起して廣東がガラ明きになつた虚に陳炯明が叛旗を翻へし、孫文は大本營を脱れて軍艦永豊に移り、約一ヶ月の間沙面前方の珠江の眞中に腰を据えたことがあつた。折柄の炎熱は焼くが如く、食料や飲料の不足に艦内の生活は實に慘憺たるものであつた。しかし此間始終孫文の傍を離れず、夜陰に乘じ危険を冒して食料運びまでして彼を護つたのは實に蔣介石であつた。

こんな風で孫の蔣を信用することは益々深くなつて行つた。

三 嚴師慈父

大正十二年春廣東大本營行營参謀長に任ぜられ、北伐軍に従つて韶關方面まで出動したが、背後の廣東政府が極度の財政困難で折角の壯舉も二進も三進も行かなくなつた。

蔣介石は八月その要職を辭し上海に去つて一時杳として消息を絶つたが、實はその時孫文の秘令を奉じ、勞農政府との提携を策するために密にモスクワに使してゐたのであつた。

一年の後非常な成功を土産に彼は廣東に歸つて來た。孫文が後年死に臨んで「民衆よ、ボロイデンの言葉を余の言葉と思へ、余の亡き後にもボロイデンあることを忘るゝな」とまで遺囑したボロイデンが、國民政府の最高顧問として派遣されたのはその後間もないことであつた。軍事顧問のガロン將軍以下多數の専門家、巨額の軍費武器彈藥はドシ／＼廣東に送られた。

ロシアから歸つた蔣介石は、赤衛軍の將校養成にならつた黄埔軍官學校（今の中央軍事政治學校）の校長に任命せられ、國民軍の中堅をなすべき革命的青年將校の養成に全力を注いだ。全國から應募した志願者三千餘名の中から五百名を選抜し、速成的軍事教育と同時に三民主義を基礎とした革命の呼吸を吹込んだのである。だからこゝで養成された青年將校は、敗ければ直に寢返

りするやうな在來の支那軍人とは本質的に相違し、主義の爲には文字通り死をも恐れぬ。不幸にして捕虜となつても反つて敵を改宗させるために勇敢に國民革命の思想を宣傳する。彼等はどんな強敵に對しても恐怖といふものを知らず、火の如き革命の熱情に燃えて突進して行つた。支那では有史以來南方に興つて北支那を征服した者は嘗てないが、蔣介石の北伐軍が鐵道も道路もない山間荒蕪の野を疾驅して北方一千哩の長江一帯に進出し、滿地紅の青天白日旗を江北山東の野にまで押進めるといふ未曾有の歴史的勝利を收め得たのは、實に軍の中堅をなせるこれ等革命青年の決死的奮闘の結果である。

蔣介石の戦争は舊來の支那軍閥の地盤争奪戦とは全く趣きを異にしてゐる。先づ便衣隊が潜行して盛な宣傳戦をやる、軍官學校出の革命將校を中堅とせる精銳な軍隊がその後を占領すると、軍隊專屬の政治部員が活躍して學生勞働者農民を味方に引き入れる。宣傳列車が耕地の中をかけ廻つて三民主義の福音を説く。かうして勞農兵學の無産大衆を結成し、國內的にも國際的にも支那國民を壓迫の鐵鎖から解放しやうといふのである。

彼は常に軍の最前線に起つて全軍の士氣を鼓舞した。勿論總司令としての彼の手腕が非凡であつたことは言ふまでもないが、彼は個人の手腕力量については決して一言も言はない。たゞ彼の代表する黨を語り、民衆の結束の力を高調する。そこにまた從來の軍閥と異つた色彩が窺はれやう。

軍官學校の校長室には、今も蔣介石が揮毫した「親愛精誠」の額がかけてあるが、此の四字は實によく彼の性格を語つてゐる。彼は溫情の人であると共に誠意の人である。學生に對する態度はまるで親の子に對するやうな思ひやりで一貫し、困つた者には金も貸してやれば嫁の世話もしてやる、時には婚禮の費用までも面倒を見てやるのが珍らしくないといふ苦勞人である。

彼は學校の中に住込み、朝は五時に床を離れて、三十分靜座、昨日の我を反省してから必ず讀書をする。時には食事する時間さへない程激務に鞅掌し、一時二時にならなければ寢につかないが、就床前には必ず日記をつける。早年王陽明に私淑して心膽を練つただけあつて、年中一日の休息もなくこの繁忙を繰返しながら少しも意としなかつた。

彼は溫情の人である一方、嚴格秋霜烈日の如き性格の持主で、軍律の前には一步も假借するところがない。ある時部下の一人が軍規に背いて民家を掠奪したので、彼は斷然銃殺の宣告を下した。しかしその兵卒が悄然として刑場にひき出された時、蔣介石は彼の肩に手をかけて言つた。

「お前は軍規に従つて潔く死に就かなければならない。しかし後の事は決して心配するな、お

前の兩親と妻子の行末は必ず此の蔣が見てやるから」

部下はその温かい言葉に感涙を流しながら安心して刑についた。蒋介石はその後毎月相當の生活費を贈つて、遺族の者を養つてやつたと言ふ。

四 孫 蔣 の 交

孫文が如何に彼を信用してゐたかを知るに面白い二三の挿話がある。

陳炯明の叛に討伐軍司令官として出陣し、唐代より千餘年、難攻不落の堅城と呼ばれた惠州を攻落した時のこと、蒋介石戦死の誤報が大本營に達した。孫文は愁然としてその電報を卓上に披げ、「何萬の大軍を失ふとも一人の蔣を失ひたくなかつた」と、老眼をしばたゝきながら長大息した。

民國十三年吳佩孚一敗地に塗れて、支那統一の氣運クライマックスに達し、孫文、段祺瑞、張作霖の三角同盟が成立したので、孫文はいよゝ榮ある北京入りの途に上ることになつた。所が、周圍の者はその身邊の危険を恐れて極力北上を思ひ止まるやうに懇請した。その孫文は毅然として唯一語、「蒋介石を廣東に残してあるから決して心配はない」と語つて、想ひ出多い軍艦永豊

に座乗したのである。その時の彼の胸中を察するに、もし老體に萬一の事があらうとも、蒋介石一人さへあれば革命の遺業は必ずその手によつて成就されるであらう、此の期に及んでもはや思ひ残す事はないといふ悲壯の決意と絶大の信頼を語つたものであらう。不幸にしてその言辭をなして孫文は北京に客死したが、果せる哉、彼の渴望に背かず革命は蔣の奮闘によつて未曾有の進展をとけたのである。

孫の信頼と共に、蔣の故總理に對する追慕の念も實に美しいものがある。彼は常に誰に對しても何の躊躇もなく「孫總理の外に敬慕する人物はない」と公言してゐる。一昨年六月滿都の大衆歡呼の裡に北伐の征途に就いた時も「嗚呼我將士生死を共に……」と悲痛なる宣詞を讀み、誓つて故總理の遺囑に背かずと決心の程を見せた。元來此の北伐を急いだ動機も「せめて揚子江岸まで」といふ孫文の胸中を察してのことで、常に孫文の遺像を軍の先頭に奉じ、亡き人を擁して戦ふ悲壯な心意氣を見せた。それは單に士氣を鼓舞する手段とばかり見るには餘りに人情的な美しさが溢れてゐた。

孫文北京に病むと聞いた時、蒋介石は遮二無二陳炯明討伐を急いだものた。蔣はその理由として幕僚の者にかう言つて聞かせた。

「總理の病氣は肝臓病である。此の病は元來怒氣から發するもので、陳が謀叛を起したから嚇怒の餘り病が發したのだ。これは藥などでは癒る見込がない。陳を叩き潰して怒氣を鎮めさへすれば必ず全快されるに違ひない」と。

幕僚は此の一言を聞いて、みな親の仇討のつもりで振ひ起つた。

蔣の懷抱する革命精神は、孫文のそれと同じく博愛であり、廣大深刻な人類愛に出發してゐる。しかしそれが實際に發揮される時には、色々違つた形を現はす。例へば孫文には清濁合せ呑むの大度量があつて、悪い事をした人間でも非を改めればまた容すといふ寛厚を示したが、蔣介石は包容力を缺き、競争者には可なり辛く當るといふやうな非難もあつて敵も相當に多い。昨秋下野要求の直接の理由としてあげられた獨裁的だといふ非難の如きも確に當つてゐる。しかし年齒未だ四十一、人格の玉成されるのは將にこれからのことであらう。

彼が突如下野を宣言した時、各地の黨員は眞情をこめて留任を懇請した。黨の首脳部はわざわざ草深い隱棲に彼を訪ね、辭を低うして再出馬を促した。新聞は引留運動の電文で毎日半面は埋られるといふ有様であつた。

なんにしても支那當代隨一の人氣男は彼である。

五 三民主義に生きる大衆の英雄

廣東に於ける蔣介石の生活は極めて素朴であつた。

彼は構造こそ近代的だが、至つて小さい三階建の一室に住んでゐた。ある時外國の新聞記者が訪問したが、入口で名刺を差出すと、ボーイがそれをしげ／＼と眺めてから、無言で上の方を指さした。客はつか／＼と三階に昇つて行くと、そこにいかにも快活さうな青年士官が起つてゐる。軍服だが階級を識別する肩章などは一つもついてゐない。

「蔣介石閣下は何處におるのですか？」

と聞くと、その將校は至つて無造作に答へた。

「はい、蔣介石です」

「一體どこに蔣介石閣下はおるでになるんですか？」

客は戸惑ひして聞き直すと、青年將校は今度は黙つて寢室の方を指した。そこでその寢室に入つて暫くすると、秘書が出て來て、この將校が蔣介石その人だと説明した。尊大ぶる舊式な大官なやうな様子は一つもない。何の裝飾もないこの小室が彼の寢室であり同時に事務室であつた。

お茶と菓子運ばれる。が、彼は何も食べず、お茶の代りに熱い白湯を啜つてゐた。長い會見の間キチンと組んだ手を卓子にのせて正坐し、支那人としては稀な品位を具へた顔に微笑を洩らしながら彼は語つた。華奢なスラリとした身體、四十に足らぬ若い顔を見れば、これが四億の大衆を率ゐて支那統一を志す偉丈夫だとはどうしても受取れない。尖つた頭、廣い額、デリケートな肢體、小さい骨ばつた手などは、どうしても學者と言ひたい柄である。

それでゐて、彼は非常な雄辯家である。彼はよく民衆に向つて演説をした。一昨年六月二十五日、大軍を率ゐて北伐の途につく時の告別演説の如きは、餘りに熱烈悲壯を極めて、聽く者一人残らず聲を揚げて泣いたほどである。八月十四日長州に入城した時は眞夜中であつたが、長途の疲労を物ともせず、路傍の大八車の上に起つて三民主義の熱辯を揮つた。九江でも徐州でも南京でも……。一軍の總帥が占領したばかりの敵地の路傍に起つて大衆に呼びかけるのは、議會の壇上から美辭麗句のお座なりを飛ばすのとはわけが違ふ、全く生命がけの大冒険である。しかも蔣介石は屢々それを敢てした。その膽力もさることながら、彼が一介の武辯ではなく、熱烈なる民衆政治家であり、大衆の英雄である事實を最も雄辯に物語るものである。

蔣介石は北伐の途に上るに際して、國民革命は二年の中に成就して見せると豪語した。既に三

年に近い日子は過ぎたが、前途は益々遼遠の觀無きを得ない。しかし此の二年といふ日子は軍事行動だけの話で、彼は一切の建設事業の完成するのは十五年の後と見てゐる。此の困難なる事業の前途を見越し、かくも遠大なる抱負を懷いて悠々焦らざる態度は實に敬服に値する。

彼は支那國民を自覺せしめる方法として左の五項を擧げてゐる。第一には支那を侵略せる歐洲の力の危険なることを意識させ、第二には支那各地に割據せる諸勢力を打つて一丸とし完全なる民族的團結を圖ること、第三には民族の傳統的特質たる仁愛、孝悌、溫情、至誠、眞實、正義及び平和愛好などの美點を更生せしめること、第四に智識熱を振作し、自治心を涵養し學術の恩恵に浴せしめること、第五にあらゆる支那民衆の胸奥に進歩的精神を植付ることである。

彼は軍事、政治、國民精神の各方面に於て以上の根本的大改革を成就せんとして努力を續けて來たのであるが、その一切を綜合した國民黨の根本方針——同志の合言葉は、實に孫文の提唱した三民主義である。

六 再起の日來る

蔣介石は徹頭徹尾忠實なる三民主義の使徒である。

打倒軍閥、打倒帝國主義、不平等條約撤廢の旗幟を高く掲げて、疾風の勢ひで驀地に長江に進出した姿は實に勇ましいものであつた。彼は故孫文の宿敵英國を以て支那を蝕む帝國主義の元兇となし、香港の經濟封鎖に漢口の租界回収に、流石の大英國をして手も足も出ないやうに叩きつけてしまつた。彼の眼ざす所は勿論英國一國ではないが、先づ英國を屈服せしむる事が出来れば他の列強は風を望んで支那國民の正當なる希望を容れるに違ひないと見込み、敢然最強抵抗線の正面突破を企てたのである。此の勇敢賢明な作戦は見事圖に當つて、これまで協調の美名の下に支那に強壓を加へ來つた列強の歩調はシドロモドロに亂れて鼎の輕重を問はれるに至つた。支那の致命的悩みは數世紀に亘る外力の跋扈である。もし今後完全にその打倒に成功したとすれば、國民革命の目的の大半は達成されたと言つても過言ではない。

彼は始め孫文の遺策を繼いで、彼等の唯一の友邦勞農ロシアとの提携を固くし、國民黨と共產黨とを結合せしめて共同戦線を張つた。しかし彼の思想と共產黨の思想との間には遂に超ゆべからざる溝渠があつた。一昨年三月彼は矢繼早に三度もクーデターを斷行して廣東の共產黨に彈壓を加へ、反蔣介石派を驅逐して完全に覇權を握つたが、その時の彼の言葉はよくその胸中を語つてゐる。

「國民革命は久しからずして成功するであらうが、共產革命は二十年乃至百年後にも成功すまい。今日の支那に必要なは國民革命であつて、この目的を達するためには強力にして統一ある一個の黨があれば足る。元來革命には一黨あれば足り、主義も亦一個あれば足る。然るに今日支那には兩黨がある。この兩黨は事實上合一する事は不可能である。共產黨は工農兩界を代表してゐる。故に前者は後者に入黨は出来るが、後者は前者に入黨することは出来ない。併し乍ら兩黨が衝突すれば革命は必ず失敗に終るであらう。これ敵に乗ぜられて革命戦線に破綻を生ずる惧があるからである」と。

不幸にして彼の豫言は的中した武漢南京兩政府の確執は、愛黨心の熾烈なる蔣をして兩派合同のために犠牲として下野せしめた。併し彼の主張した共產黨排撃は武漢政府側の清黨運動に具體化されて、あれだけ跋扈した共產黨も遂に凋落の秋に遭ふことになつた。

共產派の守護神であつた唐生智は舊軍閥の本性を現はして南京政府と戦端を開き、廣東また内紛を重ねて結束亂れ、山西軍、馮玉祥軍の北伐も一向に捗々しくいかない今日となつては、蔣介石が心血を濺いだ北伐も遂に、大暗礁に乗上げざるを得なくなつた。

支那の政局は全く端睨を許さない。しかし此の四分五裂の亂局に於ても、唯一つ確實なことは

三民主義の勝利といふことである。北方軍閥の巨頭張作霖さへも、一時は妥協の條件として三民主義の信奉を承諾したほどで、後日この思想的酵母がいかにも多くの收穫を齎すかは今から想像に難くない。

在京一ヶ月に足らぬ昨年十一月八日、蔣介石は突如として歸國の途に就いた。豫期された如く再起の日は意外に早く來たのだ。

彼が國民黨の大立者汪兆銘にあてた勸告書には、「國民黨の紊亂坐視するに忍びず、之を救ふため再び同時に出馬せん」とあつた。

蔣の歸國が知れ渡つた頃、武漢の險要に據つて獨立を宣した唐生智の勢は日に盛りつゝあつたが、南京軍の攻略と内部の離叛によつて遂に失脚し、十五日漢口から一汽船をチャーターして入替に日本へ亡命の旅に上つたのはよく／＼念入な運命の皮肉である。

蔣は歸國してから間もなく、許婚の仲の宋嬢と結婚の式を舉げて新しい生活に入つた。披露の宴會を廢してその費用三千元を慈善病院設立費に寄附したことが一しきり新聞を賑はしてゐた。

この間に彼の再出馬を實現する機運はいよ／＼熟し、十二月十日の中央執監豫備會議では蔣介

石の國民革命軍總司令復職案が滿場一致で可決された。

かくして一度亡命した蔣は、再び國民革命のライムライトの前に起つた。

廣東の共產黨事變、新武漢派の結成、國民政府の對勞農露西亞國交斷絶、勞農領事館の占領、等々支那の時局は對内的にも對外的にも猫の眼の如く變つて行く。が、その眼まぐるしい變局の中にも北伐だけは依然として續行され、故總理の革命の偉業は一步步々終局の目標に近づいて行く。

新しい支那は終に何處に往くか？

國民の運命を双肩に荷ふ偉丈夫蔣介石の胸中を去來する秘策こそは、近代支那更生の一大秘論として刮目しなければならぬ。

附記 此の一篇は蔣介石の日本亡命中に執筆したもので、上梓に當り歸國後の事情を多少書加へたに過ぎないことを特にお断りして置く。

復興亞細亞の闘士リザ汗

一 亞細亞の叛逆

六年の久しきに亘つた世界大戦も、一面から觀れば虐けられた亞細亞と征服者たる歐羅巴との血塗ろの闘であつた。

帝政露西亞建國以來の野心たる南下政策、印度の寶庫を確保せんがためにケープタウン、カイロ、カルカッタを連ねんとする大英帝國の傳統的三C政策、ベルリン、ビザンチン（君府）、バグダッドを貫かんとする軍國獨逸の膨脹的世界政策は、土耳其より中央亞細亞一帶にかけて激烈な衝突を演じ、土耳其、波斯、亞富汗等の諸國は列強角逐の下敷きとなつて、獨立は名ばかりの氣息奄々たる有様であつた。

歐羅巴が完全に亞細亞を絞殺したせるか、亞細亞が首根つこを絞つけられた手を振りもぎつて自由の息を呼吸することが出来るか、それは大きい謎であつたが、果然積弱の亞細亞諸國の間に次々に強烈なる國民的運動が擡頭し、敢然として歐羅巴の支配に對する抗爭が宣言された。そこへ持つて来て、皮肉なる運命の手は先づ帝政露西亞を勞農共和國に作りかへて列強角逐場裡から引下がらせ、ついで軍國獨逸に致命的敗北を授けてその發言權を剝奪し、最後に勝利者として残つた大英帝國に近東政策の失敗を嘗めさせて完全にその面目玉を踏み潰した。それがために近東から中央亞細亞一帶にかけての形勢は俄然一變してしまつたのである。

そこでこの劃時代的な風雲を捲き起した人物は何人であるかと言へば、先づ第一にケマル・パシャとリザ汗の二人に指を屈せねばならない。近東の老衰國土耳其は曠世の國民的英雄ケマルによつて新興の意氣を恢復し、風雲兒リザ汗はその東隣眠れる古國波斯を統一し更生せしめた偉人である。しかも此の兩雄の偉業は單に一國家の興亡のみならず、無慮三億の回教徒の運命を左右し、更に全亞細亞民族復興の狼煙を打揚げたものである。將來自白人の支配が崩解して、所謂「亞細亞の叛逆」が成就する日が来るものとすれば、彼等の名こそ近代亞細亞解放の偉大なる先驅者として永遠に銘記されねばならない名だ。

二 風雲を望む貧農の子

ケマル・パシヤの身體には幾分か歐洲人の血も雜つてゐたに反して、リザ汗パーレヴィは生粹雜りけなしの純亞細亞人である。一八七七年首都テヘランの東北、裏海に近いマザンデランの水呑百姓の悴に生れた彼は、勿論殊な教育などは受られやう筈もなく、十六の年まで親爺に追廻されては泥塗れになつて働いてゐたが、さて何時までかうしてゐたとて出世の見込がないばかりかお小遣ひさへ碌に貰へない。村の誰それは十何年勤め上げて、今では立派な下士になつたさうだが、俺も一つ軍隊に入り、あはよくば將校まで漕ぎ付て村の衆に威張つてやりたいものだ、俺が出世したなら親爺もさぞかし喜ぶたらう。

彼が貧農の子に相應しい發奮をして、コサツクの一兵卒を志願したのはその十六の年であつた。爾來三十年の間彼の軍人生活は續くのであるが、せめて將校にでもなれたなら非常な出世だと心得てゐた彼が、四十六の歳にはサルダー・ルシバー(元帥)となり、元帥から陸相、首相から遂に「孔雀の玉座」にまで上らうとは、運命の神でさへ見透しがつかなかつたかも知れない。しかもそれが門閥出の故でもなければ、教育のお蔭でもなく、成吉思汗ジンギスカンやタメルランと同じく全く自分一個の天分と力量だけで叩き上げたのであるから、益々以て偉としなければならぬ。

リザ汗がコサツク師團に入つた頃は、宛かも帝政露西亞が盛に中央亞細亞の諸汗國を蠶食し、

波斯に對してもドシ／＼手を擴けてゐた時分なので彼の隊にも多數の露西亞將校が入りこんで歐洲式の軍隊教練をやつてゐた。彼が話せる唯一の外國語——露西亞語を覺へたのは此の時であつたが、後年勞農露西亞と結んで英國に當るに至つた機縁も遠くこの邊に兆してゐたかも知れない。

その頃の波斯は、一言にして盡せば殆ど滅亡の前夜と言ふべき状態であつた。内には優柔不斷保守頑迷なカジャール王家があつて國力の發展に逆行し、邊境には強大な豪族が割據して中央政府の令を奉じないばかりか、アラビスタン、モハメラの諸族などは英國に使喚されて不斷に叛亂を醸してゐる。が、それは未だいゝとして、北より迫る露西亞の侵略と南より加はる英國の壓迫に至つては、前門の狼後門の虎より尙ほ猛々しく弱小波斯の獨力奈何ともしがたい所であつた。

狙上の魚を中にして英露は幾度か干戈に訴へまじき險惡な啗合ひを演じた後、一九〇七年協約を結んで國土の半に近い北部波斯を露西亞の勢力範圍とし、南部の廣大な地域を英國の勢力範圍と定めて英露の紛争は一段落を告げたが、波斯自體は首都テヘランさへも露國の勢力範圍に包括され、波斯灣から亞富汗國境に至る一帶の地を英露の緩衝地帯として保有するに過ぎぬ有様となつた。しかも兩國は表面こそ波斯の領土保全を公言してゐるものゝ肚では勢力範圍を併呑するのはたゞ時期の問題としてゐたので、當時の波斯政府財政顧問モルガン・ジャスターの著書の標題

通りに「波斯の絞殺」は着々と進行してゐたのであつた。若し、世界人類には不幸であつたがあの戦争が勃發しなかつたなら、波斯の名は世界地圖の上から永久に消去されてゐたに相違ない。

一九一七年革命のために帝政顛覆してレニンの天下となるや、露西亞はこれまでの侵略的帝國主義を抛棄し、波斯に對しても併合や搾取は斷じて行はないこと、帝政時代に強奪した壓迫的諸條約や利権は悉く廢棄することを宣言した。初代の勞農大使ロトシユタインなどは、日を定めて大使館を市民に開放し、民衆の肩を叩いて歡談するといつたやうな同僚振りを發揮したので、白人の驕慢横暴に萎縮しきつた波斯人の中には翕然として親露熱が昂まつた。

しかし波斯にとつては一難去つて一難來るで、勞農露西亞が一時國際政局から手を引いたのを機會に、一九一九年英國は大軍を派遣して英波協約の調印を強要するに至つた。この協約こそ波斯全土を英國の一屬領に化してしまはうといふ大野心を具體化したものであつたが、波斯議會は死を賭して敢然これが批准を拒絶した。英國は脅迫につぐに暴威を以てして、飽くまで野望を遂げんと焦慮してゐたが、此の時恰も勞農露西亞の精銳赤衛軍は、デニキン、ウランゲル等の反革命軍を紛碎して再び波斯の舞臺に登場した。昔日の虎狼は今日の盟邦である。波斯は宿敵英露の拮抗のお蔭で危くも滅亡を免れることが出來た。

三 クーデターより無血革命へ

この内憂外患を眼のあたりに眺めながら、愛國者リザ汗は決して眠つてゐたのではない。學問こそなければ、彼には鐵の如き意志があつた。巧言令色こそ知らないが、粗朴柔和な資質には自ら大衆を惹きつけるリーダーシップが具はつてゐた。彼は兄弟の契を交はした多くの部下と共に、早くから「波斯人の波斯」を理想とし、因習と迷信の國を列強の干渉から解放して、鞏固な近代的國家へのスタートを切らうとする大望を圖つてゐたのである。

リザ汗は既にして目的のために進歩國民黨を組織し、土耳其の國民黨、埃及の國權黨に倣つて國權を恢復する一方、頑迷なる王朝を廢して共和制を布くことを念願してゐた。

一九二一年二月、當時コサツク師團の無名の一佐官に過ぎなかつたリザ汗は、突如僅三千の兵を率ゐて首都テヘランに進撃し、クーデターを斷行して議會を占領してしまつた。

クーデターは美事に成功し、リザ汗は自黨の先進セイード・チア・ウドゼンを首班とする内閣に一躍陸軍大臣の要職を贏得したが、デン首相が英國に財政的援助を求めたために國民の信任を失ふや、彼は首相を強要して、コサツク師團に次ぐ精銳憲兵隊の統帥權を手中に移させたので、丸

腰になつたチンは居堪たまれず、英軍の保護を求めてバグダッドに逃走した。その後を襲つて、彼が首相に親任されたのはクーデター斷行の二年後であるが、同時に陸軍大臣、波斯軍元帥の地位をもその儘兼任する事になつたので、無名の一兵卒から叩き上げた彼は、今や斯波の政權、兵馬の權を完全にその手中に收め、勢威國王をも凌ぐ獨裁執政官たるの觀を呈するに至つた。

當時弱冠二十四歳の國王アーマド・シャールはリザ汗が首相となると間もなく、皇弟モハマッド・ハッサン・ミルザ・ヴァリアードを攝政に任じ、國を去つて巴里に出掛けたが、健康のためといふのはたゞ表向の理由で、實は人心既に王室を離れた事を看取した結果であつた。

事態がこゝまで進めば、國王を廢して共和制を樹立するのはもはや一舉手一投足の勞である。果然一九二四年の三月、國民黨は社會黨と提携して共和制宣言案を議會に提出する運びとなつたがその無血革命が將に成就しやうとする間際に、回教僧侶や王黨から頑強な反對が起つた。元來波斯に於ける僧侶の勢力は大したもので、僧正の命には國王さへも唯々として服従しなければならなかつた。それが一朝共和制でも實現しやうものなら、その傳統的權力を奪はれてしまふことは火を賭るより瞭かで、殷鑑遠からずアンゴラ政府治下の土耳其を見れば直ぐわかると言ふのが反對理由で、彼等はリザ汗を神の冒瀆者と罵り、猛烈な勢ひで逆宣傳を始めた。

波斯の元日に當る三月二十一日、リザ汗はこの狂熱的反對を押切つて共和制を宣布しやうとしたが議會の内部は暴徒の闖入のために蜂の巢を突いたやうになり、惡罵を浴せかけて壇上に詰寄るもの、遠くから彼を眼がけて石を投げつける者など續出して遂に共和制宣布はお流れとなつてしまつた。リザ汗は直に辭職し、首府を去つて飄然マゼンデランの生地に引込んでしまつた。その時彼が残して行つた宣言文は、回教の安全を脅かし國內の紛擾を醸す共和制は波斯には適しないと言ふ絶望的な告白であつた。その眞意は、祖國を救ふ最良の方策として自ら王位に登る決心を固めたものと思はれる。

四 王位に登る

しかし、間もなく波斯はリザ汗無くしてはやつて行けない事を覺り、議會は特派使節を草深いマゼンデランに派してその出慮を懇請した。かくして彼は、嘗ては石を投げつけたテヘラン市民の熱狂的歡呼を浴びつゝ再び首相の樞職に戻つて來たのである。

復活後先づ第一に着手したのは極度に疲弊した財政の改革で、その難事業が緒につくと、國內統一の第一歩として、イラク國境のモハマラ族征討の軍を起した。モハマラには英波石油會社が

あり英國の干渉の策源地で、英國の威を借る首長カザール汗は暴慢不遜、納税さへも拒絶する有様だつたので、邊境の豪族を中央の威令に服せしめると同時に、英國の内政干渉に痛撃を加へると言ふ一石二鳥の作戦に出たのである。支那の國民軍が孫傳芳を尻押する英國の鼻を明かさんかために、南京上海を手に入れたのと同じ筆法である。

リザ汗は此の征討軍に總司令となつて自ら陣頭に立ち、惡戦苦闘數ヶ月の後、頑強なるカザール汗を遂に屈服せしめた。此の大成功を聞き知つたテヘラン市民は、凱旋將軍の華々しい入城を鶴首して待つたが、深謀遠慮の彼はその儘イラクに入つて、國教シーア派回教の聖地ケルバラ、ナジェフに敬虔なる巡禮の旅を試みた。この賢明な行動は、先に彼を神の冒瀆者とまで罵つた回教僧侶、一般信徒をどれ程隨喜湯仰させたか知れない。

一九二五年一月一日、バグダッドを發したリザ汗一行がテヘランに入る時は、宛ら生神を迎へるやうな騒ぎであつた。

その年の二月、リザ汗は國王及び攝政の干渉が國政改革を妨げる事を理由として「國王か汗か二者いづれかを擇べ」と、眞正面から大膽な要求を議會に突きつけた。議會は暫く猶豫を乞うて巴里はオテル・マゼスチックに、結局氣樂な亡命の生活を送つてゐた國王に歸國を乞ふ急電を發

した。

テヘランを去る時、時價四千萬弗もするモグール王朝傳來のダイヤモンドを始め、莫大な財寶をそつくり持出した七世の王青年アーマドは、金のあるに任せて賭博場に入りし、巴里の一女優に魂を打込んで我を忘れるなど、限りない姪逸遊惰のデカダン生活に溺れて、今は祖國を顧みる意志などは毫頭ない。この狂態に愛憎を盡かした議會は十一月三十一日に至つて王朝廢止案を可決し、その翌々日にはリザ汗を國王に推戴する決議を可決した。かくして一滴の血をも見ない合法的革命は成就された。衰殘垂死の祖國に始めて潑刺たる新興の脉を搏たせた國民的英雄！

かくしてアガ・ムハメッド以來百五十年の間波斯に君臨した來たカジャール王朝は冷然弊履の如く打ち棄てられ、リザ汗のパーレヴィ王朝は新興の意氣白熱する中に光輝あるスタートを切る事になつた。

彼が政權を握つて以來短時日の間に成しとけた事績は非常に多い。英露を始め歐洲諸國の教官に訓練されて來た波斯軍隊は完全に波斯人の手に移され、歐洲人の教官はすべて罷免された。リザ汗が養成した七個師團二十五萬の精銳は國內の要所々に配置され、殆ど無政府状態に等しか

つた國內の秩序を完全に維持してゐる。彼は此の精銳を提けて、先づイラクに接する國境地方の蕃族ルール族を平定し、西部南部に跋扈するアラビスタン、モハメラ、バクチアリ等を次々に鎮定して、長い事持て餘してゐたアラビア人の酋長や回教徒の酋長などにも斷然中央政府に忠順を誓はせた。かくして波斯全土の統一は彼の手によつて始めて完成されたのである。勇武絶倫のリザ汗は、此の間常に陣頭に起つて全軍を率ゐ、或る時は詭計を用ゐて酋長等を逮捕し、或る時には自ら長劍を提けて敵陣に躍りこみ、一騎討の勝負に叛將を打ち取つたなど、中世紀の騎士にもありさうな物語式の武勇傳が澤山傳へられてゐる。

武力統一の大業が着々進捗すると同時に、第二の方策たる國權回收の實行も飛躍的に進展して行つた。米國人の財政顧問、白耳義人の税關吏員を除く一切の外國人顧問を廢止し、英國に對してはその勢力範圍から一兵も残さず駐屯軍を撤兵させるに成功し、英國軍人を主とする南波斯統兵軍を武力を以て解散させ、波斯灣沿岸地方の英國郵便局を閉鎖せしめた。僅か十年以前までは絞殺の憂目にあつて假死の状態にあつた積弱の一小國が、かくも斷乎たる行動に出で大英國を後目にかけるやうなどは想像さへも及ばぬ事であつた。土耳其のケマル・パシヤ、支那の蔣介石と共に亞細亞民族のために萬丈の氣を吐けるものである。

財政改革、産業の振興、交通機關の整備、教育の改善——これ等の重要國策は今リザ汗の創意によつて着々好果を結びつゝあるが、特に注目し値するのは、彼が事實上強力なる獨裁執政官であるにも拘らず、保守排他の狹隘なる愛國狂シヨククニキではなく、極めて進歩的で寛容と正義を信條とする民主主義者であるといふことである。例へば、リザ汗は勿論政府の役人は悉く國産の布以外は身につけない事になつてゐるが、その綿布を製織するのは異教徒である拜火教信者所有の紡績工場である。猶太人ユダヤもネストリア教徒も平等の待遇を與へられ、最も進歩的な分子で以前はひどく虐待されたバハイ族でさへ何の壓迫をも蒙らず、均しく波斯國民としての恩澤と誇りを分つてゐる同じ獨裁者でも、伊太利のムツソリニ、西班牙スペインのプリモ・デ・リヴェラなどに比すれば非常に興味ある對照である。

五 或る日のリザ汗

リザ汗が未だ首相時代、夏の或る一日を首都テヘラン郊外シルムランの避暑地に各國使臣を招いて一席の清宴を催した。

その席上、始めてリザ汗に會つた米國のハリソン夫人は、彼の印象を最も躍如として傳へてゐる

る。

綺羅を飾つた紳士貴婦人の妍を競ふ眞ん中へ、間もなく姿を現したのは、水兵服を着た可愛い男の子の手を引いた背の高い人物であつた。それがリザ汗であることは前から寫眞で知つてゐたが、知らない人が見たら恐らくその部下の將校の一人位にしか思はなかつたに違ひない。彼はダブ／＼の飾り一つない、それに少しも身體に合はない粗末な軍服を着込み、頬には無精髻さへはやしてゐた。案内役の、キチンとした服を着けたスマートな男と比べると、全く二度と見られた恰好ではない。

しかし身装は兎も角も流石はリザ汗で、どんな人ごみの中でも直ぐ見分けのつくやうな異彩を放つてゐた。顔色はどことなく陰鬱で、幾度となく戦場を往來した酸苦をしのばせてか、顔は日にやけて黒々としてゐる。口は眞一文字に閉され、眼は獨得の輝きを以て厚い眼瞼の下から炯々と人を射る。何ものをも見逃すまいとする眼といふのはこのことであらう。

リザ汗はお茶の済んだ後政治問題に言及して、國民の半分しか納税を負担してゐない波斯の現状を歎き、國內に跋扈する封建制の打破から一舉に近代國家の建設を眼がけねばならない苦心を述べ、中央集權を確立するために歳入の大部分を軍隊維持に費さねばならない現状を不本意さう

に告白した。話がはづんで來るに従つて、ちよつと見の氣むづかしさはすつかり取除かれ、いかにも人間味の豊かな快活な男性としての彼が活々と眼前に躍つてゐた。

リザ汗の妻については餘り知られてゐないが、彼には今年八歳になる一粒種の男の子と、二人の娘がある。さしもの強豪大英國を後に陞若たらしめたこの風雲兒も、家庭に歸れば子煩悩の一慈父に過ぎない。彼はこの掛替のない一人息子に對する愛着絶ち難く、威容を正す外國使臣謁見の場合でさへも、常に愛兒の手を引いて儀禮の席に現れるのを慣らはしにしてゐる。パーレヴィ王朝第二世の王たるべき運命をもつた一少年が、絶えず父王の慈愛深い視線を浴びつゝその側に佇む情景は、一入人間味豊かな興趣をそよめるものがあらう。

リザ汗は今年五十一歳の働き盛りである。復興の意氣旺であるとは言へ國內的にも、國際的にも波斯の將來は依然として多事多難である。彼の舵取る亞細亞の小舟が、獨力よくこの澎湃たる大洋の荒浪を乗切るかどうか、それは單に波斯國民のみならず、全亞細亞民族の刮目して見んとする所である。

チエツクの建國者マサリツク

一 ソコル祭の大胸像

奥匈帝國瓦解の跡から芽を吹出した新興國チエツク・スロヴァキア共和國の故土ボヘミアには、古くからソコルといふ國民的大運動が組織されてゐた。

これはミロスラヴ・テウルシュ博士といふ哲學者で古代藝術の研究家が一八六二年、三十歳の一青年の身を以てブラーグに樹てた小さい體操俱樂部が抑もの濫觴をなしてゐる。彼は希臘、伊太利に遊んで痛く古代藝術の美に心を打たれ、民族解放の一準備としてチエツクの國民藝術と體育の復興を圖らうとしたのがその根本の動機で、奥匈國政府の壓迫の下に呻吟しつゝあつたチエツクの政治家や民衆は期せずしてその周圍に集まつた。

此の運動の根本精神は、一國民の生存を保障するものはその肉體的道德的並に精神的の健康であり、肉體が平衡と調和を得てゐなければ、その中に健全な頭腦と人格を盛ることは出来ないといふ主張であつた。特に小國民は大國民以上に努力しなければならない、眞善美を追うて日夜向上の一路にいそむ國民であれば、どんな外敵も武力も恐れる事はない。たゞ大切なるは、全國民が一致協力することで、如何に優れた精鋭を以てしても少數では力がない。すべての國民が「勝利か然らずんば死」といふ覺悟で事に當る決心をしなければならぬといふのが、團員の遵奉する不文の憲法である。

テウルシュ博士のソコル運動は隱然たる獨立解放運動として國民の間から白熱的の支持を受け瞭原の火の如き勢ひを以てボヘミア全土に擴がつた。大實業家ジンドリヒ・フューゲナーは、その娘を彼にめあはせ、その財産を投じてブラーグに最初の大ソコル競技場を建設したが、一八八四年に彼が死んだ後も、守護神のやうにその遺業の成育を見守つてゐた。彼の後を繼いで現にソコル團長の地位に在るのはジョセフ・ジャイナー博士である。

ソコル團は現在同國一千萬の人口の中に七十萬といふ多數の團員三千以上の支部を有し、その中年男子が二十五萬、婦人が十萬、青年男女九萬、少年少女が二十二萬を占めてゐる。ソコルと言ふのはチエツク語の鷹の意味で、團員はみな黒の編帽子に鷹の羽毛を挿してゐる。

團員の主なる訓練は體操とマスゲームであるが、その他拳闘、馬術、射撃、ボート、スキー、

スケート等あらゆるスポーツを網羅し音楽、演劇の藝術的修養、講演、旅行にも力を入れてゐる。大會は五年又は六年に一度特別の祝祭として開かれる。之が有名な全國オリンピック大會——ソコル祭である。最近の大會は一昨々年首都ブラーグに開かれた。團員の奉仕的勞働と百萬圓の巨費を投じて作られた大競技場の中央には一段高い壇を設け、その上には身丈の三倍以上もあらうかと思はれる石膏の巨大なる胸像が安置され、その周圍には三色の國旗を始めとして各地方のソコル團旗が林の如く立つてゐる。この溫顔慈父の如き大胸像の主こそは、チエツクの建國者、現大統領マサリック博士の姿である。彼の巨像は、チエツクの愛國的老幼男女が、祖國愛に燃えて演ずるすべての競技を快よけに見守つてゐるのだ。

大競技場を埋めた入場者は實に十五萬に餘り、それが毎日數時間息を凝らし聲をひそめて立ち盡してゐた。その間誰一人として煙草を吸ふ者もなく、マスゲームを指揮する音楽の調子を亂すまいとして喝采さへも遠慮してゐた。

白の運動シャツ、濃い藍色のズボン、鷹の羽をつけた制帽の一萬五千人の青年が百八十人宛二十列の四縦隊を作り、ソコルの急進曲につれて堂々と入場する。音楽がバタリと止むと、全員はバツと兩脚を踏みひろげ、槍投のポーズのやうに兩腕を斜に天と地にのばして、鋭い聲で國家と大統領の萬歳^{ナツグイ}を三唱する。續いて白い上衣と濃い藍色のソコル・スカートをつけ、赤色の布を頭に巻つけた一萬三千の女子團員が入場する。マスゲームや體操が、樂の音につれて一絲亂れず、新興の意氣を高らかに展開する。確にソコル祭は古代希臘のオリムピック祭以來の驚異的壯觀である。

大會の三日目、三萬六千人の男子と二萬五千人の婦人から成る大行列は大統領の住むブラーグ城前で萬歳を叫び、更に行進してオールド・タウン・スクエアの一角に起つ國民的英雄宗教革命家ヨハン・フッスの銅像の周圍に集まつた。ソコルは嚴肅な沈黙の裡にフッスが殉教の火刑の餘燼から神々しくも起き上る姿を象つた銅像に敬禮をなし、遙かのチン教會の塔からは「汝、神の勇士よ」と言ふフッスの讃歌の鐘が嚴かに鳴り響いた。

廣場を埋めた人々の心には、國民的二人偉人マサリック大統領とフッスの姿が並んで描き出された。實にマサリックと今日のチエツク共和國對ソコル運動の關係は、昔の殉教者フッスとその門下の宗教改革運動との關係に異なる所がない。たゞフッスは有名なブラーグの四ヶ條を以て蹶起せるに對し、ソコルは「利を求めず、名を求めず」の合言葉の下に結束しただけである。

伊太利が國民運動としてファツシヨを有することは知らぬ人がないが、チエツクにソコルのあ

る事は知る人が甚だ尠い。

チエツク建國の由來をたづね、建國者マサリツクの偉業と國民的信望を知るには、是非ともこれだけは念頭に置かねばならない。

二 悲壯なる獨立運動

チエツク・スロヴァキアが臥薪嘗膽獨立の日を待焦がれてゐたのは、決して一朝一夕の事ではない。過去の歴史が光輝燦たるものあるにつけても、その熱望は益々熾烈を加へるばかりであった。が、世界を震撼せしめた大戰の結果は果然奥匈帝國の没落となり、ウイルソンの提唱した民族自決主義の大原則によつて、多年待望された完全な獨立は遂に贏ち得られたのである。

此の新興國を組成するものは、舊奥匈國內のボヘミア(チエツク王國といふ名ばかりの王國として奥太利皇帝が王位を兼ねてゐた)モラヴィア侯領、シレシア公領に住するチエツク族、舊國の北部スロヴァキア州に住するスロヴァツク族のスラヴ人種中の二民族を主とし、カルバート山脈南方に住む少數ルテニヌ人を加へたものである。

チエツクとスロヴァツクの兩種族は、五世紀の始め南方から侵入して來てブーム族を追ひ、此

處にボヘミア王國、モラヴィア王國を建設して一時大に隆盛を極め、オタカラ・ブシエミースル王の如きは奥太利侯國や匈牙利王國を合併せんとする勢ひを示した。この遠大な計畫は失敗に歸したが、後に神聖羅馬帝國の皇帝を出したことは此の王國の偉大なる誇りであつた。その後獨逸帝國が勢力を伸張するに及び、ボヘミア王國はモラヴィア王國を併せて帝國內の一邦となり、國王は皇帝を選擧する七人の選擧侯の中に加はつた。ヨハン・フツスが宗教改革運動を起したのは此の時代である。

フツスは當時神の代理人として權勢を恣にしてゐた羅馬法皇に叛旗を翻へし、公然信徒の自由を高唱した。チエツク民族はフシストといふ一團を組織してフツスの理想のために闘つたが、一四一五年六月六日フツスは遂に異端者として火焙りの刑に處せられた。しかし彼が國民の胸中に植ゑつけた進歩の精神と良心の自由、眞理に基く綱領と政策とは、長く國民の思想を支配する原動力となつたのである。

ボヘミアはボジエブラッドがチエツク民族に推戴されて王位につくに及び、再び獨逸民族の羈絆を脱して十六世紀始めまで黄金時代を續けたが、一五二六年當時中歐の覇者たるハップスブルグ家が一族の者をボヘミア王に推すに至つて、名譽ある獨立はもはや有名無實のものとなつてし

まつた。しかもハツプスブルグ家は王位を繼承するや掌をかへすが如く公約を破つて極度にボヘミアの宗教と自由を蹂躪し、九百年來匈牙利の版圖に併せられてゐたスロヴァツク族、またマギアール人から慘酷極まる迫害を加へられるやうになつた。

この暴虐に奮起したチエツク人は、一六一八年フアールスキーを推して革命政府を樹立したがその翌々年にはブラーグ近郊、有名なる「白山」^{ビラホラ}の決戦に致命的敗北を招き、以來歴史あるボヘミア王國は完全に獨立を失ふに至つたのである。

しかし、奥匈國內十餘種の民族中で最も堅忍で文化程度の高い、政治的才能に於ても經濟的才能に於ても拔群なるこのチエツク民族は、決して獨立の希望を棄てなかつたばかりか、悲痛なる失敗の重なる毎に益々熾烈の度を加へるばかりであつた。

熱烈火の如き愛國者は迫害の手をも恐れず、青年チエツク黨を組織して、古い國權の恢復に必死の運動を續けた。その當面の目標は自治の確立であつた。

やがて大戰の幕が切つて落とされると共に、此の機會を逸しては永久に獨立の日に廻り合ふ事は出來ないと感じた青年チエツク黨は、勇猛果敢にその旗幟を獨立運動に塗替へた。決死！ 彼等は文字通り決死の覺悟で獨立のために奮闘した。この決死の獨立運動こそ、血に塗みれた歐洲

大戰史中でも最も悲痛な情景を含んだ一頁である。

ボヘミア人とて奥匈國の臣民であるから、獨逸軍の指揮の下に無理矢理戰場に引出されなければならなかつた。しかし彼等は決して戦はなかつた東部戦線に引出された三十萬のチエツク軍は悉く露軍に降つて鋒を逆しまにし、西部戦線に廻された者は佛伊軍に投じて獨逸軍に弓をひいた國民は斷然戦時非常税の納附を拒み、政治的叛逆の烽火は公々然とあけられた。血眼になつた官憲が如何に苛酷な迫害を彼等の上に加へたか、それは想像するに難くあるまい。開戦後三ヶ年間に政治犯として死刑に處せられた者ばかりでも、無慮六萬の多數に達してゐる。この六萬の國民が従容として死についた光景は、想ふだに凄慘悲壯の極ではないか。

彼等は「獨立か、然らずんば民族の全滅」を叫んで、悲壯にもそれを實行したのである。火焙りの刑にあつても尙法皇に一步も屈しなかつた英雄フツス、——チエツク國民一人／＼の體内に脈搏つのは實に彼フツスの殉教的精神だつたのである。

建國の恩人マサリック博士は、この時既に舞臺に上つてゐた。いや、樂屋の中で科白^{せうはく}をつけてゐたと言つた方が當つてゐるかも知れない。兎に角これから以後の局面は、マサリックの名を除外しては一言も語る事が出來ないのだ。

三 知的革命の導火線

故ブライス卿は、マサリック大統領を以て世界最大の政治家の一人として激賞を惜まなかつた。彼はウイルソンと同じやうに大學教授から政界に入った人であり、ウイルソンと親交を結んでその援助を受けること多大であつたが、ウイルソンが政治學、法律學を修めて純然たる理想、主義に徹し、マサリックが哲學、文學を専門として政治的に現實主義に即した事は興味あるコントラストである。

マサリックは一八五〇年三月七日、ボヘミアのモラヴィア境に接したホドニンといふ田舎町に生れた。父は當時墺太利皇帝の御料地で馭者をしてゐた無學文盲なスロヴァック人、母は女中奉公をしてゐたチェック人であるが、そのお蔭でマサリックは血統から言つても、地理的文化的に見ても、チェックとスロヴァック二民族を渾然一身に融合したチェック建國にはまたと得難い尊い楔となつたのである。

家は勿論貧しかつたので、ちよつと小學校に上つた後鍵職人の徒弟になつて鍛冶職を習つた。しかし勉強の好きな此の徒弟は、夜になると親方の眼を盗んで本を読み、とう／＼十五の歳獨學

でブルノ中學の二級編入試験を受けて美事合格した。やつて見ると素質があると見えて頗る成績が好い。そこで親も學問をさせて見る氣になり首都ウイennaの中學に轉校させたが、マサリックは親の眼識に違はず優等の成績でこゝを卒業した。

爾より苦學する約束であつたら、親許からの送金はほんの僅ばかりしかなかつた。だから二三日飯も食はずに本に嚙ぢりついてゐた事も珍らしくはなかつたが、その間にせつせと語學を勉強して、露西亞語、波蘭語、佛蘭西語の翻譯で相當の小遣がとれるやうになつた。こんな苦しい思ひをしながらも、胸中洋々たる希望に驅られ、大好きな沙翁シェイクスピア、シラー、フンボルトの研究を怠らなかつた。詩も作つた、小説にも筆を染めた、中でちよつと意外に思はれるのは、あんな難かしい顔をしながら頗るユーモアに富んだ漫畫が御得意なことである。彼は大の獨逸嫌ひだつたら好んで普魯西士官の小面憎い顔を槍玉にあけ、級友から喝采を博してゐた。一八六六年、普魯西軍がモラヴィアに侵入して來た時のこと、マサリックは當意即妙の大ポスターを作り、「目下コレラ蔓延中」と大書して町端れに貼出した所が、何千かの普魯西軍が泡を喰つて逃げ出したといふやうな機智に富んだ逸話もある。

中學卒業後續いて大學に入り、これも優等で卒業して間もなくウイenna大學の講師となつた。

そこから留學生として獨逸のライプチヒ大學に派遣されたが、そこで佛蘭西和蘭系オランダの米國人の娘シャーロット・ガーリグと戀に落ち、一年の後娘の故郷ブルックリンに行つて結婚式を挙げた。それ以來マサリックは妻の姓をクリスチャン・ネームに加へてトーマス・ガーリグ・マサリックと呼ぶやうになつた。夫人は波瀾多き夫君の事業に同情と理解をもつて全力を盡し、内助の功を積んで幸福な生活を送つてゐる。日本流に算へれば今年七十九、既に喜字の祝を過した老翁が鼠色の乗馬服に銀の拍車も若々しく、時折夫人と轡を並べ、矍鑠として遠乗する姿をブラーグ市民に見せてゐる。

一八八二年彼はブラーグのチェック人の大學に哲學の教授として赴任した。此の時は既に有名な「自殺論」や「催眠術論」を著して學界の注目を受けてゐた時代である。その翌年彼の哲學者としての地位を不朽ならしめた名著「ヒューム論」を著した。これはカント派の獨逸哲學からの解放を主張し、ヒューム、コムト、ミル、スペンサーの流である英佛の實證主義的進歩哲學を力説展開したものである。彼の態度の基調は、フッスの言葉の如く、「死ぬまで眞理を求め、眞理を愛し、眞理を擁護せよ」といふに在つた。彼はこの主張の下に最も嚴正なる學究的良心に起つてその所信を發表したのである。

しかし彼の學者としての蘊蓄は單に哲學のみには限らず、頗る多方面に文學科學の諸分科に及び、該博なること百科全書の如く、深遠測り知るべからざるその學殖は夙にボヘミアの知的革命の導火線となつたのである。

四 正義に立つ

マサリックがブラーグ大學の教授をしてゐる時代に、チェック獨立運動史上に特筆大書さるべき一つの事件があつた。

一九〇四年ボヘミアのコツラニー村生れの農夫の悴ベネシユといふ一青年が見すほらしい服裝をして入學して來た。彼は學資に乏しい苦學生であつたが、マサリック教授は忽ちその非凡な才能を見抜いて頻りに巴里留學を勧めた。青年は恩師の勧めに感激し、僅か六十クローネン(約三十圓)の金を工面してソルボンヌに留學した。其後佛蘭西で「墮太利問題とチェック問題」なる愛國的論文を書いて法學博士の學位を授けられたばかりか、當時殆ど世界に知られてゐなかつたチェック民族の苦境を廣く歐洲政治家の胸に訴へる所があつた。ベネシユは其の後母校に迎へられて社會學の講師となり、舊師マサリック博士と同僚の關係となるに至つたが、彼こそは後年マ

サリック博士の最も信頼する片腕として故國の獨立のために縦横の活躍をなし、獨立恢復の後には引續き首相となり外相となつて、國威の發揚に偉大なる貢獻をなしつつあるエヅアルド・ベネシユ博士の前身であつたのだ。

マサリックが政界に乗出したのは一八九一年代議士に當選して以來の事であるが、彼は此の頃から奥匈帝國を自由國家の聯邦組織に改造せんとする理想を抱き、着々それに必要な實力の養成に取かゝつてゐた。彼は當時の政界の專制的空氣に慥らずに職僅か二年で辭職したが、一九〇七年に現實主義を旗幟とする小政黨「現實黨」(普通にチエツコ黨と言はれる)を組織し、その首領として再び下院に返り咲き、引續き世界大戰の勃發まで下院の異彩としてチエツク人滿腔の支持を受けてゐた。

この間にも、飽くまで正義を愛する彼の眞骨頭を發揮した事件は二三にして止まらない。その一つは國民の迷信のお蔭で死刑を宣告された一猶太人^{ユダヤ}の命を救つた事件である。プラーグの裁判所は、その猶太人ヒルスナーが宗教上の迷信から基督教徒である農夫の娘をポルナの森の中で殺したといふ廉で、一も二もなく死刑の宣告を下し、例によつて猛然たる猶太人排斥運動は全國に擴がつた。が、マサリックの調査した結果によればそれは全然無實の罪で、裁判所が迷信の力に

驅られ虚構の事實に基いて斷罪した事が明かになつた。で、彼は獨り敢然としてその判決の不當を鳴らし、ヒルスナーの釋放を主張した。血迷つた民衆はあべこべに彼に喰つて蒐つた。平素彼を尊敬してゐた學生連さへも猛烈な非難を浴びせかけて、教場に於ける講義さへも出來ないほどの亂暴を働いた。けれども彼は最後までたつた一人で闘つた。そして遂に勝利は彼のものであつた。後で學生達が平謝りに謝つて來た時、彼は撫然として言つた。

「イヤ誰が悪いんでもない。みんな迷信のさせる悪戯なんだ。若し諸君が私の態度に誤りのない事を知つたなら、これから一緒に國民を迷信から解放する運動に全力を盡くさうではないかと。」

もう一つの話は、國民が最も誇りとする歴史的古文書の作り物である事を素破抜いた事件である。此の古文書によると、ボヘミアには嘗て古代希臘^{ギリシヤ}や羅馬^{ローマ}に劣らぬ黄金時代があつたといふことで、國體の精華を鼻にかける連中はこれこそ國寶以上の國寶だといつて自慢してゐたものだ。所がマサリックの綿密周到な考證によつて、どんなに古く見積つても十八世紀の前半よりは古くない文書である事が暴露されたから堪まらない。國史を汚辱する奴だ、非國民だ、賣國奴だといふ非難が轟々として起つた。しかし彼は、「チエツク人は虚偽の砂上に希望の樓閣を打ち建てて

はならない。將來の希望は正義と眞實の上にかゝつてゐるのだ」と絶叫して、最後まで一步も譲らなかつた。

彼の正義論が更に大きい波紋を投じたのは、一九〇八年奥太利が獨逸の帝國主義的世界政策の傀儡となつてボスニア、ヘルゼゴヴィナ兩州を合併した政策に反對した時の事である。彼はこの侵略政策を以て明かにセルビア人に敵意を示せるものであるとして斷然反對論を唱へ、更に外相エーレンタール男がバルカン政策の基礎となせる有名なるフリードユング・ヴァシツチ文書が全然偽造されたものである事を摘發して政府の急所を遺憾なく剔抉した。

こんな具合で、政治家としてのマサリックは絶えず奥匈政府からは睨まれるやうになつたが、それと反對に全チェック民族の信望は日増に厚くなるばかりであつた。

五 祖國の獨立遂に成る

マサリックは愈よ政治家として頭角を現して來たが、決して政治の萬能を信するやうな淺薄なポリチシアンではなかつた。

チェック獨立の希望についても單に政治上の獨立を獲得するばかりがチェック人を救ふ所以で

はなく、獨立運動は畢竟するに社會問題であるといふ見解をとつてゐた彼は、その著「社會問題」に於て次のやうに述べてゐる。

「人がその祖國を謳歌し渴仰するのは結構な事ではあるが、それには先づ大膽に現實を直視せねばならぬ。惠まれざるチェック人が、彼にとつては貧しい廢屋である國家に果して何を見るか。狭苦しい住家の中に、子供等は肉體的にも精神的にも餓死せんとしつゝある時、チェック人はその祖國に對して果して何をなし得るであらう。かう言ふ人々にはたゞ言葉だけを與へたのでは何にもならない。先づ改善された住宅を與へよ。彼等が新しき地平線を望む時、必ず貧のどん底に在る時とは異つた國家的感情を抱くであらう」と。

彼は「眞實の」——單なる「政治的」のでなく、——獨立運動の基調として道德の向上と教育の振興とを根本要件となし、國民を道義的にも智的にも文化的にも、世界の先進國と比肩し得る程度に發達させなければ獨立も畢竟するに空名に過ぎないと喝破した。しかもその目的を達せんとすれば、先づ國民に衣食の途を與へるのが先決問題であると呼號したのは、流石は大政治家の見識である。

やがてチェックの運命を定むべき大戦は勃發した。

マサリック教授は、國民的希望を貫徹せんがために、以前からマフィアと言ふ秘密結社を組織し、ベネシユと共に地底の活動を續けてゐるが、大戰勃發と共に官憲の壓迫はいよ／＼苛烈を極めるに至つたので、開戦の年十二月有名な天文學者ステファニツク博士と共に國境を脱して瑞西に入り、そこを策源地として公然反獨逸運動の火の手を擧げた。彼の目標は奥匈帝國を分解してチエツコ・スロヴァキア、^{ポーランド}波蘭、ユーゴ・スラヴィアの獨立國を建設するにあつた。

マサリックの熱意に振ひ起つたチエツコ國民が、死と直面しつゝ如何に勇敢に闘つたかは既に述べた。しかも老愛國者は「老人だとして國民の一人に劣るやうなことがあつてはならぬ」といふ意氣込みで、ベネシユ博士等と共に巴里に移り、こゝを獨立運動の本部として必死の運動に移つた。佛國首相ブリアンがチエツク援助を約するまでには、チエツクの存在さへ知らなかつた聯合國民の間に無数の檄を飛ばし、各國の主なる政治家を説得するなど、文字通り席煖まる暇のない活動が續けられたのである。

マサリックはそれから老驅を提けて伊太利を廻り、英國に渡り、露西亞に入り、日本を訪れ、米國を遍歴し、チエツク獨立のために舌に筆にあらゆる努力を試み、露西亞ではソコルを糾合してチエツク軍を組織したが、その大軍は聯合國の對露戰作の犠牲となつて全然孤立の憂目に陥り

西伯利亞を横斷して浦潮から西部戦線に轉じやうとした。その輸送を助けるために日本のチエツク救援(西伯利亞出兵)となつた経緯は記憶に新しいことであらう。

巴里にはその頃既に國民委員會といふチエツクの施政機關が樹立されてゐるが、戦時中先づ聯合國から民族間の交戦團體たる事を認められ、休戦條約成立四日目、即ち一九一八年十一月十四日故國の首都プラークに開かれた國民議會は、選挙の代りに満場一致拍手を以てマサリックを初代の大統領に推舉し、正式に獨立を宣言した。

折柄米國に遊説中であつたマサリックは十二月二十一日盛大な儀式の下に入市式を擧げ、新憲法に對する宣誓を行つた。この夢寐にも忘れなかつた國民的歡喜の日を迎へたプラークの街は、満都五彩の花を以て埋められ、花婿を迎へるやうな晴やかな空氣に満たされてゐた。

古來百萬の生靈を犠牲にした慘憺たる獨立運動は、斯くて一つに結ばれた兄弟民族チエツコ・スロヴァキア人の頭上に、光榮盡きぬ白緑赤の三色旗を翻へすに至つたのである。

それと同時に彼の理想とした波蘭、ユーゴ・スラヴィアも各々その國民的希望を達成する事が出来た。その裏面には、ウイルソンを動かした彼マサリックの努力がどれ程與かつて力あつたか知れない。彼は單にチエツコの建國者であるばかりではなく、同時に幾多の國の「國家製造者」

だつたのである。

六 非英雄的英雄

マサリックが正式に大統領に選挙されたのは一九二〇年の五月である。憲法には大統領の任期を七年とし、何人も引続き二度と重任する事を得ない規定になつてゐるが、この規定は獨立の恩人たる初代のマサリック大統領には適用しない事を明文を以て定めてある。チェック國民が如何に彼を愛慕し信頼を捧げてゐるかはこれを以て見ても首肯かれやう。果せる哉、昨年五月の改選に際しては、國民議會全員一致して再び彼を大統領に推戴した。マサリックは今年齡七十九、光榮ある餘命幾何を残すか知らないが、終身此の榮職にあつて國政に盡すべき事は疑ひを容れる餘地がない。憲法起草者の意圖も實にそこにあるのだ。

彼は最初の大統領就任式に臨んだ時、謙抑な態度を以てかう述べた。

「私が今日この榮位に選挙された事は非常な光榮であるが、私はこれを以て決して過去の仕事に對する報酬であるとは思はない。たゞ私が微力をその基礎工事に捧げた國家の完成に對して、今後とも援助するやうにとの國民からの委任だと考へるものである」と。

彼はその事蹟から見れば、ボリヴァーやカヴールに比すべき建國の英雄でありながら、少しも英雄的な外觀をもつてゐない。その人物から言へば、トルストイとホイットマンを一緒にしたやうな複雑さと熱情を具へてゐるが、同時に最も繁劇な戦線の活動的闘士である。科學者とステーツマン、理想主義者と現實主義者を聖徒の如く一身に融合せしめた偉大なる人格者である。プライス卿が、彼を世界の最大な政治家の一人と激賞した言葉は、こゝでもう一度嚙みしめて見る値打があらう。

建國後のチェッコ・スロヴァキア國は、他の中歐諸國と同じやうに生の苦しみよりも深刻な疲弊に直面しなければならなかつた。獨逸に於てはスバルタキストの騒動、ハンガリーに於てはベラ・クンの獨裁、奧太利に於ては慘憺たる貨幣の暴落、——この世界的混亂動搖の眞只中に立たされたチェックも、原料や食糧の杜絶に筆紙に盡し難い慘苦を嘗めたが、幸ひにもその難局を突破し、他國よりも速かに戦争の傷痕を脱し得たのは、一にマサリックの偉大なる徳望と賢明なる指導のお蔭であつた。

チェックが小協商國の盟主として中歐に儼然たる地位を占め、國際聯盟を忠實に支持して國際政局に重きをなすに至つたのは、名外相ベネシユの奮闘によつたものではあるが、この大局の方

憲を開示したのは實に彼マサリツク大統領である。奧太利が破滅に瀕するや快よく救済の手を伸べて生色を甦らせ、敗餘の獨逸にもよき隣人の實を示したのは彼である。

彼ばプロレタリアの味方となつて徹底的に社會政策を實施したのは勿論であるが、國內の異民族に對しても極めて寛大なる一視同仁の態度を以て臨んだ。殊に獨逸人の人口(三百十二萬)は全人口の四分の一に當る多數を占め、これに民族的自決を許すか自主權を認めるかは國內の統一上至大の重要問題であつたが、獨逸人は母國を有してゐるのであるからその主張はいづれも拒否されたけれども、國內の少數民族の言語文化に關する權利や私權は憲法を以て充分に保護されてゐる。

この外スロヴァツク族に獨立を與へよといふ問題もあるが、如何にスロヴァキアの急進論者がブラーグ政府に反抗せんとしても、大統領マサリツクが血を分けた兩民族の生ける楔である事を否定する者はない。現に一昨年暮に成立した新内閣には二名の獨逸人、二名のスロヴァツク人が始めて閣僚の椅子を占めた。この一事を見ても、新興國の結束が如何に鞏固であるかと窺はれやう。大統領自身が二月も國をあげて南佛、埃及等に悠遊するだけの餘裕を見せ得るのも、またその餘映でなくて何であらう。

マサリツクは一度はカトリック教の信仰を放棄したけれども、夫人の感化によつて今も熱心な新教の信仰を續けてゐる。その人格に及ぼした強い宗教的色彩は、彼の座右の銘である「ジーザス・ナット・シーザー」の一句に躍如としてゐる。彼の政見、政策のすべては、デモクラシーと人道、國民的社會正義の三標語に要約され得るが、それは恐らく彼が殉教者フッスの跡を追へる熱烈な信仰に胚胎したものであらう。

こゝに最も英雄的ならざる一個の英雄を見る。しかしそれは眞に近代文化國民の要求にピツタリした理性的現實的な英雄だ。そこにヒロイックなロマンスに富める最も非物語的な一個の新しい英雄の型があるのだ。

レーニンの片腕、没落のトロッキー

一 進行中の革命

「レーニンを革命の精神であるとすれば、トロッキーは進行中の革命である」

これは、露西亞革命と同意語のやうになつてゐる二人の指導者を批評したランズベリーの言葉である。

「進行中の革命」とは、實に評して得て妙を極めてゐるではないか。トロッキーは確に「進行中の革命」だ。そして「止まるところを知らない革命」でもある。妥協を排し、直線的に世界革命の理想に突進せんとするタンクのやうな革命家である。

彼は最近この指導し來つた反幹部運動の故を以て中央の要職を奪はれ、幹部の地位を取り上げられたばかりか、自分が正統であると主張する共産黨そのものからさへも除名されるの不幸に遭つた。彼の「進行中の革命」的特質は此の反幹部運動の中にも躍如として現れてゐる。

レーニンの最も信頼する片腕となつて革命を成就し、赤衛軍を組織して勞農露西亞を聯合國の封鎖より救出し、世界革命の權化として世界の資本主義國から怖れられる一方、偶像の如き尊崇と信頼を世界の無産階級から捧げられた彼、——それが革命の父レーニン逝いて四年と経たない今日、何故かくも落莫たる運命に遭遇しなければならなかつたのか？ トロッキー没落の跡を辿ることは、聽て堪へにたぎる勞農露西亞の生みの苦みを味はひ、謎の國將來の進路をトするに缺くべからざる検討となるのだ。

事の起因は昨日けふに始まつたことではない。既に一九二一年、勞農政府が戦時共産主義に別れを告げ、新經濟政策を採用した時に胚胎してゐた。農民は一定の税を負擔し收穫の餘剰は市場に賣る自由を與へられ、國家は貿易と大産業、金融、交通を管理する外、商業の自由、小規模の産業、利權による個人企業の經營を許す制度、即ち生粹の机上の共産主義から國家主義を個人主義で色をつけたやうな現實的政策、これがその新經濟政策の正體であるが、これを以て資本主義への逆轉だ、共産主義の退却だとなす非難が盛んに起つた。

黨内では國家資本主義經濟と個人資本主義經濟をどの程度に調合すべきかといふ専門的論議が盛になつたが、革命の大黒柱レーニンは終にその論争に最後の解決を與へずして倒れてしまつた。

かうした雰囲気が発して最初の波瀾を捲き起したのは、一九二三年の暮レーニンが既に再び起つ能はざる病床に呻吟してゐる時であつた。尤もこの時の議論の焦點は經濟問題ではなく、主として黨の統制問題であつた。由來共産黨はレーニンの主張を遵奉して「一黨主義」を嚴守し、黨員の論議は許すが絶対に分派を許さないといふ方針で一貫して來たのであるが、今日では幹部の專制が餘りひどい、官僚主義だ、少し位は分派が出來ても構はないから萬事をデモクラチックにして、ドシ／＼忌憚なく議論させなければいけないといふ一派が頭を擡げて來た。しかも、其の頃軍事人民委員、赤衛軍司令官として權勢並ぶ者なき中央幹部の一人であつたトロツキー其の人がこの不平組の急先鋒だつたのである。

スターリンを頭目として傳統の擁護を主張する幹部派は、トロツキーの反噬に對抗して壓迫を加へ始めた。トロツキーの鋒先は益々鋭くなり、有名な著書「一九一七年」を發表して一層猛烈に突つかゝつた。これは露西亞革命の内容を忌憚なく批評した二卷の論文集で、最も問題になつたのは「十月の教訓」といふ六十二頁に亘る大序文である。彼はこの「十月の教訓」に於て、當時まだ幹部派に屬してゐた義理の兄弟のカリメネフ、レーニンが死ぬまで最も寵用してゐたジノヴィエフの二人に攻撃を集中し、革命前の彼等の判斷が誤つてゐた事を指摘して猛烈にコキ卸したものである。

そこで幹部派も躍起になつて一層峻烈な壓迫を加へたので、當時病氣でもあつた彼は南方のコーカサスに轉地して暫く息抜きをしなければならなくなつた。この時は、彼の政治的生命もこれでおしまひかと思はれたが、幹部派としても邪魔にはなるものゝ彼の勞働階級に於ける人望からいつても餘り無理な處置も出來ず、やがて再びモスコに舞戻つた時には、依然として中央執行委員會の席につくことを許さなければならなかつた。

しかし、その後彼が革命以來最も貢獻の多かつた軍事人民委員の要職を奪はれ、最高利權委員會議長に左遷されてゐたことは記憶に新たな所であらう。

二 「没落」の清黨劇

この一騒ぎが鎮まつて暫くするうちに、共産黨の中に第二の分裂騒ぎが持上つた。

今度の反對派の急先鋒は、先にトロツキーと唾み合つたカリメネフ、ジノヴィエフで、議論の中心は純然たる經濟政策上の問題であつた。彼等は幹部派の政策が益々個人資本主義への復歸を助長するものであるとて、特に富裕な農民におべつかを使ひ過る傾向を遠慮會釋なく攻撃し、こ

んな有様でレーニンの遺志に背くものだと極論した。

その抗争がクライマックスに達したのは一昨年（一九三四年）の十月で、その時には嘗て犬猿の間柄であつたトロツキーとカーメネフ、ジノヴィエフは既に握手をなし、反幹部派の勢力は卒として抜くべからざるものがあつた。さてこの仲直りはどつちが先に手を差し伸べたかど問題であるが、それは決してトロツキーからではない。彼等も鏘々たる共産黨の首領には相違ない。が、その元勳としての閱歴聲望、闘士としての實力から言つても到底トロツキーの敵ではない。レーニンの死後單なる勢力争ひから唯み合つてゐた彼等は、かうなると怨恨も行掛りも一切抛擲してトロツキーの傘下に馳せ参じ、スターリン一派の幹部派との抗争に油をそぐことになつたのである。

彼等は幹部派の政策を非難してレーニン主義に悖るものとなし、對蹠的なトロツキーイズムと言ふ新しい言葉にその主義を代表させるやうになつた。共産主義の本家本元は我々の主張だといふのである。

その年十一月に開かれた共産黨中央執行委員では、トロツキー、ジノヴィエフ交々起つて幹部派の非を鳴らし、熱辯を揮つて奮闘したが、少數派のことゝて物にならず、結局黨の大多數の決議に従順を誓ひ、黨内に分派を構成するやうな行動を採らないといふ一札を入れてその場は一先

づ落着した。

が、反幹部派はそんな事位で引込みはしなかつた。去年の春英露の國交斷絶し、波蘭との間に紛争が起つたのを切っ掛けに、有力な共産黨員八十三名の署名した宣言を幹部派に突きつけた。これは主として外交政策の失敗を攻撃した宣言で、支那の革命運動の失敗はソヴェート政府の革命的名聲を傷つけたものであり、英露の斷交は英國労働組合幹部の實力を買かぶつた不明の罪であるとして責め、更に幹部派は、佛蘭西革命の成就した利那急に反動的方面に逆轉した一派が極左黨ロベスピエール一派を蹴落したテルミドール（十一月九日）革命にならつて、我々一派を掃滅しやうとしてゐるのだと喰つて蒐つた。この宣言に署名した反幹部派は、この數に因んで爾來八三組と呼ばれてゐるが、彼等の攻撃の合言葉は幹部派のテルミドール化——反動化といふことになつた。

この宣言はまた／＼八釜しい問題の種となり、去年の誓約を反古にしたから宜しく懲罰に附すべしといふ議論が盛になつたが、七月の共産黨中央執行委員會では、反對派の支持者が意外に多かつたので處分案は十二月の黨大會まで延期されることになつた。

トロツキーの所謂「政治的黄昏」はいよいよ迫つて來た。反幹部派はそれ以來死者狂ひの大活

動を續けて、形勢を自派に有利に導かうとしたが、幹部派は彼等を叛逆者呼ばゝりをなし、その手中にある保安警察を驅使して手も足も出ぬやうに壓迫したので、色々な計畫はことごとく水泡に歸した。

去年十一月七日(舊露曆の十月二十五日、即ち十月革命の起つた日)から、モスコで革命十週年記念祭が盛大に舉行されたが、その皮切として十月末革命の發祥地レニングラードで開かれた共産黨中央執行委員會は革命十週年の成果を纏めた一の宣言を發した。之に對して反幹部派がトロッキー以下七人の首領の名を列ねた反對宣言を發したのを機會に、幹部派は豫ての計畫通りに一同を中央執行委員から除き、一個の平黨員におとしました。

この時トロッキーは幹部派に向ひ、「諸君がかのテルミドリヤーナのあとを學んで、われ等反幹部派を銃殺しはしないかを恐れる」と悲壯な絶叫を發したほど、形勢は險惡化してゐた。

それにも拘らず十一月七日の記念祭當日には、共産黨員外の民衆を味方につけんとしてトロッキー自ら陣頭に起ち、モスコ郊外に集まつた示威運動の大衆に必死の執辯を揮つた。が、もはや彼の敗北は明かであつた。群衆はこの革命の英雄に對して、「やめて呉れ、澤山だ」と彌次をとばして雜辯を妨害した。街頭にトロッキーやジノヴィエフの寫眞を掲げたものもあつたが、

それは忽ち群衆のために引きずりおろされた、反幹部派學生の手にした赤旗は奪ひ取られてズタズタに引裂かれた。昔日の人心はもはやトロッキーの一身を離れてゐたのである。

かくて、彼と彼の一派は今日まで育くんで來た共産黨そのものゝ中にさへ止まる事を許されなくなつた。十二日の夜には黨員外の群衆に反幹部演説を行つたといふ廉で遂に黨籍剝奪の宣言を下されたのである。

三 運命の循環

純真なる共産主義者トロッキーの没落が何を意味するかは極めて明白なことである。反幹部派が革命精神に反し國家主義への逆轉であると非難した所謂テルミドル化が、社會主義國家建設の必要にして避くべからざる過程であることが是認され、一致團結の名による幹部專制々度が確保されて分派の主張が一と先づ影を潜め、一國のみの社會主義國家の建設を可能とする意見が勝つて世界の革命促進論が下火にならざるを得ないといふことに歸する。

これは實に露西亞共産黨にとつて革命以來の最大な事件である。この大變革の結果は、當然ソヴェート政府の内治外交上にも重大な變化を示すであらう。現にゼネヴァに於ける聯盟の軍縮委

員會に参加したが如きは、その底にどんな魂膽が藏せられてゐるにせよ、世界革命政策より歐洲への接近政策、即ち現實の必要に基いた穩和政策の一表現と見ることが出來やう。近き將來に於てソヴェート露西亞が何處に往かんとするか、それはこの觀點に至大な重要性を賦與するものである。

それはさうとして、この幹部派非幹部派の争ひは、一方から観れば明かに露西亞人系とユダヤ人系の争ひになつてゐる事は興味ある事實である。反幹部派はトロツキー以下ジノヴィエフ、カリーメネフ、ラデツク等が揃ひも揃つてユダヤ人であり、スターリン、ルイコフ、ブハリン等の所謂幹部派の首領はいづれも、——その悉くが大露西亞人ではないとしても、兎にかく露西亞の國土に密接な關係を持つた人物のみである。

「ブルジョアの獨裁か、無産階級の獨裁か、その間には中間の途はない」——レーニンがさう言つた。トロツキーはその調子で、「ブルジョアの歐羅巴が減びるか、さもなければ我々が減びるだらう」と叫んだ。

世界に祖國を持たぬユダヤ系の人物が、露西亞革命は飽くまで世界革命の導火線でなければならぬと主張するに對して、露西亞を祖國とする幹部派の人々が、社會主義は露西亞一國で建設さ

れ得るとなし、これ以上世界革命に犠牲を拂ふことは御免だといふ態度に出てるのは、偶然と言へば偶然とも言へやうが、また甚だ興味あるコントラストでもある。

トロツキーが黨籍を剝奪されてから間もなく、國外に逃走しやうとして警官のために發見され無残に銃殺されたといふ報道が傳はつた。が、それは單なる人騒がせに過ぎないことが判明したが、幸ひ銃殺だけは免れたものの、もはや彼の政治的生命、否彼にはそれよりもつと貴いかも知れぬ社會的生命さへも完全に絶たれてしまつたのである。

今年一月初旬の伯林電報は、トロツキー以下の反幹部派除名黨員五十二名に對していづれも三ヶ年間の流刑が宣告された事を報じてゐる。流刑地は各自別々の場所に定められ、月に僅か九留といふ給費を貰ふことになつてゐるが、ラコーフスキーは既にシンピルスタに向けて護送せられスミルカは極東國家計畫委員會長としてハバロフスクに在させられることになつた。

トロツキーはアストラカン行を命ぜられ、同地の地方官廳に服務することに決つたが斷然その宣告を拒み、「自分はモスコウで働く方が一層役に立つ。だから、暴力を以て強制されるまではどうしてもアストラカンには行かない」と言つて頑張つてゐたが、その後流刑地はトルキスタンに変更せられ、護送の途中非常に健康を害して卒倒したといふ報道も傳はつたが、二月の十一日

には兎に角服役地であるフルンゼの小邑に到着した。

前半生を間斷ない追放と投獄で過ごして來た彼は別に驚きもすまいが、幾度も流刑地を脱出しては遂に革命の元勳と仰がれるに至つた光輝ある機會が果して今度も彼を待つてゐるかどうか。彼は今年四十九歳の、油の乗りきつた働き盛りではあるが、春をも待たずして追はれ行く彼の後姿は、いかに淋しかつたであらう。

尙ほトロッキーと行動を共にして反幹部派領袖の中カーメネフ及びジノヴィエフの一派十二名は俄かに態度を變へ、幹部派の決議に無條件服従を誓つて復黨を請願したが、その結果兎に角流刑だけは免れることが出來た。が、ジノヴィエフの如きは進んでトロッキーを反駁するパンフレットを出版し、處刑免除に對する御禮心を見せやうとしてゐるやうなわけで、盟友に裏切られ、更に鞭たれつゝ送られ行くトロッキーの胸中は一層暗く痛ましいものがあつたに違ない。

四 専制を呪ふ叛逆兒

彼の生れ故郷は南露の黒海に近いエリザベート縣のヤノフカ村である。一八七九年(九月二十六日)の生れと言へば、ツアーの専制政治が最も暴虐を極めた暗黒時代で、國內到る處に秘密結

社が組織せられ、所謂地底の運動が根強く潜行してゐる時代であつた。

父はダヴィッド・ブロンシタイン(又はブラウンシタイン)と言ふユダヤ人で、地方の物持ちの百姓であつた。

言ひ忘れたが、トロッキーの本名はライベ・ブロンシタインと言ふので、世界に通つてゐるレオン・トロッキーや、共産黨年鑑に出てゐるレフ・ダヴィドウィッチ・トロッキー、ヤノフスキー(これは生れた村の名をとつたペンネーム)などはいづれもその假名である。父はツアーの政府がユダヤ人に壓迫を加へて、ユダヤ人の都會地以外に居住する事を禁ずる命令を發布した時、特に農村に居残ることを許された少數の、言はゞ「善良なる」ユダヤ人の一人で、相當富裕な生活をしてゐた。化學藥品商だなどゝ傳へるものもあるがそれは誤りで、耕地の肥料や土壤の事などに詳しくかつた——多少でも智識をもつてゐたとすれば體驗や耳から學んだその化學の智識が唯一のものであつたが——そのお蔭で誤り傳へられたものである。

トロッキーは九つになるまでこの父の膝下に育つた。

九つの時、南露の古い大都會オデッサの實業學校に入學した。が、面倒な學課に縛られ、思想の自由のない校則に壓迫されて窒息するやうな嫌な生活を送つてゐたが、七年生の時、村に一番

近いニコライエフ市の高等學校に移つた。彼はこゝで始めて労働者の仲間投じ、血氣盛な革命熱を思ふ存分發揮することが出来た。

その頃郊外にチエツク人でフランツ・シユヴィゴフスキーと言ふ花作りがあつたが、蕾の革命家たちはいつしか此の親爺の汚い家を秘密集會所にして、「フランツのサロン」と呼ぶやうになつた。トロツキーはその頃僅か十八歳、サロンの黨員中の最年少者であつたが、滔々たる雄辯と人を威壓する討論振りでは仲間の第一人者であつた。

それもその筈、彼は生れつき學問よりもエリスチツク(討論法)を好み、シヨーベンハウエルの「相手の議論の不正を問はず、なんでもかんでも相手を説伏する法」など言ふ恐ろしいパンフレットを見つけて頻りに辯を練つてゐたものである。彼が南露労働同盟に加盟して、所謂「準備の事業」に全力を注いだのはこの頃からである。

その當時に一つの面白いエピソードがあつた。青年トロツキーは、有名な急進主義の新聞二三社が、政府に買収されて突然變節したのを憤慨する餘り、學校の圖書館備へ付の不平帳に、「こんな腐つた新聞をとるのは斷然お止しなさい」と書きつけた。が、そればかりでは腹の虫が治まらなかつたと見えて、モスコウの變節新聞の一つに長々しい抗議狀をぶつけ「あらゆる智識階

級、労働大衆は貴紙の變節に最も憤慨してゐる」と怒鳴りつけた。所が、「あらゆる」大衆といふ恐ろしく大袈裟な觸れ込のところへもつて来て、署名者といふものはたつた四人しかない。そこで友人が逆襲されると困るじやないかと注意した所がトロツキーの答が振つてゐる。

「なあに、そんな事はなんでもないさ。もう數千の署名が集まつてゐるけど、お前等に見せてやるのは勿體ないつて書添へてやらうや」。

彼はこんな意氣込で革命へ〜と猪突した。

五 最初の流刑

運動はかなり盛になつて來た。が、或る日(一八九八年一・二八)、一隊の警官に踏込まれてサロンの同志は一網打盡に監獄に打込まれてしまつた。時に年僅かに二十歳、トロツキーが牢獄の苦しみを味はつたのはこれが始めてであるが、レーニンも既にその前年シベリアに流刑の憂き日を送つてゐたのである。

ニコライエフ、ヘールソンと未決監を渡つてオデッサ監獄に落ちついた時には既に二年近の日が過ぎてゐるが、こゝでやつと裁判が確定して四年のシベリア流刑に處せられた。

この流刑に處せられた政治犯は囚人列車で鐵道の終點まで護送され、それから先は移動追放監獄といつたやうな仕組で、村から村へ一團となつて送られて行くのであるが、相當の頭數が揃ふまでといふのでモスコの有名なブツルスキ監獄にぶちこまれてゐた。

精力絶倫なトロツキは獄内の閑日月が退屈でたまらず、密かに同志の手から運びこまれた小さい印刷機械を監房の隅に据えつけて、盛に宣傳文を同囚の間に配つたものである。露西亞の監獄の間拔けさ加減も一通りではないが、彼の寸暇を惜む活動振りも確に異とするに足る。

彼は獄内で、サロン黨員の一人であるア・ソコロフスカヤといふ娘と結婚した。世の常の新婚夫婦であれば、早速甘い華やかなホネームーンに出るところであるが、二人を待つてゐたものは朔北の風吹き荒ぶ暗いシベリアへの流刑であつた。囚人列車で送られる新婚旅行！ 聞いただけでも陰惨な感じに打たれるではないか。しかし天性の革命家たちには反つてそれが本望であつたかも知れない。

やつと頭數が揃つて、囚人列車がモスコを發したのは一九〇〇年の五月三日であつた。愛人と別れた淋しい獨身者、新婚の夫婦、乳香兒を抱へた若い婦人、よほくの老人——種々雑多な人々は一樣にツアの政府を呪咀しながら、しかし健氣にも涙一つこぼさず運ばれて行つた。汽

車が停る度に爪立ちしてやつと顔が届く位の高い窓から、やつれ果てた顔が次々に外面をのぞいた。乳香兒を抱へた中年の母は、ホームに群飛んでゐる鳩の群を見せやうとして子供を高く差上げた。「レーベン・ユーパー・アツレス」（人間到る處青山あり）の名畫その儘の構圖である。

モスコからウラルを越えて、後は汽車のない荒野を徒歩でイルクーツク、アレキサンドルフスクを過ぎ、流刑地である東部シベリアのウスチークト村に着いたのははや翌々年の初めであつた。流刑囚は五六人づゝ監視付で普通の民家に收容され、月十五留位ルイブルの手當を渡される上に、讀書、通信の自由を與へられてゐる。

彼は早速得意の論文を執筆してアンチド・オートといふ假名でイルクーツクの「東方評論」に寄稿した。この時の論文は實に素晴らしいもので、無名の一青年は暫くの間に國外の大先輩達からも非凡な偉材と認められるやうになつた。

彼はそこに留まること一年にして、一時妻子と別れ——その時子供は二人になつてゐた、下の子の生れて間もない時である——國外に在る同志の一團に投ずべく刑地を逃亡したのである。

六 ツアを向ふに初陣の革命

レーニンはその前年、ブレハノフ、マルトフ、アキセルロツド等の露西亞社會主義運動の先覺と共に「勞働解放同盟」を組織し、瑞西のゼネヴァで露西亞革命史に重要な役割を演じた有名な「火花」誌を發行してゐるが、シベリアを脱出したトロツキーは直ちにゼネヴァに来て、この亡命者の一團に投じた。

かねて鏘々たる闘士として尊敬してゐたレーニンと始めて相識つたのはこの時である。彼はそれから足掛四年の間「イスクラ」の記者として續々有名な論文や公開狀を發表した。筆の人としてのトロツキーの偉大さはこの時程鮮かに發揮されたことはない。

この間、埃太利の社會主義運動の大先輩ヴィクトル・アドラーを始め多くの同志と知己になつたことは、彼の將來から言つて見落してはならない事柄である。

露西亞社會民主勞働黨の一九〇三年の大會は倫敦で開かれたが、これは露西亞のマルキストがボルシエヴィキ(多數派)とメンシエヴィキ(少數派)に分裂した有名な歴史的會合となつた。

この分裂は表面餘り重要でない問題を切つかけに爆發したが、その根底には革命を主張するレーニン派とトロツキー等の進化を信奉する一派との間に重大な意見の相違があつたのだ。即ち露西亞が資本主義化した結果として新興ブルジョアの政治革命が起つた場合に、メンシエヴィキはこ

れを支持し協力しやうと主張するが、ボルシエヴィキは、直にその機會を捉へて無産階級と農民との革命的獨裁を樹立し、一足飛に社會革命を完成すべきことを主張した結果、僅一二票の差で兩派の大分裂は決行された。トロツキーは思想上はメンシエヴィキに屬してゐたけれども、當時はその兩派のいづれにも参加せず、分裂を防止するために非常な努力を試みたが、遂に成功を見ることが出来なかつた。

この時以來、トロツキーはメンシエヴィキの範疇に屬することとなつたのであるが、當時のメンシエヴィキが後には粹純なボルシエヴィキ的主張を提けて、遂に幹部派に放逐されるに至つたのは興味深い飛躍ではないか。

一九〇五年、日露戦争に敗れた後の混沌たる露西亞に俄然として革命が起つた。この革命こそはトロツキーが公然勞働者を率ゐて闘つた最初の機會であつた。モスコには勞働者の武装的叛亂が起り、當時の首都ペテルスブルグ(今のレーニングラード)には露西亞最初のソヴェートが組織された。ソヴェートといふのは戰鬪的な勞働代表委員會で、今日の露西亞がソヴェート露西亞と呼ばれる通り、露西亞の新しい國體の基礎をなせる重要な組織である。

當時トロツキーは「鬪争」誌を主宰しつゝ、此の露西亞最初のソヴェートの執行委員として勞

働者の間に非常な活動を續けてゐるが、フルスタレフが逮捕された後は、その執行委員長として帝制政府の一大敵國を形成してゐた。

トロツキーの何人も追隨しがたい二つの材幹——雄辯の力と、民衆に理解し易い簡潔な文章を書く材能とは始めて大衆の間に認められた。一體これまでの社會民主黨領袖等は智識階級に訴へる技倆は充分にもつてゐるが、トロツキーは、その簡單で痛烈な明白な文句、機に臨んでグツと急所を抑へる卓拔な新しい造語を直接民衆の心臓に投げつける術を知つてゐたのである。

彼が最近幹部攻撃の合言葉として用ゐた「政治的黄昏」なども、彼の造語の天才を示す一例であるが、今日露西亞がブルジョア國の大臣と同じ意味で使つてゐる人民委員といふ言葉も實は彼の發案になつたものだ。

一九一七年の革命がいよゝ勝利に歸して政權がボルシェヴィキの手に落ちたすぐの翌る日、スモルニー會館には新政府組織の首腦者會議が開かれた。そこで第一に問題になつたのは大臣の名稱をどうするかといふことであつた。

「ミニスターはどうだね」

或る一人の幹部が提議した。

するとトロツキーは直ぐそれに反對して、

「ミニスターはいけない。ブルジョアの臭がする。——人^{ナロードスイ・コミツカール}民委員がいゝだらう」と言放つた。

黙つて聞いてゐたレーニンは、

「ウン、それは結構だ。人民委員はプロレタリアの臭がする」と首肯した。

これで、世界に類例のない大臣の名稱は正式に定つたのである。

七 西伯利亞へ終身流刑

「露西亞のすべての女をチャームせずには置かなかつた」と言はれるトロツキーのあの男性的で慍悍な顔が、到る處の集會に現はれた。そして火の出るやうな煽動演説が口をついて民衆の上にブチまけられた。鬭争的な労働者の大群は、彼の統制の下に一絲亂れず罷業をつゞけた。

この革命の結果、露西亞の民衆が始めて憲法を獲得した経緯はこゝに詳しく述べない。たゞトロツキーのために是非述べなければならぬことは、時の首相ウイツテがツァーの名の下に昨日の一流刑囚に膝を屈し、自ら休戦の交渉を求めて來たことである。ウイツテは死ぬよりも辛い頭

を下けて、只管トロッキイの哀れみを乞うた。憲法發布といふツアの大讓歩が宣言された。けれども彼は、ブルジョアの常套的妥協手段だといつて斷然これを跳ねつけ、

「労働階級は銃劍の尖で、冬宮の血に塗れた赤い壁に自分のマニフェストを彫りつけるのだ」と豪語したものだ。

滿一ヶ月、労働者の勝利は素晴らしいものであつた。ところが革命のホネームーンは意外に早く去つた。ソヴェイトの幹部を一網打盡にする秘密計畫をすゝめてゐたウィツテ政府は、その年十二月の五日、一時に多數の警官を派してその本部を包圍させた。この時トロッキイは外出してゐて逮捕の難は免れたが、何の氣なしに歸つて見ると多數の労働者は警官のために拉し去られた後である。

地團駄踏んで口惜しがつたが後の祭だ。そこで彼はきつぱり男らしく度胸を決め、逃げやうと思へば何でもなく逃げられたのを自ら進んで官憲の繩にかゝつた。それは辛苦を共にした労働者と獄中の苦しみをも分たうとする親分肌の義侠心がさせたことである。かくて有名な露西亞最初のソヴェイトも一ヶ月半ばかりで根こそぎひつくりかへされてしまつた。

彼は獄舎の中でも決して失望はしなかつた、よく讀み書き、そしてこの初陣の革命の經驗を丹念に蒐集した。彼が無産階級の獨裁の可能を心から信ずるやうになつたのは實にこの時の體驗のお蔭である。

ペテルスブルグ監獄の未決の一年は過ぎて、シベリア終身流刑の宣告が下つたので翌々年の正月三日、彼は流刑地のオプドルスクに向つて出發した。今度は頗る監視が嚴重なので外界との通信は全然遮斷されてゐたにも拘らず、到る處の停車場には「労働者の代表者」を迎へやうとする労働者の大群が囚人列車の前で萬歳を叫んでゐた。そればかりか密に彼等に心を寄せてゐた兵士たちまで群衆と一緒に歡呼の聲を擧げた。これは露西亞ならでは見られぬ感動的な情景である。

「我々はあらゆる方面からの友人に圍繞されてゐる」

トロッキイは當時の日記にかう書いてゐる。

一行は終點のチェーメンで列車を降りて櫓に乗りかへ、吹雪するシベリアの荒野を東へ東へと進んだ。眼界は益々荒涼を加へ、鬼氣と寒氣が物凄く迫つて來た。

「日一日と、我々は寒氣と寂寞の世界に沈んで行く」。

それは全く彼が犇々と胸を打たれた實感であつた。今度は彼も笑つてはゐらなかつた。新議會の同志達が奮闘して大赦令を出させるだらうと期待してゐた。そしてそれが遂に空頼みに終つ

たことを知つた時、彼は再び思ひ切つて脱走を企てる決心をした。首都を出てから四十餘日目に絶好の機會は來た。この邊には橋の通ずる氷結した道は唯一本しかなかつたので、彼はわざとこの一本道を避け、四百哩以上の道なき雪の荒野を橇馬に鞭をふるひつゝ二十日もかゝつてペテルスブルグに逃げ戻つた。この時の想ひ出は「往路と歸路」といふ彼のパンフレットの中に、血の滲み出るやうな文字で記されてある。

八 最後の勝利は來る

トロッキーは間もなく國境を越えて奥太利に入り、大戦勃發までの大部分の時間はウイーンを根據地として働いてゐた。

フリッツ・アドラーと協力して「労働者新聞」や「闘争」誌上に筆陣を張るのがその主要な活動であつたが、ある時は生活に困つてボヘミアの化學工場に雇はれたこともあつた。翌年には「ブラウダ」を創刊した(これはモスコウで創刊された共産黨機關紙の「ブラウダ」とはイデオも違つた全然別な「ブラウダ」である)。

此の間、ブレハノフ、マルトフ、今度のゼネヴァ軍縮委員代表リトヴィノフ、レーニン、ジノヴィエフ、カメネフ、コロンタイ女史などと一緒にスツットガルトの萬國社會黨大會、コペンハーゲン等の大會に出席して名聲をあげ、いよいよ徹底した國際主義者、非軍國主義者となつた。當時彼はウイーンの町端れの汚い通りの、三間しかない小さい家に住んでゐた。部屋には本箱もなく、積み重ねた書物と取散らした新聞雑誌の外には何一つ裝飾らしいものもない全くの簡易生活であつた。獨逸語を最も得意とし、佛蘭語もよく話せるし、英語も多少は解る彼は、この亂雑な工場の隅のやうな書齋の中で馬車馬のやうに働き續けてゐたのだ。

大戦の幕が開くと、敵國の臣民だといふので早速奥太利から追出され、お隣の瑞西チューリヒに移つた。こゝで、彼はインタナショナルの要求すべき講和條件として、

「すべての民族の自決權」

「王國、常備軍、封建的特權階級、秘密外交のない歐羅巴の聯邦組織」

といふ、非常に急進的な意見を表明したパンフレットを出した。所がそれが瑞西の同志により靴の底やチョッキの裏にかくして獨逸や奥太利に持込まれたので、獨逸の裁判所から六ヶ月の禁錮を言渡された。しかし缺席裁判であるから、御當人にはさつぱり痛くも痒くもなかつた。

一九一四年の末には巴里に移つて「我等の聲」の記者となり、有名なチンメルワルド、キンタ

ールの兩會議にも出席して、聯合國の有名な社會主義者の間に戰爭絶滅の雄辯を揮ふなど、席の煖まる暇がなかつたが、翌々年の十月には佛國政府からも退去命令を發せられた。これはマルセイユで露西亞の兵卒が市中の散歩を止めた上官を殺害した事件のあつた時、兵卒等のポケットの中にその「我等の聲」があつたためである。トロツキーはどうしても運動の上が一番都合がいゝ巴里に踏止まりたいと思つてわざ／＼警視總監を訪ぬ、退去を命ずる位なら寧ろ監獄の中でもいゝから巴里に置いて呉れと談判したほどであつた。

どうしても許して呉れないので仕方なく西班牙にたつたが、首都マドリッドに着くか着かないうちに直ぐさま捕まつて三日間監獄に打ちこまれ、次の汽船で西印度のハヴァアナに護送されることになつたが、やつとの事でハヴァアナ流島だけは許して貰ひ、バルセロナで妻と二人の子供と落合つて紐育に向つた。三界に家なき亡命者の悲歎を、彼は沁々と味はつたのである。

紐育で新聞記者をしてゐる中に一九一七年祖國に俄然として革命が勃發した。何百里も先から革命の臭をかぎつけてゐたトロツキーは少しも慌てなかつた。

三月二十七日祖國を眼がけて歸る移民の第一船に乗つて歸國の途にいたが、加奈陀のハリファックスでまた英國官憲のために捕へられ、四百の獨逸俘虜水兵と一緒に一ヶ月間收容所に拘

禁された。觀念した彼はその間熱心に俘虜の間に宣傳を試みてゐたが、臨時政府の要求によつてやつと官憲の手から釋放され、倫敦、ストックホルムを経てペトログラード(聖ペテルブルグの改名)に到着したのは五月十七日、レーニンの都入に遅れること一ヶ月であつた。

帝都には革命の臭が充滿してゐた。トロツキーは野に放たれた虎のやうに思ふ存分あれば廻つた。この時は既にボルシエヴィキに改宗し、レーニンと一緒に最前線に起つてゐたことは更めていふまでもない。

七月暴動の結果はリヴオフ内閣倒壊してケレンスキー内閣が成立したが、彼は徹底的にボルシエヴィキを掃蕩して地位を固めやうと計り、トロツキーはルナチャルスキーと共に捕縛されて二ヶ月間クレステイ監獄につながれた。

けれども革命的デモクラシーを標榜する優柔不斷なケレンスキーは、僅か二千留の保證金で一同を釋放した。これがやがて自分の致命傷にならうとは、まさか思ひもかけなかつたであらう。

トロツキーはペトログラード・ソヴェートの波濤の如き歡呼の裡に獄門を出た。そして十月革命勃發の僅か十七日前にチヘイゼを一蹴して、十二年以前と同じソヴェートの同じ椅子(執行委員長)に戻つて來たのである。

このペトログラード・ソヴェートこそは十月革命に於ける労働者の武裝的叛亂の策源地で、最も早く全露西亞の政權を労働者の手に奪取した革命の最大殊勲者である。

九 トロツキーは何處に往く？

かくて、人類の歴史に未だ記録されなかったことのない無産階級獨裁の勞農社會主義共和國が出現した！ 嘗てこれ程全世界の人心を愕然とさせたニュースがあつたらうか？

レオン・トロツキーはレニンと相並んでこの劃時代的大事件の主役をつとめ、そして美事にその大任を果したのだ。世界資本主義國の憎悪と反感は束になつて二人の上に注がれた。世界中でこれ程憎まれた人間は史上殆どその例がないと言つてもよからう。けれどもまた全露西亞の労働者、否全世界の労働者からこれ程尊敬され、信頼された人物は算へる程もあるまい。

トロツキーは全ての權力がソヴェートに移されると先づ第一に最も重要な外務人民委員の椅子に就いた。就任第一の重要問題は、ブレスト・リトウスクに於ける獨逸との講和談判であつたが主席全權として議會に臨んだ彼は、鼻息の荒い獨逸全權を向ふに廻して散々手古摺らせた擧句に「露西亞は侵略主義的講和條件の調印を拒絶すると同時に、戦争状態の終了を宣言し全戦線に於

ける露國軍隊に對して一般的復員命令を發するものである」といふ有名な宣言を読み上げ、そのまゝサツサとブレストを引揚げてしまつた。

講和でもない、戦争でもない。流石の獨逸全權も呆氣にとられてしまひ、隨員連はその驚くべき新發明を論駁する根據はないかと血眼になつて國際法の書物を引張りあつたものだ。

しかし獨逸軍が再び攻勢をとり始めたので、結局勝負はトロツキーの負けとなり、レーニンの英斷によつて危機一髪に間に條約は調印された。

この失敗の責を負ひ、トロツキーは外務人民委員を罷めて軍事人民委員となつた。赤衛軍十六萬の精銳を組織し、訓練したのは實に彼の偉大なる努力の結果である。「言葉の彈藥」をもつて獨逸の外交官と戦つた彼は、十六個の戦線に本當の彈藥と肉彈をもつて反革命軍と戦ひ、聯合國の封鎖と闘つた。灰色に塗つた赤衛軍司令官の特別軍用列車で、東はウラルからロシアニア、南はウクライナから北はムルマンの海岸に至るまで間斷なく露西亞中を駈け廻り、最後の勝利を力説して兵士達の士氣を鼓舞した。新聞記者育ちの彼は、眼の廻るほど忙しい列車の中でも絶えず「途上」といふ新聞を發行し、行く先々の赤衛軍の間に配布して廻つた。

彼の鳴り響く聲はかくて全露の農村と兵卒の集會とを完全に支配した。「ブルジョアの歐羅巴

が滅びるか、然らざれば我々が亡びるか」と。そして全無産階級團結の力は、資本主義諸國からは奇蹟の如く思はれてゐる十周年記念祭を迎へる基礎を固めたのである。

彼の革命の元勳としての華々しい公的生活については、餘りによく知られてゐるから、これ以上述べる必要はあるまい。が、その私生活はどうであつたらうか？

トロツキーが人民委員となつて以來妻子と一緒に住んでゐたのは、共産黨の本部であるスモルニー會館の三階の一室である。部屋は貧乏畫家のアトリエのやうにカーテンで仕切がしてあり、一方の隅には、二つのお粗末なベッドと安物の小さい茶箆筒と、もう一方の隅には机が一つとこれもお粗末な椅子が二三脚並べてあるだけで、額が一つかけてあるでなく、全く殺風景な生活であつた。が、堂々たる勞農露西亞の外務大臣だから仕方がない。金ピカ嚴めしい外國の貴顯大官もことごとく此の貧乏書生の書齋に恭しく伺候しなければならなかつた。

この生活を幾らで賄つたかといふと、大臣としての俸給が月大枚五百留(ルブル)といふと聞えがいゝが日本貨に換算して僅か百圓)、これはレーニンと一緒に勞働者に範を示す爲に自分の望で決めた俸給で、トロツキーだけは妻子扶養の手當として他に三百留、全部合せて八百留(百六十圓)しか貰つてゐない。しかも極端な物資缺乏のためにペラ棒に物價が高い時代であつたから、實際は高

々その半分位にしかつかなかつたのだ。

共産主義者の信條には、「全ての人がパンを有するまでは何人も菓子^{クッキー}を有しない」とあるが、革命以來は彼の食事も僅にスープと肉か、スープと粥だけになつた。或る時は市場にさへもパンが足りないことがあつた。が、さういふ時にはトロツキーにも同じくパンがなかつたのである。

彼を信頼し、心から愛する勞働者達は勿論、遠い田舎からも、男や女や子供達まで、逢ひきれぬ程多くの人々が訪ねて來た。そしてその度にパンや生み立ての卵や、バターや果物などを持つて來て呉れたが、彼は幾らひもじくても手を觸れず、みんなそれを公共食糧品の中に繰入れたものである。或る時は彼が火の氣のない部屋で事務を執つてゐると聞いて、何百哩もある田舎から態々ストーヴと三ヶ月分の薪を擔いでやつて來た農夫達もあつた。トロツキーもその純朴さには屢々泣かされたものである。

x

しかし今やこの偉大なる革命兒トロツキーも既に没落した。

あの演壇の端から端まで檻の中の獅子のやうに歩き廻る颯爽たる風貌、恐ろしくグシャ／＼にもつれた眞黒な頭髮メフィストフェレスのやうな山羊髯、皮肉で深刻な冷嘲的微笑、金屬を打碎

いたやうな強い聲、爆彈のやうに投げつける鋭い言葉、大風が秋草の野を吹きまくるやうに集會を支配するその雄辯——マラーに似た圖抜けた特長を具へたこの革命兒が、忽然として群集の間から姿を消したことは、確に淋しいことの一つである。

しかし彼は依然として「進行中の革命」である。お伽噺に出て来るあの鹽の臼のやうに、海の底に落ちこんでも尙ほ且つ永久に廻りつゞけないとは、誰が斷言し得るか？

墨西哥を建直した大統領カイエス

一 珍しや平和裡の就任式

眼もあやに綺羅を飾つた晴れの闘牛士は、怒れる眼炬火の如き闘牛眼蒐けて、深紅の布を打振ながら突進して行く。暴風の如くドツと擧がる熱狂的大叫喚に、宏壯を極めた圓形闘牛場は揺がらばかりである。電光の如く鎗は繰出された。さしもの猛牛も闘牛士が手練の鎗先に、ドツとその巨體を床の上に投げ出す、——が、ある時は仕損じた闘牛士が怒りの角にかゝつて、痛ましく砂の上にうちのめされる。その度毎に、眞赤な血の飛沫ががサツと砂を染める。

この勇壯凄慘な光景は既にヴァレンチノの名畫「血と砂」でお馴染の西班牙名物闘牛のスナツブショツトであるが、これは西班牙人の米大陸に建てた共和國メキシコに於ても最も人氣ある國民的スポーツとして老幼男女の血を湧かせてゐる。熱狂的な南歐ラテン人の血を引いたメキシコには、闘牛のほかにもう一つ革命といふ名物のつきものがある。

今日の文明諸國の中に於て、メキシコほど頻繁にこの武力革命を経験した國は他にない。最近二十年の間だけでも、デアズに叛旗を翻へした一九一〇年のマデロ革命を皮切として、カランザに對するヴィラ、同じくオブレゴン、オブレゴンに對するデ・ラ・ウエルタの革命が續き現に昨年も現政府顛覆の革命が一再ならず起つてゐる。歴史的に言へばかう幾つもの革命に分れるが、實際に於ては二十世紀のメキシコにはたゞ一つしか革命がないと言つた方が當つてゐるかも知れない。即ち一九一〇年起つて現在まで一續きになつてゐる革命、換言すれば斷續する一個の慢性的革命である。

この連年の革命のお蔭で産業は萎微荒廢し、國威は揚がらず、不斷に在留外國人の生命財産を脅かす所から絶えず列國に不安を感じしめ、特に北隣の大資本家國米國に對しては屢々干涉の口實を與へて米墨戰爭の危機を醸したことも一再に止まらない。險惡亂脈な國狀は、宛ら今日の支那に彷彿たるものがある。

しかし、この打續く革命もその正體を解剖すれば、常に專制的暴政とカトリック教會、地主、資本家の攻勢とに對する民衆の政治的階級闘争であつて、民主的メキシコ建設のためには誠にやむを得ない生みの苦しみであつた。だから大問題の起る度に最初に蹶起するのは民衆であつて、

軍人や政治家はいつも民衆の要望に隨いて踊る役割を演じてゐただけである。

この形勢は一九二〇年のオブレゴン革命によつてほど終結をつけたが、これを更に民衆の徹底的勝利にまで導いたものは、オブレゴン大統領の後を襲へる現大統領ブルタルコ・エリアス・カイエスである。

一九二四年十一月三十日、當時四十七歳の革命政治家カイエスは、首都メキシコ・シチーのナシヨナル・スタジアムに群がる二萬五千の大群衆を前に、盛大なる大統領就任式をあげた。

彼はその年六月の大統領選挙に全投票の八割三分といふ壓倒的大多數を以て當選し、その後四ヶ月間歐米各地を遊歴して歸國したばかりであつた。式場には上下兩院議員は勿論、大禮服燦然たる外國外交官、文武官悉く參列したが、中にも異様に眼を惹いたのは尖つた帽子に茶つ葉服を着た多數のメキシコ労働者と、ゴンパースの率ゆる米國労働組合聯合の代表者三百餘名の意氣揚々と入場した光景であつた。多數の祝電は次々に朗讀されたが、中にも鞍造りの一職工から社會民主黨の首領として獨逸共和國大統領の榮位に上つたエーベルトからの祝電が讀み上げられた時、労働者の間からは急霰のやうな拍手が起つた。

大統領就任式と労働者——この奇妙なコントラストが既に大體を物語つてゐるやうに、彼カイ

エスは實にメキシコ無産階級のリーダーであり、百五十萬の墨西哥労働組合聯合を背景とする社會労働黨の首領だったのである。

墨西哥の政權は、かくして同じ黨の元老であり先進である大統領アルヴァロ・オブregon將軍の手から、多年その片腕として働いたカイエスの手に立憲的に平和裡に移された。今までの大統領は始ど例外なしに軍隊の力を背景として血なまぐさい戦闘の結果政權を奪取したもので、長い歴史に於ても任期満了して平和裡に政權を授受した例はこれまで唯の三回しかない。カイエスの場合は正にその第四回目であるが、それは最後の圓滿授受から實に四十一年目に當つてゐた。

老オブregonとカイエスは、劍で渡り合ふかほりに、相抱いてバルコニーに現れ、群がる大衆に對して、「新しき平和とデモクラシーの時代が來た」と、宣言した。この歴史的情景に感激した群衆は、幾度も幾度も熱狂的な大歡呼を送つて「新しい墨西哥」の將來を祝福した。

二 教鞭を棄て、革命の巷へ

首都メキシコ・シチーを去る二哩、鏡のやうな湖水に影を落とす堂々たる白壁のチャプルテペク宮(大統領官邸)の新主人に納まつたカイエスも、その貧しき生ひ立ちや波瀾重疊の過ぎ來し

かたを回想しては轉た感慨に堪へぬ日も多かつたらう。

彼の生家は、メキシコ中でも北も北、米國と境を接するソノラ州の一貧農であつた。父は遙々アルメニアからやつて來た移民、母はメスチゾ(西班牙人とアメリカ印度人との混血種)であるから、彼は一身にラテン・アメリカ人とインデアンと、東洋人の血を混じた人類學上から見ても珍らしい種類の混血兒である。

生れ故郷のソノラ州は首府から遠く離れて文化の恩恵に浴すること薄く、その頃は廣い州内に一哩の鐵道もなく、道路も一番小型の頑丈一方な自動車でなければ通行出來ないといふ有様であつた。

彼はこんな草深い田舎にくすほること前後殆ど三十年、その後年十七年間は小學校の教員を振出しに一貫して教育畑に埋もれてゐたのである。

ウイルソン大統領や、チェツクのマサリック大統領の如く、大學教授から一國の元首になつた人物は尠くないが、彼の如く長年無名の一青年教育家として縁の下の力持をつとめた人間は殆ど例がないといつてもよい。しかも彼が大統領に就任すると同時に「教育こそメキシコの新しい宗教だ」と宣言して、その徹底的普及を最高政策の一つとして遂行した信念は、夙にこの時代から

胚胎してゐたのであつた。

少年カイエスが學校に上つた頃は、家の生計もいよ／＼苦しくなるばかりだつたので、幼心にもなんとかお手傳ひをしなければならぬと思つた。そして學校から歸ると毎日手押車を押して「水やあ、水やあ」とグエーマスの街を飲料水を買つて歩くことになつた。その頃の彼の唯一の望みと言へば、せめてあの學校友達が冠つてゐる先の尖つた鍔廣の帽子や、ひだのついたカウボーイ式のズボンを買つて貰ひたいといふことであつたが、貧農の子にはその望みさへも協はず、親父の古ハンチングにボロ／＼のズボン、素はだしといふ慘めな装立でやけつくやうな炎天の下を觸れて歩かなければならなかつた。街の人達がこの感心な孝行水屋のことを忘れてしまつた頃は立派な先生として生れ故郷の學校に教鞭をとることになつた。小學校を優等で卒業した彼は州の獎學資金で首府メキシコ・シチに送られ、その師範學校を優等で卒業して故郷に錦を飾つたわけである。そして漸く天下に頭角を顯はすやうになつたのは、校長や視學を歴任して州の學務部長に昇任して以來のことである。

その頃國內には、ディアズ大統領の虐政に對する怨嗟の聲が充滿してゐた。彼は大統領に當選すること八回、前後三十年に亘つて國政を執つてゐたが、地主、資本家に迎合して民衆に對する壓

迫政策が益々露骨になつて來たので、夙くから國政改革の急を叫んでゐたカイエスは、斷然官職を棄て民衆のために蹶起しやうと決心した。丁度その時(一九一〇年)二十世紀メキシコ革命の口火はマデロ將軍によつて切られたので、彼は勇躍してその帷幄にはせ參じた。かれの十數年の革命生活は、これを抑もの皮切として展開されるのである。が、幸先よくもこの一舉が成功して將軍が政權を握ると、彼は故郷ソノラ州のアグア・ブリエタ市長に任命された。

中央に於てはマデロ大統領が暗殺されて臨時大統領ヴィクトリアノ・ウエルタ將軍の獨裁政治が布かれるや、カランザ、オブレゴンの諸將は民主主義と土地分配を標榜して憲政軍の旗擧げをなした。此の時カイエスはオブレゴンと盟を結んで起ち、一大佐としてソノラ州憲政軍を率ゐる州内を完全に平定した。引續き叛將ヴィラと麾下の叛軍を州内より驅逐して、遂にソノラ州總督の要職に就た。

總督の任にあること二年、ヤキ族の叛亂を討伐して益々名聲を擧げ、選舉によつて正式の知事に擧げられたのは一九一八年であつた。

孝行水屋の昔を知つてゐる郷黨の父老達は、この鰻上りの出世を宛かもわが事のやうに吹聴して廻つたものである。

三 建設的革命即政治

カイエスは憲政軍を率ゐて革命のために闘つたけれども、本來の軍人でないことは既に述べた通りで、戦争にかけてはオブレゴンとカイエス二人合せても叛將パンチョー・ヴィラには敵はないと墨西哥人が評してゐる位だ。

彼の眞面目は、非常に進歩的な意見をもつた民主的な建設型の政治家といふ點にある。そして多年の抱負である小學校の大増設、労働法、農民法その他の社會立法を斷行して、鮮かなステーツマンシップを發揮したのはこの知事時代であつた。

ソノラ州は墨西哥の鬼門である米國と境を接してゐるので、米國との關係が一番やかましい問題になつてゐた。その當時は對米關係が特に緊張してゐた時だったので、彼は斷然州内に於ける酒類の販賣取引を禁じ、これを犯すものは死刑に處する旨を布告した。これは酒が因で米國の干渉を招くやうな面倒を惹起してはならないといふ、彼の細心な用意から出た事である。で、この布告一つ出しただけで、別に見張や監視も行はなかつたが、州内はその日から一變して完全な禁酒國になつてしまつた。

また、或る時國境を越えて隣合せの米國アリゾナ州に潜入した三四人の墨西哥匪徒が、米國人の家に強盜に入つたといふので國際的に騒ぎが起りかけた事があつたが、カイエス知事は數日の間に犯人を捕へ、その翌日には犯人全部を死刑に處して屍體を電信柱に吊るし一般市民の見せしめにした。こんな残忍な處刑を敢てしたのも、實は決して彼の果斷の表現ではなく、反つて米國の帝國主義が如何に弱小隣邦の鬪士を威嚇してゐたかを物語る一例である。

けれども彼は、闘ふべき目標の如何により賢明に手段を選択して闘ふことを忘れなかつた。

また、ソノラ州カナカに大銅山を經營する或る米國資本家が、會社の鑛夫五六千人が組合を組織したのが氣に喰はないといふ理由で銅山を閉鎖したまゝ歸國してしまつた時のことである。カイエス知事はその組合に銅山の經營を管理させて反つて非常な好成績をあけた。それから二十日の後、米國資本家は州知事の彼を相手取つて莫大な損害賠償を要求して來たが、彼は即座にそれを承諾した。

「よろしい。——が、しかし、問題を調停局に持出しもせずロックアウトした資本家は、一切の使用労働者に對して、三ヶ月づゝの賃銀を支拂はねばならないといふ我國の新憲法をお忘れになつたと見えますな。よろしい、御要求の損害賠償は支拂ひませう。しかしそれをお拂ひする

となると、貴下は五六千人の鑛夫一人毎に三ヶ月分の賃銀を前金で渡さなければなりません」この一言に縮み上がった大資本家は即座に要求を引込め、更に留守中の二十日分の賃銀を拂つたので忽ち問題は解決した。その後この資本家が五萬圓の巨費を投じて鑛夫の子供等のために學校を建て、プールまで作つてやつたことは、立派に知事カイエスの勝利を裏書するものである。

その他彼の治績は澤山あるが、就中最もカイエスに相應はしい事業は孤兒を收容する有名なエルモシロ授産學校の創立であつた。彼は連年の革命戦亂に多數の婦女や孤兒が悲惨な状態に陥つてゐるのを見るに忍びず、三日間アグア・プリエタ全市の商人に慈善營業を命じ、その収益全部と一般の寄附を一緒にして建てたのがこの學校である。カイエスはその慈父の様な温顔を度々學校の手工場に現はし、孤兒達の不手際な編物や細工物に心から感心して見せた。身寄りのないこの孤兒達が、今でも彼を「パパ・カイエス」と呼んで慕つてゐるのも不思議はない。

やがて、彼が中央政界に乗出すべき機會は來た。知事の地位に在ること一年餘、一九一九年同志カランザ大統領の下に商工労働大臣として始めて入閣した。が、カランザが當初宣誓した政策を實行しなかつたので斷然彼と袂を分ち、「ソノラの三人組」と稱せられるオブレゴン、アドルフ・オ・デ・ラ・ウエルタと彼カイエスは協力してカランザ政府を顛覆した。

一九二〇年の十二月オブレゴンの正式大統領に當選するまでは、ウエルタ臨時大統領の下に陸相となり、オブレゴンが就任するや首相兼内相として極力墨西哥の平和と進歩のために働いた。此の間不平を抱いて叛亂を起したデ・ラ・ウエルタを追ひ、オブレゴン大統領をして無事に任期を終らせたのも彼であつた。

墨西哥の憲法は大統領の重任を許さないので、オブレゴンは任期終るやカイエスを次期の大統領候補に挙げ、政權は平和裡に彼の手に移されたのであるが、今年の改選にはカイエスが辭して再びオブレゴンが當選することは間違ひないと言はれてゐる。

オブレゴン——カイエスの治世が如何に人心を得てゐるかば之れによつて充分窺ふことが出來やう。

四 革命家の基督を目標に

噴火山上に躍るが如き墨西哥の政局は、新任労働大統領の前に幾多の困難なる事業を山積してゐた。

その中でも彼が最初に手をつけたのは年來の宿志である教育國策であつた。

メキシコ人は、不幸にして多年専制政治の壓抑の下に盲目とされ、一千五百萬の人口の中無學文盲の者は實に六割二分の多數に達するといふ有様であつた。しかも學校の設備は、二百七十五萬の學齡兒童に對して僅に三分の一の百萬人しか收容出來ない。そこで彼は英斷を以て豫算の四割を教育費に投じ、公立學校を三千に増設して二百五十萬の兒童を收容し、他に四千七百の實業補習學校を國內到る處に設けてデモクラシーの普及と産業の振興を圖つた。その豫算額は實に十二年以前デアズ大統領時代の七倍の巨額に達した。

豫算の五割六割を軍事費に投じて惜まない國家は決して少くはあるまいが、彼カイエスの勇氣を眞似得る「文明國」は果して幾つあるだらうか？ この教育こそは、彼にとつては新しい宗教であり、實に無産階級の平和的武器だつたのである。

メキシコの天然資源、殊に銀、銅、石油等の豊富なことは早くから資本主義國の眼をつける所となり、それが前後四百餘年の間外國人に壟斷されて來たことは確にメキシコの悲劇の大きい原因である。これに對して國民の國權恢復熱が昂り、「一切の天然資源を國民の有となす」といふ有名な一九一七年の新憲法が生れたことはいかにも當然な成行である。カイエスはこの新憲法を勵行して極力「失はれたる利權」の回収につとめてゐるが、中にも現に世界の注目の焦點となつてゐる

るのは外國人に石油の採掘を禁じた有名な石油條例である。英米兩國は共に既得權を楯にその無効を主張し、石油帝國主義を現實に中米の天地に展開してゐるが、極力これに抗争して一步も譲らないカイエスの態度は國民から全幅の支持を受けてゐる。

メキシコの内争を激成した點から言へば、外國勢力の侵略に優るとも劣らない禍因はカトリック教會の暴威であつた。

西班牙人のメキシコ征服と同時にこの國に入込んだカトリック教は、文化教育の事業にも貢獻する所は多かつたが、次第に勢力を得るにつれて國內に莫大な無税の土地財産を占有し、國富の大部分をその掌中に握つた。そして僧侶はその傳統的勢力と國民の迷信癖を利用し、遂には説教者の埒を飛びこえて、醫者、警察、教育者、裁判官の仕事までも一手に握り、勢ひの赴く所地主階級と結んで政權をさへ左右するやうになつた。

彼等がどんな横暴を働いて來たかを一寸のぞいて見るならば、先づ第一には信者に對する奉仕勞働と寄附の強制がある。例へば農民は收穫の一割をきまつて教會にまき上げられ、種子を蒔く前には必ず高い料金を拂つて僧侶の御祈禱を受けなければならぬ。家畜でも年に一度は有難いお淨めを受けなければ死んでから天國に行けないといふのだから堪まらない。

かうして搾り上げた國民の膏血は豪奢な大伽藍に化けるか、金銀の姿で羅馬と西班牙に送り出されるかであつた。その額、三百年間に銀だけで實に六十億圓、金は多い年で五百四十萬圓にも達した。

この暴狀に對する反對の聲は早くからあけられ、一八五七年の憲法には教會財産を沒收するといふ規定が出来、一九一七年にはその規定が一層嚴重になつたが、實行がそれに伴はなかつた爲めに、いよいよカイエスがその徹底的解決の衝に當らねばならぬことになつた。

革命家たる彼の行動は頗る端的であつた。先づ公開狀を發して、「僧侶が國法を蹂躪し政府に對して叛逆的行動をとる以上は斷乎たる處置に出る」と警告を與へたが、彼等が一層公然と反抗の氣勢を示したので、一昨年七月新に宗教法を制定して斷然一切の教會の財産を沒收し、教育その他の事業から手を切らせ、苟くも反抗を試みた僧侶は一人残らず國外に放逐してしまつた。

その反動として國內は可成り動搖を來し、去年の夏にも全國に亘る流血の宗教騒動を捲き起したほどであるが、彼の斷乎たる政策は迷妄積弱の墨西哥を建直して有力なる近代國家の班に列せしむべき偉大なる貢獻であると斷ずることが出来やう。

意志の強固さを示す秀でたその額、炯々として人を射る眼光、たかい鼻、濃い髯の下に据わつた

強さうな顎、ガツシリした肩、——中背ですべてが頑丈作りな彼カイエスも、一度その豊かな頬を緩めれば、全體の感じが無邪氣な小兒らしいお人好しに變つてしまふ。

この慈父の如き革命政治家が、嘗ての大統領選挙戦に臨んで、全身をふるはせ、顔面を硬ばらせて怒號叱咤した時の壯絶な一情景は、永く國民の忘れ得ない記憶となつた。それはある演説會で、カトリック信者の婦人連の聴衆が、金切聲をはり上げて

「王なるキリスト萬歳！」

と叫んだ時である。カイエスはその妨害をもとせず、十倍も大きい聲で絶叫した。

「革命家のキリスト萬歳！ 王様のキリストは駄目だ、大工のキリスト萬歳！ 貧乏人と苦しむ者の友、飢ゑた者と家無き者の味方キリスト萬歳！」

墨西哥のリンコロンと稱せられる彼の信念は、たゞこの一つの絶叫につきてゐるのである。

西班牙の獨裁官プリモ・デ・リヴェラ

一 無血の革命

今から五年以前一九二三年の九月は、日本では忘れもせぬ大震災のあつた月であるが、その月十三日には海を距てた歐洲の一角西班牙に於ても突如未曾有の大地震に襲はれた。が、それは地殻の變動から起つた物理的地震ではなくて、政界の變動から突發した政治的大地震——即ちドン・ミゲル・プリモ・デ・リヴェラ將軍のクーデターである。

彼はその當時東北佛蘭西境に近い革命運動の中心地カタロニア州バルセロナの軍團長に左遷されてゐたが、秕政百出腐敗その極に達した文官政府を倒壊し、實力を以て政權を奪取しやうとの計畫を秘密の裡に進めてゐた。

時のマドリッド政府は、首相アルヒュセマスと外相アルバの二人がその實權を握つてゐたが、中にも外相アルバは群疑に包まれ國民指彈的となつてゐた悪辣なる利權政治屋であつた。西班牙が國帑を傾け幾萬の生靈を犠牲に敢行したモロッコ討伐の戦績いよく芳しくなくなるに反して、彼は益々私財をふやし一層人眼を驚かす豪華な生活をしてゐたので、心ある者は必ず背後に重大な賣國奴行爲があるに違ひないと睨んでゐたが、絶世の美貌をもつて有名なアルバ夫人はダイヤモンドや巴里最新流行の粹を装つて社交界に女王の如く君臨し、近く開かれる宮廷の宴會に招かれるといふので貴婦人間でもまた喧しい問題の種となつてゐた。

モロッコ遠征の不評判は遂に議會の問題となり、アルヒュセマス内閣の進退は政界注視的となつてゐた。デ・リヴェラ將軍がクーデターの火蓋を切つたのはこの時である。

彼は九月十三日、一隊の手兵を率ゐて長驅バルセロナから首都マドリッドに進入した。かねて命令一下を待つてゐた軍隊は直に彼に策應し、政廳と議會は疾風の如く包圍され、首相以下數名の閣僚有力な政治家は一網打盡に逮捕された。寵臣を引具して佛蘭西國境に近いサン・セバスチアンの離宮に遊樂三昧の日を送つてゐた皇帝アルフォンゾ十三世は、飛報に接して倉皇マドリッドに歸還されたが、その時既に帝都は戒嚴令が布かれ、アルヒュセマス首相以下が悉く檻禁された後であつた。

彼がこのクーデターを敢行したについては、事前に皇帝の諒解があつたともいはれてゐる。そ

それはその年六月參謀總長カヴァルカンチ將軍は「事を擧げるには少くも皇帝から暗黙の御支持を受けて置かなくては不得策だ」と忠告した事實から想像された事であるが、それは兎に角マドリッド進入に先だちサラゴツサ總督やマドリッド知事は彼に諒解を與へてゐたから、彼はたゞ特別列車に全速力をかけて顔を出しさへすればいゝやうに手筈が整つてゐたのである。

首相を檻禁すると同時に、麾下の軍隊は外相アルバの逮捕に躍起となつたが、彼は既に重要書類を携へて國外に逃亡した後であつた。彼の罪條として擧げられた主なるものは、モロッコ、リフ西部の酋長ライスリが叛魁アブデル・クリムと氣脈を通じてゐるのを承知の上でライスリへの懐柔費二百ベセタを一躍十倍に増加した事、煙草の密輸入者かくまつて莫大な賄賂をとつた事、西班牙領モロッコに佛國の武器密輸入を斡旋してコムミッションを取つた事等で、當時の政治家の腐敗が如何に膏毛に入つてゐたか窺はれやう。で、アルバの一味を始めとして、身以後暗い覺えのある政治家軍人は續々として國外に逃亡したが、將軍は直に軍隊を國境に急派したので、途中で逮捕投獄された者も少くなかつた。

慌たゞしい皇帝の歸還を迎へた將軍は直ちに謁見して國家の非常状態にあることを上奏し、正當な内閣が組織せられ、選挙が公正に執行されるまで自分が責任を以て國政を擔當すべき旨を言

上して、先づ三ヶ月間の絶対執政権を要求した。

皇帝は周圍の狀勢已むを得ずとなし、遂にその上奏を容れて彼に政權を委ねた。デ・リヴェラは直ちに憲法の停止、議會の解散を斷行し、十名の陸海軍大將を以て臨時執政政府を組織し、外務と國防以外の各省を一舉に廢止してしまつた。

かくて伊太利のムツソリニと並び稱せられるプリモ・デ・リヴェラは一滴の流血を見ずして西班牙の獨裁執政官となりおほせたのである。

二 革命の前景

憲法を停止し、議會を解散し、殆ど一切の立憲的自由を國民から奪つたプリモ・デ・リヴェラ將軍の獨裁に對して、蹂躪された一般國民既成の諸政黨はどんな態度を執つたか？ それを見る前當時西班牙の政界、國情がどうであつたかを一瞥しておく必要がある。

先づ第一に驚く事は、二千二百萬の國民中（滿六歳以下を除いて）四割六分までが無學文盲で教育を受けない兒童だけでも三百萬人以上あるといふ事である。國內縱横に山脈が交錯し、各地方が小さく分立してゐるといふ地勢上の關係もあらうが、一般に政治智識の低い事夥しく、投票

の賣買などは公々然として行はれ、議會は有權者ばかりでなく當の議員達さへ遊戯場位にしか心得てゐないといふ有様。

保守、自由の兩黨はこの低級腐敗せる選舉民を足臺にして政權のたらひ廻しを續け、利權の獲得には血眼になるが、國政に對しては一向冷淡なものであつた。

それに西班牙には、デ・リヴェラ將軍の出現まで十九年間に亘りユンタスと稱する軍閥の秘密結社があつて、實力を擁して常に政界に嘴を容れる。その干渉によつて内閣は幾度も更迭され、思ひ切つて解散させやうとでもすれば反つてその人が辭職しなければならぬ羽目に陥れられた。ラシールヴァ首相(ユンタスの横暴を馴致した最初の責任者)は、この軍閥の一味に「國防經濟同盟」といふ名をつけて自己のために利用しやうとしたが、後ではその横暴に手を焼きなんとかして勢力を取上げやうと畫策してゐたが、突然軍服を着た四人の逞しい將校に襲はれ首相官邸の窓から投げ出されるといふ事件が持上がった程である。事實西班牙にはマドリッド政府以外に隠然たる軍閥政府があつて、それがいつも睨み合の狀態を續けてゐたのだ。

しかし更に悪い事には、財政が極端に紊亂してゐた事である。世界大戰に中立したお蔭で十億以上の金が落ち、一時は素晴らしい成金國になつたが、間もなく戦後の不景氣風は容赦なく吹き

まくり、財政は毎年々々莫大な歳入不足を告げるばかり、それがために一九一七年以來内閣の更迭する事二十回に及び、中にはたつた四五日の壽命で倒れたものさへある。首相にして暗殺されたものが、最近だけでもカナレアスとダトーの二人を數へ得る程政界の空氣は險惡であつた。

所がこの財政難を招來したには相當の理由がある。それは西班牙の瘡と稱せられたモロッコ遠征の難事業である。

モロッコの一角は、ラテン・アメリカとフリッピンを失ひ往年の植民帝國の國威を墜とした西班牙にとつては、残された唯一の海外領土である。この西班牙領はリフと稱し、人口僅六十萬の小面積で、東西に二人の酋長が頑張つてゐる。

西部の酋長はエル・ライスリといふ有名な山賊上がり、もう一人はアブデル・クリムといつて、これは立派にマドリッド大學を卒業した智識階級でメリナの高等法院判事をも勤め、士民間に非常な勢力をもつた傑物である。世界大戰に際して獨逸に通じたといふので、總督は佛蘭西に對する氣兼ねから免職して獄に投じた。

所が間もなく、彼は奮然脱獄して西班牙に叛旗を翻へした。西班牙政府は總督にその討伐を命じたが、討伐どころか叛軍の勢ひ頗る頑強で、一九二一年七月討伐軍は全滅の憂目にあひ、更に

本國から増遣された一萬人の軍隊もまた返り討に散々な目にあつた。この失敗はかつて英軍がスーダンのカルツームに敗れ、伊太利軍がアドアの一戦にアビシニア人のために一敗地に塗れた以来の大屈辱なので國內は文字通りに鼎沸した。所が段々調べて見るとアルバ外相の賣國奴事件を始め、兵站部内には不正事件が山積し、皇帝さへも遊蕩費と賭博の資本をとつてゐるやうな噂がたち、土氣頹廢の原因は續々と擧がつて來た。しかも政府と軍閥はお互に罪をなすくり合つて誰もその責任をとらうとする者が無い。裁判になつても戰敗責任者の指揮官の如きは全然無疵で、五六の下級將校がほんのお申譯に重營倉を喰つた位が關の山である。

いくら政治に無關心な國民でもこの腐敗しきつた状態に對してはジツとしてゐる事が出来なくなつた。殊に貴族富豪の子弟は兵役免除税を納めさへすれば生命を的に危険な稼業に出ないで済むといふので、無産階級の間には不平滿々たる際だつたので、この戰敗を導火線として眠れる休火山は俄然活動を開始せねば濟みさうもない形勢になつた。この全國に漲る騒然たる形勢こそ、彼デ・リヴェラ將軍の進出に誘ひをかけた革命の前景だつたのである。

三 没自由郷

デ・リヴェラ將軍の獨裁政治が樹立されるや、貴族資本家の走狗保守黨が欣喜雀躍した事は言ふまでもない。しかし自由黨と雖も、自分の過去を顧みれば大きな口を利ける道理もない。で、首領ロマノネスの宣言に従つて、「敵意はもたない、その代り支持もしない」といふ不徹底な態度をとるより外はなかつた。

ある者は軍人の獨裁政治を全速力で走る自轉車にたとへ、「走つてゐる間は結構だが、危険なのは停つた時だ」批評した。しかし、表向き敢然と彼に反抗し得た政黨は一つだつてなかつた。

國民の中には、心の底から彼を謳歌しなかつた者は相當あつたに違ひない。しかし最悪な場合でも、沈黙の期待が彼を待つてゐた事は事實だ。「彼の成功が何故かく易々と獲得されたか、それは「時がさうさせたのだ」といふ答へを以てと先づ充分だ。彼も明かに時代の生める風雲兒である。しかしもう一つ彼の成功を容易ならしめた要因は、國民の良心と批判の自由を有効に奪つたといふ、彼の人爲的手段に歸せねばならない。その最も好適な例は言論機關に對する徹底的彈壓であ

る。

彼は政權を掌握すると同時に、國內新聞に對する檢閲を極度に嚴重にし、苟くも政府に不利な記事批評を掲げ、或は共產主義、サンヂカリズムの宣傳をなす新聞は虱潰しに發賣禁止を命じて嚴罰に處した。

現に多くの反對派新聞は、論說欄や雜報欄に「政府檢閲」といふ斷りだけをのせて全然空白の儘で印刷してゐるものが多い。同國一流のジャーナリスト、ウナムノの如きは南米の或る新聞に政府攻撃の論文をのせたといふ廉で直に追放された。

獨裁政府は爾來自國新聞だけでは安心が出来ぬか外國の新聞にまで檢閲の眼を光らせ、先づ隣國の佛蘭西新聞に對して輸入禁止の處分をなし、續いて英國、^{ポルトガル}葡萄牙、伊太利、モロッコの各新聞の國內搬入を禁止した。

そこで苟くも西班牙國民たるものは、新聞の「空白透視法」といつたやうな神通力を發見するか、直接記者をつかまへて聞き出しでもしなければ政局の真相などは一切お先眞つ暗といふことになつてしまつた。

社會の鏡となつて正しき報道を讀者に供給すべき新聞紙の任務もこれでは全く臺無しである。

だから新聞は益々賣れなくなつて行く。新聞社の經營は苦しくなつて來るとう／＼マドリッドの記者協會が「これでは新聞記者の失業者が殖えるばかりだから、もう少し檢閲を手心していただきたい」と哀訴嘆願したといふ、笑へない悲喜劇が演ぜられた程である

もう一つこんな話がある。或る新聞に「デ・リヴェラ將軍は大酒呑だ」といふ記事が出た。政府の檢閲も大分緩和されたたと讀者の方で眼をみはつてゐる矢先に、堂々たる聲明書が首相秘書官の名によつて發表された。曰く

「某紙は過日首相の嗜好について不都合極まる冒瀆を敢てしたが、事實首相は今日まで一滴の葡萄酒をも口にしたる事なく、況んやウイスキーその他の強烈なる酒類に於てをやである。國民はこの實例に見ても新聞紙には如何に虚報が多く、特に政府反對黨が如何に中傷に熱中しつゝあるかを知り得るであらう」と。

デ・リヴェラ將軍が西班牙でも有數な葡萄酒醸造元の豪家に生れ、その左遷時代悶々の情を自暴酒にやつた事などはおくびにも出さない所こそ、獨裁政府の如何に「公明正大」であるかを裏書してゐるやうなものだ。

兎に角、こんな些細な事にまで神經を尖らせる所を見れば、デ・リヴェラ獨裁政府の新聞取締が

如何に辛辣なものであるか窺はれやう。これは廣く新聞の本質的職能といふ根本的問題から考へて見ても、現在に於ける日本諸新聞の地位と政府の言論政策といふ観点から見ても、頗る興味ある問題である。特に西班牙の國民、即ち讀者の側が積極的に新聞の職能を指示し、それに批判と撰擇を加へてゐる點は、非常に興味ある示唆を興へるであらう。その式要は、*「この式要は、新聞の職能を指示し、それに批判と撰擇を加へてゐる點は、非常に興味ある示唆を興へるであらう。」*

ちよつと横道に外れたが、さて「この葡萄酒一滴も飲んだ事のない」デ・リヴェラ將軍がどんな生立を経て來たか、この邊で舞臺を南歐の陽ほがらかなアンダルシアのあたりに持つて行かう

四 アンダルシア氣質

デ・リヴェラ將軍は一口に西班牙のムツソリニと呼ばれるが、その反動主義と行き方に於ては非常に類似點が多いが、その生立に至つては鍛冶屋の悴で左官職上りのムツソリニとは雲泥の差がある。またその極端な武斷主義に至つては、ケマル・パシャと同じ一介の武辯上りである彼の方が確かにムツソリニよりも一枚上のやうである。

彼の生れたのは一八七一年であるから、今年に正に五十八歳油の乗切つた働き盛りである。生れ故郷は南部西班牙、「セヴィラの理髮師」で我々の耳に親しいアンダルシア州のセヴィラ、舊

くからの家柄で有名なイエレッツの豪族で、先祖代々傳はつた廣大な葡萄園は一望涯しもなく打續き、年々の葡萄酒醸造高は國內でも一二を争ふ程の大身代である。

アンダルシア人と言へば、華やかな熱情と輕快な氣質をもつた南歐ラテン人中でも最も代表的な種族で、西班牙名物の闘牛士の殆どすべてがアンダルシア生れであるのも偶然ではない。

生粹のアンダシルアつ兒デ・リヴェラ將軍の血管には、矢張り生命知らずの闘牛士の血が流れてゐた。身邊の危険をなんとも思はないのは生れつきで、彼は其の上人一倍傲岸な自負心をもつてゐた。大奈翁は「朕の辭書には不可能といふ文字はない」と豪語したが、彼もまた「自分に解決の出來ぬ問題があつたらお目にかゝりたい」と平素口癖のやうに言つてゐた。

家の傳統に従つて小學校を卒へると直ぐ軍隊に入り、始めは當時フィリッピン總督の要職にあつた叔父のエストレラ侯フェルナンド・プリモ・デ・リヴェラの麾下に入つた。この叔父といふのは誠忠無二の勤王黨の旗頭で、今日の立憲君主制は一八七四年彼が主動者の一人となつて起したクーデターの結果始めて樹立されたものであり、當時王黨軍閥の大御所として國內に重きをなしてゐた人物である。(彼は叔父の没後襲爵して現にエストレラ侯となつてゐる)

この叔父の御威光も手傳ひ昇進はトン／＼拍子に行つて、世界大戰の時には早くも少壯將官と

して英國軍司令部附の觀戰武官になつてゐた。

が、彼が始めて政界の注目を惹くやうになつたのは、大戰後歸國してカヂツの軍團長に任命されて以來の事である。彼は、當時政府がモロッコ討伐に散々手古摺つてゐるのを齒がゆく思ひ、「戰略上不必要な領土の爲に多大の犠牲を拂ふよりも、モロッコのセウタを英國に與へ、その代償として地中海の入口を扼する要害ジブロールタを英國より回收すべきである」といふ主張を公にした。政府は足下から起つたこのモロッコ撤退論に周章狼狽し、一方英國に對する申譯の意味もあつて、斷然彼に軍籍剝奪の處分を加へた。

しかし叔父の威光や友人の取なしのお蔭で間もなく復活し、今度は首都マドリッドの軍團長に任命され、次で元老院の議員にも兼任された。

けれども彼は依然としてモロッコ撤退論を翻へさないものだから、政府も手古摺つて今度は分離派の根據地、革命黨や共產主義の巢窟として物騒千萬なバルセロナの軍團長に左遷した。政府の肚では、いゝ鹽梅に暗殺でもされて呉れゝばぐらゐに思つてゐたらしい。現に軍團長が二人までも刺客の手にかゝつて横死を遂げた程の土地柄だから――

果せる哉彼は度々襲はれた。或る時は自動車の外から短刀を突刺された事もあるが不思議と負傷は免れた。が、元來こんな事でへこむ男ではない。彼は持前のアンダルシアつ兒氣質を發揮して、逆にピシ／＼と高壓政策を執り、忽ちの中に過激分子を屏息させてしまつた。

五 西班牙の救世主

偶々モロッコに於ける西班牙軍司令官セルヴェステス將軍がリフ族の爲に潰敗を喫し、國內の混亂收拾し難い状態に達したので、彼は「よし、我輩の腕によつて國家の名譽を恢復して見せる」と豪語して起つたのであつた。

だから、獨裁執政府の第一に着手せねばならぬ事業は、モロッコ問題の解決を描いて他にない彼はモロッコ撤退論を弊履の如く棄て、二十年來の癌と稱せられ、何人も躊躇逡巡するこの難局に敢然として挺身せん事を誓つた。

一年間は首府に留まつて遠征軍を指揮してゐたが、戦績は依然として芳しくない。遂に一九二四年の九月、皇帝に請うて自らモロッコ遠征軍の總司令官に就任し、本營をテチユアンに移して親しく全軍の統督に當つた。

しかし負け運のついた戦は人間の力では如何ともし難い。デ・リヴェラ將軍如何に躍起となつ

でも麾下の軍隊は敗退に敗退を重ね、死傷、捕虜等の損害夥しく、折角意氣揚々としてやつて来た彼の面目玉は丸潰れとなつてしまつた。

けれども彼は胸中ひそかに期する所があり、海岸寄りの狭い地帯——俗にプリモ・デ・リヴェラ線——に戦線を縮少し、この線内に在つて陰忍時機の到来を待つ事に作戦を変更した。本國に於ける政敵はこの形勢を見て手を拍つて喜んだ。

「リフ族は恐ろしい繩となつてデ・リヴェラの首に捲きついてゐる。魔の國阿弗利加の沙漠の中で我が獨裁執政官の名譽ある最後を見るのも遠くはあるまい」と皮肉つた。

とは言へ、其遠征の虚を狙つて獨裁政治倒壊の旗擧げをなす程の氣力ある人間も出て來なかつた。それは今彼を仆した所で、結局モロッコ問題を背負ひ込まれるのが落ちだから、それよりも投つておいて彼の自滅を待つ方が賢明だといふ怯懦な日和見主義者ばかりだつたからである。

所が待てば海路の日和で、モロッコの形勢は俄然お誂へ向に變じて來た。それは叛魁アブデル・クリムが騎虎の勢ひに乗じて、お隣の佛軍陣地にまで再三猛襲を浴せかけた結果である。

由來モロッコに於ける佛西兩軍は頗る仲が悪く、一九二一年相互の勢力範圍を劃定して以來、圓滿な協調は一度も成立しない。佛軍は直ぐ眼の前で西班牙軍が散々な眼にあつてゐるのを、ど

こを風が吹くと言つたやうな顔をして眺めてゐたものだ。

所が火の子が自家頭上にも落ちて來るに及んではもはや黙つてゐられない。一九二五年七月ヴエルダンの勇將ペタン元帥と彼はテチュアンの西班牙軍司令部で會見し、佛西兩軍協同作戰の協定は調印された。佛西聯合軍はモロッコ海岸に強行上陸を執行してリフ族の陣地を強襲し、一昨年春には遂に叛魁アブデル・クリムを俘虜としたので、さしにも頑強を極めたリフ族の叛亂も全く鎮壓されたのである。(俘虜となつたアブデル・クリムは其の後亞弗利加東南印度洋中の佛領レユニオン島に流された)

モロッコ問題の解決は政黨政派を超越した國家的問題だつたので、今までその成否を危んでゐた國民も俄かに彼を救世主のやうに謳歌し始めた。その白熱的な人氣の前には反對黨の姑息な蠢動などは一たまりもなく消し飛んでしまつた。そして獨裁政治は皇帝の勅許のもとに更に延長される事になつたのである。

彼が意氣揚々として首都に凱旋した時の事であつた。帝都の市民は大歡迎會を開き、この戦勝に因んで、將軍をリフ公爵に昇爵されるやう皇帝に請願する決議が満場一致で通過した。

その時彼は謙讓な態度で壇上に現れ、市民の好意を謝した後徐ろにかう言つた。

「諸君、この決議案は誠に辱けないが、上奏はこのデ・リヴェラが死ぬまで見合はせていたよ
きたい。私は名譽とか肩書とかそんな野心は微塵もない。たゞ私が死んだ後、苔蒸す墓に詣で、
呉れる國民に『西班牙を救つたのはこの男だ』とたゞ一言いつていたよきたいのだ。私の望はた
ゞそれだけである」と。

熱狂的な拍手はしばし鳴もやまなかつた。

モロッコ討伐の成功がもはや時間の問題となつた一九二五年には、彼は早くも眼を内政改革の
方に向け直してゐた。

執政府成立以來、彼が矢繼早に斷行した改革は實に多方面に亘つてゐるが、その最も重要なも
のの一つは、地方政治に於て選舉を全廢し、專制的な任官制度を採つた事である。これは買收選
舉が到底民意を代表し得ない茶番狂言に過ぎないためと、無暗に冗官が多くて官吏は怠惰を極め
役所は煙草を喫む時と政商と利權の取引をする時以外には滅多にのぞいても見ないといふ多年の
惡弊を一掃せんがため、いはゞ毒を以て毒を制する流の改革であつた。しかし多年の積弊は一
朝にして改まるべくもない。親の心子知らずで、既に彼の腹心の官吏の中にも不心得者が澤山出
てゐる始末に、流石の凱旋將軍もこの頃は些か苦り切つてゐる。

次には軍隊の縮少である。彼は軍閥の勢力を土臺としてクーデターを行つたので、當時は色々
の特權を軍閥に約束したものの、モロッコ討伐の成功した今日軍閥の跳梁を放任しておく事は百
害あつて一利ない。そこで彼は前の約束を果さないばかりか、一昨年は大規模な改革の實行に着
手したので果然軍閥の怨みを買ひ、中にも貴族出身の將校の一番多い砲兵隊はその年六月公然と
叛旗を翻へした。これには九十歳の坂を越した軍閥の頭目ウエーラー將軍などまで加擔してゐた
が、計畫が中途で漏れたために首謀者は悉く未前に逮捕されてしまつた。

デ・リヴェラ將軍は政權を獲得して後間もなく、三大政綱として豫算の均衡、教育機關の擴張、
モロッコ問題の解決を擧げたが、銳意緊縮に努力した結果例年十億ペセタに上つた歳入不足も二
ヶ年間に三億ペセタに減じ、學校は一擧に三千も増設されて、國民への約束はほとゞ果された。

そこで一九二五年十二月三日、軍事執政府を廢止して文官政府を組織し、彼は改めて首相の印
授を帯びた。が、これは形の上だけの事で、今までの獨裁政治と何等實質的に異なる所はない。彼
が正當なる立憲政府が樹立された曉政權を讓渡する爲と稱し、伊太利のファツシヨにならつて組
織した「愛國同盟」の幹部が、揃つてこの新内閣の重要な椅子を與へられてゐる一事を以て見て
も、その正體は明かであらう。

六 分離派地獄

國政の荒療治はこれで一段落ついたやうに見える。が、西班牙にとつてはもう一つ古い因縁をもつた厄介な問題が残つてゐる。それはカタルニア地方の分離運動である。

カタルニアといふのは國の東北隅佛蘭西國境に接する地方で、バルセロナ、ゲロナ、レリダ、タルラゴナの四州を含んでゐる。

この地方は國內の他の部分とは全く違つた言語と文化傳統を有し、人種的には南部佛蘭西の住民に近いが、ピレネー山脈の嶮に阻まれてゐるので西班牙に屬して今日に至つてゐる。古くから幾度か獨立の旗擧をなし「西班牙の愛蘭」と稱せられてゐるが、古來隣接のヴァレシシア州と共にカタルン文明の中心をなし、南部や中央部の人間を野蠻人扱ひにしてゐるばかりでなく、農工業の發達せる事は國內第一で、現に國內産物の六割五分までは此の地方で獨占してゐるといふ程經濟的に優越な地位をもつてゐる。

佛蘭西から汽車で西班牙に入る客が大抵經驗する話であるが、マドリッド行の列車の中で「どちらへお出でですか」と傍らの西班牙人から言葉をかけられた。「私は御國の首府マドリッドへ

參るのです」と答へると、「あゝ、あなたは西班牙にいらつしやるのですね」とやられたといふ。カタルニア人はこれ程ハッキリ自分達の郷土を區別してゐるのである。

で、彼等の獨立熱が昂まれば昂まる程マドリッド政府の壓迫も加はり、かくて反抗と彈壓は競合つてカタルニア地方の形勢はいよゝゝ緊張するばかりであつた。

デ・リヴェラ將軍はクーデター決行の當日まで、この革命陰謀の中心地バルセロナの軍團長を勤めてをり、知事の尻押しをして勞働爭議に大彈壓を加へるなど猛烈な反動政策をとつてゐたために反デ・リヴェラ熱は猛然として此の地方に起り、彼の暗殺計畫や倒閣陰謀はバルセロナを中心として頻出した。

そこで利かぬ氣の彼は、一九一四年から特に此の地方にだけ許されてゐる自治制を斷然とり上げ、更にカタルニア國旗の掲揚、カタルニア語の使用を嚴禁し、一切の政治結社やクラブを解散し、政治上の討論を禁止してしまつた。新聞檢閲の勵行は勿論の事である。

で、若し領事館や外國人所有のビルディング以外の建物で、西班牙國旗以外の國旗を掲揚した者は六週間の禁錮、五百乃至五千ペセタの罰金、分離運動の宣傳をただけでも六ヶ月乃至一年の禁錮、一千乃至一萬ペセタの罰金を課するといふ苛酷な法律を施行した。

言論自由の抑壓は辯護士協會の協議にまでも及び、カタロニア大學で心理學を講じてゐた一白耳義人教授は舌禍を買つて免職された。政府の處置に憤慨した教授學生四千人は、この問題をきつかけに獨立承認の要求を國際聯盟に持ち出したが、聯盟ではカタロニア人を一國內の少數民族とは認めないといふ理由でそれを却下した。最近亡くなつた文豪ブラスコ・イバニエスの如きも獨裁政治を攻撃したといふので財産を沒收され佛蘭西に亡命してゐたのであるが、彼は分離運動の大立物であり共和派の有力なる闘士であつたから、西班牙人としては當然過ぎる運命であらう。

この徹底的彈壓の結果は反つて急進的な獨立派と、溫健なる自治派とに提携の機會を與へ、カタロニアに潜伏する者と國外に追放された者とは絶えず連絡をとつて陰謀を策してゐるが、一昨年十一月には革命派の首領フランシス・マキアの率ゐる一隊が國境を越えて侵入せんとした。これは事前に發覺して大事には至らなかつたが、去年の十月末にはイバニエスとその同志ベンツラ・ガツセルの指揮する千五百の共和黨員が國境を突破して旗擧をしやうとしてゐるといふ報道があつた。巴里に於て國王を暗殺しやうとしたのもこの一派であつた。

彼等の目的はカタロニアの分離獨立を圖る前に、先づ獨裁政府の打倒を目差してゐる。

デ・リヴェラ將軍が、この愛蘭問題以上に險惡な「西班牙の愛蘭問題」を如何に解決するか？

それは今後も直接彼の政治的生命を左右する問題であるだけ充分注目して置く必要がある。

七 獨裁政治のレーゾン・デートル

デ・リヴェラ將軍の獨裁政治はムツソリニの模倣ではないといふ事は、その外交政策の方面から觀れば最も明瞭に首肯されるやうである。その一番よい例は最近のタンジール問題だ。

タンジールはモロッコの西北端に位し、西班牙海岸の英領ジブラールタと相對して地中海の咽喉を扼するモロッコ唯一の良港で、一九二三年以來英佛西三國間の協定によつて國際管理地域となつてゐる。西班牙はこれに満足せずその人口の三分の二が西班牙人である事と、大戰中中立を守つた報酬としてこの地域の委任統治を要求してゐるのであるが、現に實權を握る佛國は勿論手を引かうとはしないし、英國も亦特定の一國に占有させる事を喜ばないために、此の「西班牙のフューメ問題」は依然としてその儘取残されてゐる。

もし彼の獨裁政治が、ムツソリニの夫の如く鬱勃たる帝國主義的野望の體現であるとするれば、一昨年の如く聯盟の常任理事席振當の交換條件とするやうな態度には出ず（西班牙はその要求が容れられないので結局聯盟を脱退した）、武力占領の直接行動にまで出たかも知れないが、實は

相手が儼然たる強國であるがためばかりでなく、西班牙は數世紀に亘る苦い經驗から帝國主義的野心の苦杯は満喫してゐるのである。

一八九八年米西戦争に阿弗利加以外の最後の殖民地を奪はれ、嘗ては葡萄牙と共に世界を二分した黄金時代の夢も醒め果て、から、國力不相應な侵略主義はフツツリと思ひ切り、只管文化的經濟的發展によつて國力の増進を圖らねばならぬ事を覺つてゐる。

伊西間の新仲裁修好條約が傳統的反目の間柄にある佛國を緊張せしめ、地中海問題、モロッコ問題に多少の影響を與へる事は當然であらうが、それも比較的消極的な形式に限られ、フアツシヨ治下の伊太利外交が全歐州的な波瀾を捲き起しつゝあるのと同日の談ではない。

内治外交が次第に整つて來たので、彼は再三議會の復活再開を聲明し、その都度口實を設けては實施を延期して來たが、昨年十月十日に至り、新憲法の制定を主要の目的として首府マドリツドに國民議會なるものが召集された。

デ・リヴェラ將軍は、議員は國民の全産業、全職業、全階級に亘つてその各部門を代表する者を公平に選定任命したと言つてゐるが、その實彼の配下の「愛國同盟」黨員の中から政府が勝手に任命したお味方議員ばかりで、名前こそ議會であるが實際は純然たる政府の諮問機關に過ぎず、

反對黨のない議場で立憲議會まがひのお太鼓を叩かせやうといふ仕組は、ムツソリニが總選舉で一票の差ででも第一黨になつた多數黨(勿論フアツシヨ黨)に三分の二の絶對多數を與へたよりももつと露骨な手段である。

所がその議事法なるものが更に振つてゐる。すべてが軍隊式で、一切の議案は三時間以内に可決すべし、議員の演説は一律に二十分間、訂正をなす者には特に十分間を與へる、答辯を與へると與へざるとは政府の勝手たるべき事、且つ政府は可決された議案を無効とする權利を有するといふのだから、口を動かすだけが草臥れ儲けといふ恐ろしく珍妙な議會ごつこである。この分では國民議會の主目的である新憲法もいつになつたら出來上がるものやら、デ・リヴェラ將軍が頭を縦に振らない以上は死ぬまで待たなければ立憲政治の恢復は見込ないかも知れない。

しかしこの反動的獨裁政治も既に四年半の壽命を保つた。デ・リヴェラ將軍は一九二五年九月國民議會要望の聲を聞くために施行した人民投票の結果をあげて、「國民の九割九分まで現政府を支持してゐる」と豪語してゐる。(が、それは國民議會の召集を要求する者だけが賛成署名をする仕組で、眞の人民投票でないといふ事實は隠されてゐる)

國民の有識者は「それは手錠をかけ、猿轡をはめて置いて、沈黙は同意の證據だと強辯するや

うなものだ」と抗議してゐる。國內にも反政府運動は相當にあるが、軍隊の勢力を握つてゐる獨裁政府は今の所貧乏搖ぎもしない。

若し彼がいつかは没落の日に遇ふべきものとしても、この一個の感銘だけは永久に國民の腦裡に刻みつけるであらう、——自由に値しない國民は、自ら没自由の境に甘んじなければならぬといふ實感を——。

近代的政治進化の原則に逆行せる獨裁政治にも、強いて求めればこれだけの存在の理由はあると言へやう。

ファツシヨ伊太利の礎石ムツソリニ

一 赤い糸黒い糸

「露西亞の共產主義と伊太利のファシズムは双兒の近代的スフィンクスだ」

英國勞働問題の權威ジ・エッチ・コールはかう言つてゐる。また、

「歐羅巴」といふ瀬戸物の主人公は、この二匹のブルドックに噛みつかれては大變だ、店先で喧嘩などおつ始められては大變だと眞蒼になつてゐる」

とも言つた。

これは獨りコールばかりでなく、現に世界一般が抱いてゐる印象と言つてよからう。

一方が極左の赤色運動であるに對し、一方は極右の反動運動であるに拘らず、兩者の間には出發點を同じくしたかと思はれる程の類似點がある。其最も主なる點は佛蘭西革命以來歐米諸國の政體の共通原則となつてゐるデモクラシーを紛碎し、一方は無産階級の、他方はファツシヨの獨

裁政治を實現したことである。デモクラシーを以て近代政治の最高不動の原則と信じ來つた世界國家が驚異の眼をみはり、やがて不安の念を禁じ得なくなつたのは當然の事である。

彼等は國家と個人の相對的關係を根本から一變してしまつた。ソヴェート露西亞は無産階級のみが國家の主權者であるといふ原則を樹立し、ファツシヨ伊太利は「國民は國家の爲に創造されたものに他ならない」といふ一の獨斷的原則から出發してゐる。

ソヴェート露西亞は共產黨の一黨主義を徹底せしめ、黨内にブロックの形勢を許さずとなして反幹部派運動の巨頭トロツキー、カーメネフ、ジノウイエフ以下を黨より除名した程であるが、ファツシヨ伊太利に於ては或る程度まで市民の政治的自由をも認めてゐる。それは社會の進歩は個人の自由からのみ生ずるものだといふ見解に従つてであるが、實は個人に自由を賦與するのは個人がそれを享有する権利を持つが爲めではない、従つて、若し個人に賦與した自由が不要又は有害となれば國家は何時でもこれに干渉制限を加へ、又は全然これを奪ふことも躊躇しないと主張してゐるのであつて、事實伊太利の政治的自由は僅に形骸を残してゐるに過ぎない。「ファシズムは要するに個人のあらゆる種類の活動に對する秩序維持であり、干渉支配である」といふ結論が、かくて公明らしい表現の下に齎されるのである。

抑も伊太利にかうした氣運を醸酵せしめたものは何であるかといふに、第一には伊太利に於けるデモクラシーの無力と無爲をあげなければならぬ。

ムツソリニは議會政治を目して、「その政治形態は餘りに老朽して役に立たない」と斷じたが實際戦前戦後にかけての伊太利議會は十三乃至十七の小黨に分立し、單獨組閣の實力を持つた政黨がないためにブロック・システムの聯立内閣を作り、絶えずその日暮しの慢性不安定症に悩まされてゐた。

こんな具合で政黨交互の牽制作用が利き過ぎるために政治の實績は殆ど擧がらず、選舉干渉、官權濫用、投票買収、暴力團横行といふやうなあらゆる罪惡が無遠慮に行はれ、解散に次ぐに解散を以てして議院政治は益々腐敗墮落するばかりであつた。

加ふるに伊太利は經濟的に甚だ恵まれぬ國で、名こそ戰勝國ではあつたが、戦後の國力疲弊は實に戰敗國にも劣らぬ慘狀を極め、財政の窮乏、産業の沈滞、失業者の續出——滔々として押寄せる社最的の不安は益々階級反感を尖鋭化し、ストライキ、工場占領は病的流行と化し、社會黨サンデカリノト、共產黨の暴動は燎原の火の如く全國に擴がつたが、無力優柔不斷な政府はその勢に氣押されて徒に拱手傍觀するより外はなかつた。

露西亞に次いで、伊太利に赤色革命が起るのはもはや時間のみとなつた。

もし革命の神といふものがあつて、蒼穹の彼方から眼に見えぬ糸を操つてゐるものとするれば、この時まで彼の指にかゝつてゐたのは確に赤い革命の糸であつた。が、どんな風の吹廻しかその赤い糸はブツツリと切れ、神様は、左々と進んで來た途を一氣に廻れ右して、今度はフアツシヨの黒糸を操り始めたのである。

この舞臺に躍る革命の英雄こそ怪傑ベニト・ムツソリニである。

二 勝利の悲哀

フアツシヨの革命は、「カルソとピアヴェ河の英雄時代の精神に還れ」といふ熱烈な叫びの中に育生まれ、二つにしてムツソリニの有名なる「羅馬進軍」となり、大戰の塹壕と血と涙の洗禮を受けた青年闘士達の決死的闘争によつて伊太利の生命は左右されるに至つた。

「塹壕よりの政治」は、かくて大戰前の寡頭政治に屬する諸分子を完全に粉碎したのである。そこで伊太利は如何に世界大戰を戦ひ、愛國の新芽は如何に塹壕の中から萌出て來たかを見なければならぬ。

政局、經濟共に行詰りの混亂に當面しつゝ、伊太利は世界大戰を迎へた。内には社會黨一派の猛烈な參戰反對運動あり、外には三國同盟側と聯合國側と兩方から火の出るやうな引張り合があり、伊太利は迷ひ抜いた揚句、遂に多年の三國同盟を袖にして、開戦後一年の後やつと聯合國側に參加する事に決した。

參戰後に於ける伊太利の活動は頗る眼醒しく、國の割合からすれば聯合國中最大の犠牲を拂ひ最大の仕事を分擔したのは實に伊太利であつた。若しその參戰がもう一ヶ月遅かつたならば、獨逸軍は無人の野を行く如く巴里に肉薄し、英軍の陣地が安定し得ない前に一舉に雌雄を決してしまつたかも知れない。また十月から十一月にかけての總攻撃では奥匈軍を完全に撃破し、獨逸の屈服を非常に早めた功績も伊太利の誇に歸すべきである。

戦線を見渡すと、英佛軍の戦つた西部戦線は茫洋坦々たる一面の平原であるが、伊奥戦線は實に險難中の險難で、その西北三分の一は有名なアルプス山中千古解けざる大氷原が横はり、伊太利軍はその氷の中をダイナマイトでトンネルを穿ちながら慘憺たる塹壕戦を續けた。中央部の三分の一は四千尺から八千尺の山岳戦で、東の三分の一だけがやつと地平線の舞臺であつた。

しかもその戦線の長さは、最も短い時でも西部戦線の二倍半、一番長い時には實に三倍半に達